

# 遠賀町男女共同参画に関する 町民意識調査報告書

令和6年10月

遠賀町



# 目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の性格	1
4. 調査結果利用上の注意	1
II 調査結果	5
1. 男女の地位・役割について	5
(1) 男女の地位の平等感	5
(2) 男は仕事、女は家庭という考え方	14
2. 家庭生活について	16
3. 就労・働き方について	31
(1) 女性が職業をもつことについて	31
(2) 勤めている職場は女性にとって働きやすい職場か	35
(3) 男性が育児休業・介護休業制度を活用することについて	38
(4) 男性の育児休業取得率が低い理由	40
4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活に調和）について	43
5. 地域活動や社会活動への参加について	46
(1) 地域の役職に女性がつく望ましい程度	46
(2) 地域の役職に就くことについて	50
(3) 地域の役職を断る理由	52
6. 防災対策について	54
7. DVについて	57
(1) DVの認知	57
(2) DVの経験	70
(3) DVを受けたことについての相談の有無	74
(4) 相談しなかった理由	76
8. 男女共同参画社会について	78
(1) 施策の要望	78
(2) 男女共同参画に関する言葉・施策の認知	81
9. 男女共同参画に関する意見（自由記述）	84
III 調査結果からみえてくる現状と課題	90
IV 使用した調査票	95



## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

この調査は、「第3次遠賀町男女共同参画社会推進計画（中間見直し）」の策定にあたり、町民の男女共同参画に関する意識を把握し、施策を推進していくうえでの基礎資料を得るために実施した。

### 2. 調査項目

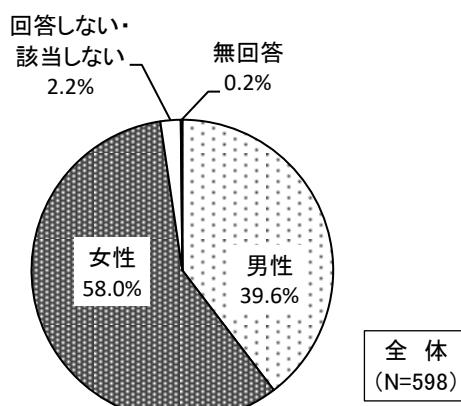
- (1) 男女の地位・役割について
- (2) 家庭生活について
- (3) 就労・働き方について
- (4) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活に調和）について
- (5) 地域活動や社会活動への参加について
- (6) 防災対策について
- (7) DVについて
- (8) 男女共同参画社会について

### 3. 調査の性格

(1) 調査地域	遠賀町内
(2) 調査対象	18歳以上の男女1,500人
(3) 抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
(4) 調査方法	郵送法
(5) 調査期間	令和6年6月5日～6月24日
(6) 回答率	有効回答数598（回答率39.9%）
(7) 調査企画・主体	遠賀町住民課協働人権係
(8) 調査実施機関	特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所
(9) 調査結果の分析とまとめ	武藤 桐子 (特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所理事)

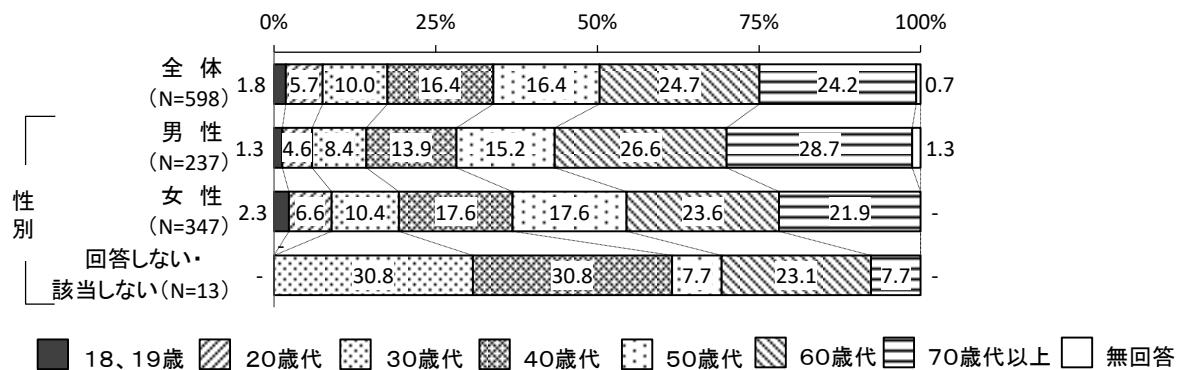
### 4. 回答者の属性

#### ◆ 性別

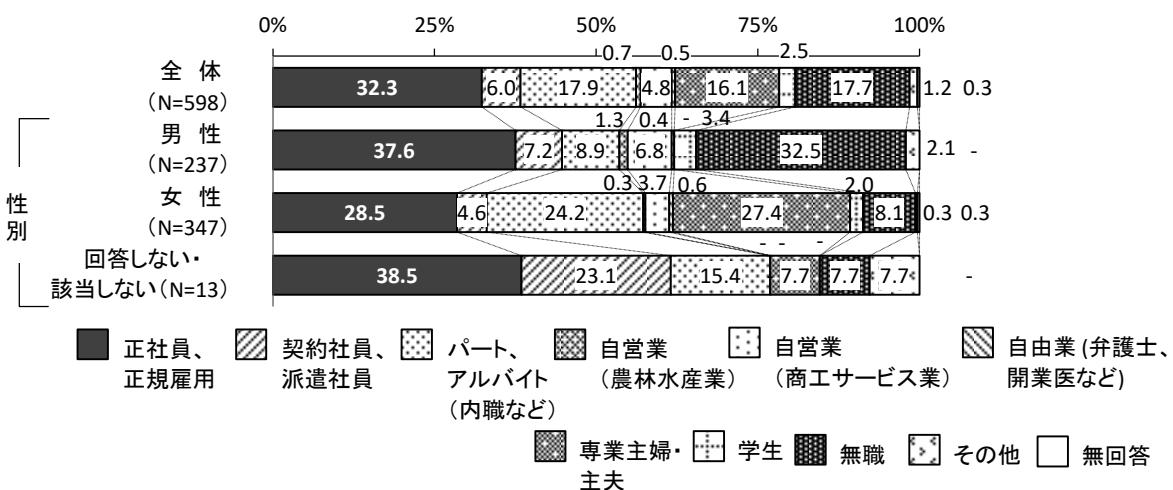


## I 調査の概要

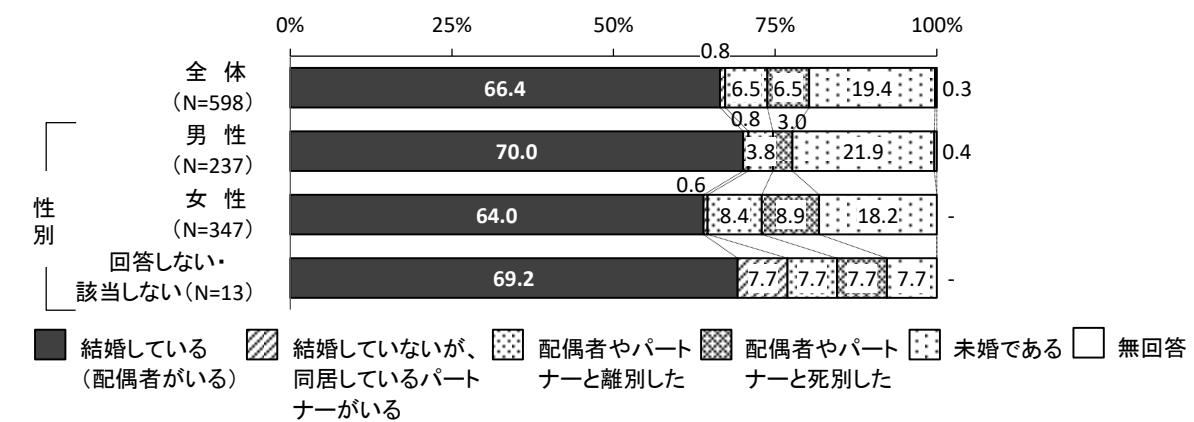
### ◆ 年齢



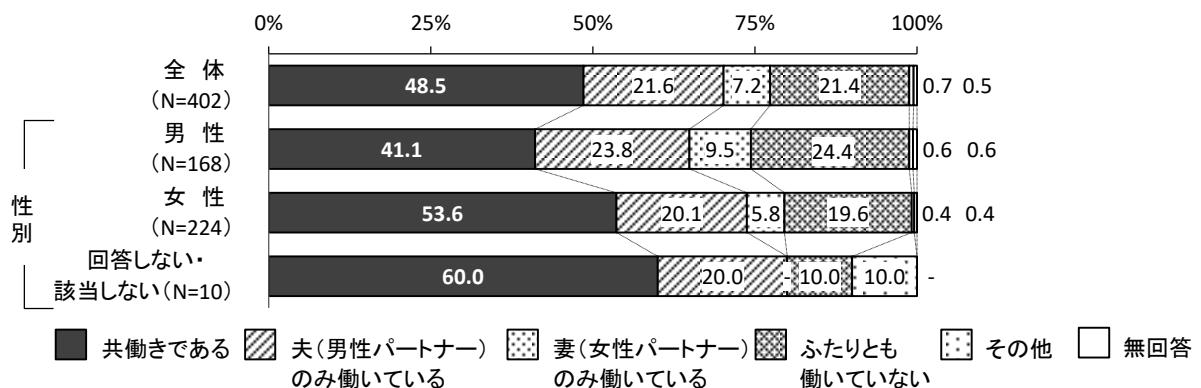
### ◆ 職業・職種



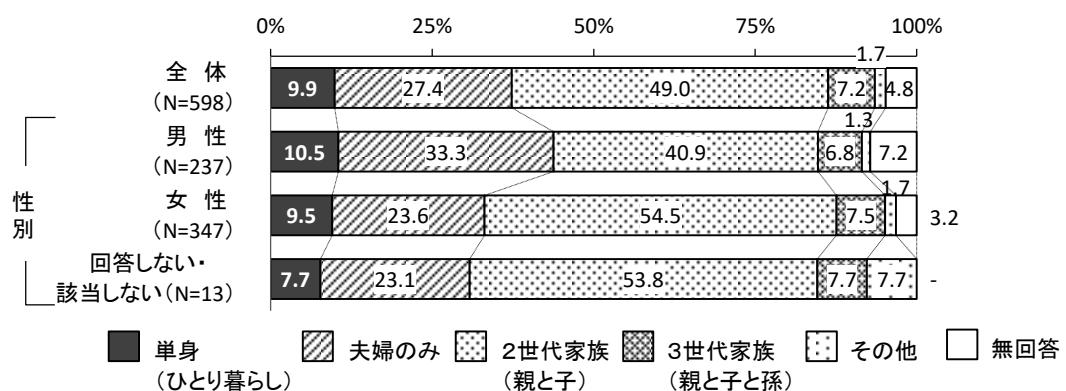
### ◆ 配偶状況



## ◆ 共働きの状況



## ◆ 家族構成



## 5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（回答者数）である。数表で、分析項目によつては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数点以下第2位を四捨五入しているので、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 問○ー○の問は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。

遠賀町「遠賀町男女共同参画社会づくりに向けた町民意識調査」令和元年6月実施

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」令和4年11月実施

内閣府「男女間における暴力に関する調査」令和5年11月実施

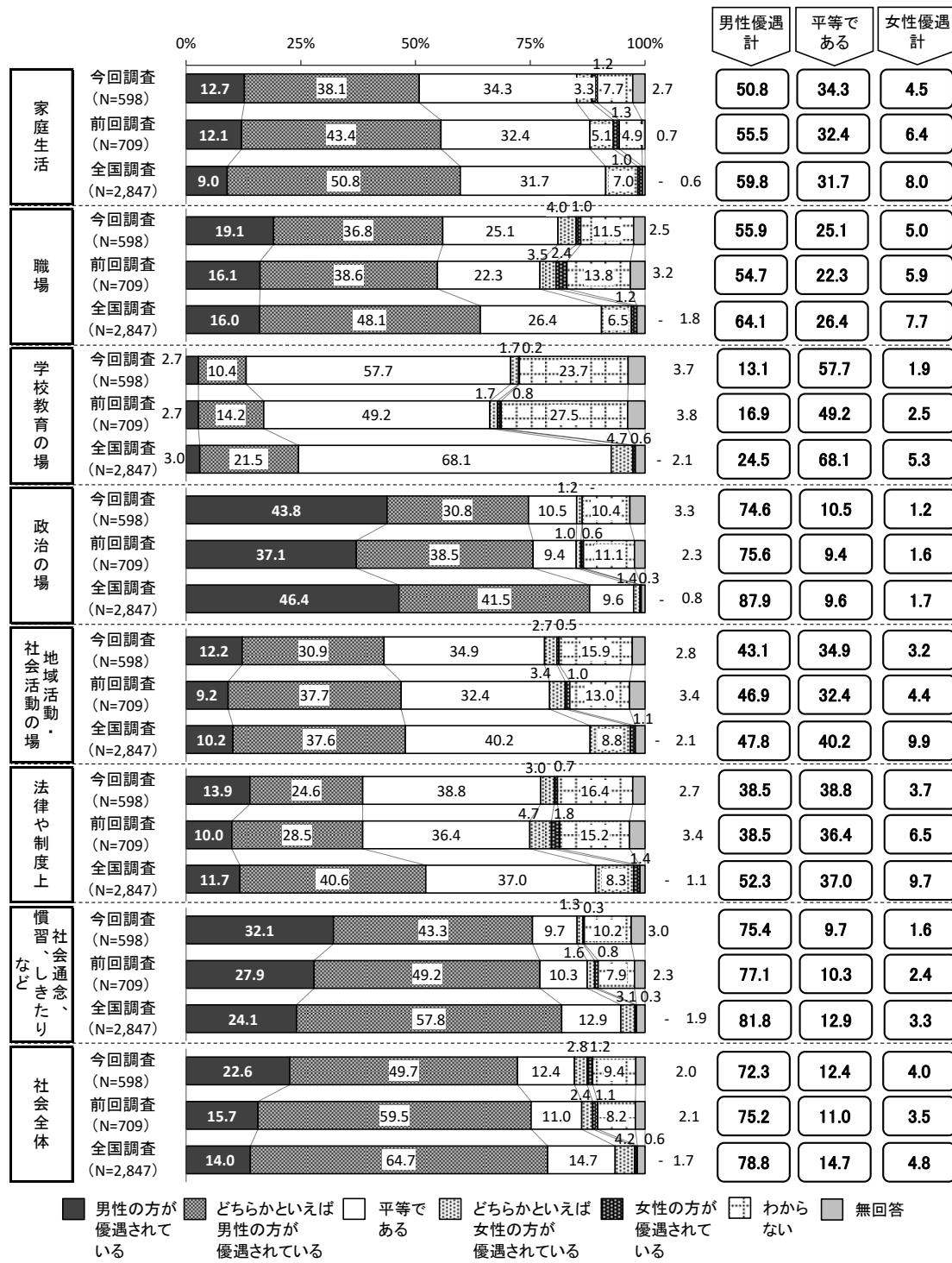
## II 調査結果

### 1. 男女の地位・役割について

#### (1) 男女の地位の平等感

問13 次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。項目ごとにあなたの考えに最も近いものを選んでください。((ア)～(ク)のそれぞれに○は1つ)

図表1-1 男女の地位の平等感 [全体] (前回・全国調査比較)



※「地域活動・社会活動」は全国調査は「自治会やNPOの地域活動の場」

## II 調査結果

男女の地位の平等感について、8つの分野についてたずねた。「平等である」が最も高いのは「学校教育の場」で 57.7% となっている。「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた『男性優遇』が高いのは「社会通念、慣習、しきたりなど」が 75.4%、「政治の場」が 74.6%、「社会全体」が 72.3% と 7 割を超えており。その他「職場」(55.9%)、「家庭生活」(50.8%) でも 5 割を超えており。その他「地域活動や社会活動の場」では『男性優遇』が 43.1%、「法律や制度上」では 38.5% であるが「平等である」もそれぞれ 34.9%、38.8% ある。

遠賀町で令和元年 6 月に実施された「男女共同参画に関する町民意識調査」(以下、前回調査という) と比べると、「職場」を除く各分野で『男性優遇』の割合がわずかであるが減少している。しかし、「学校教育の場」「家庭生活」を除く分野で『男性優遇』のうち「男性の方が優遇されている」の割合が増えており、特に「社会全体」では 6.9 ポイント、「政治の場」では 6.7 ポイント「社会通念、慣習、しきたりなど」で 6 ポイント高くなっている。

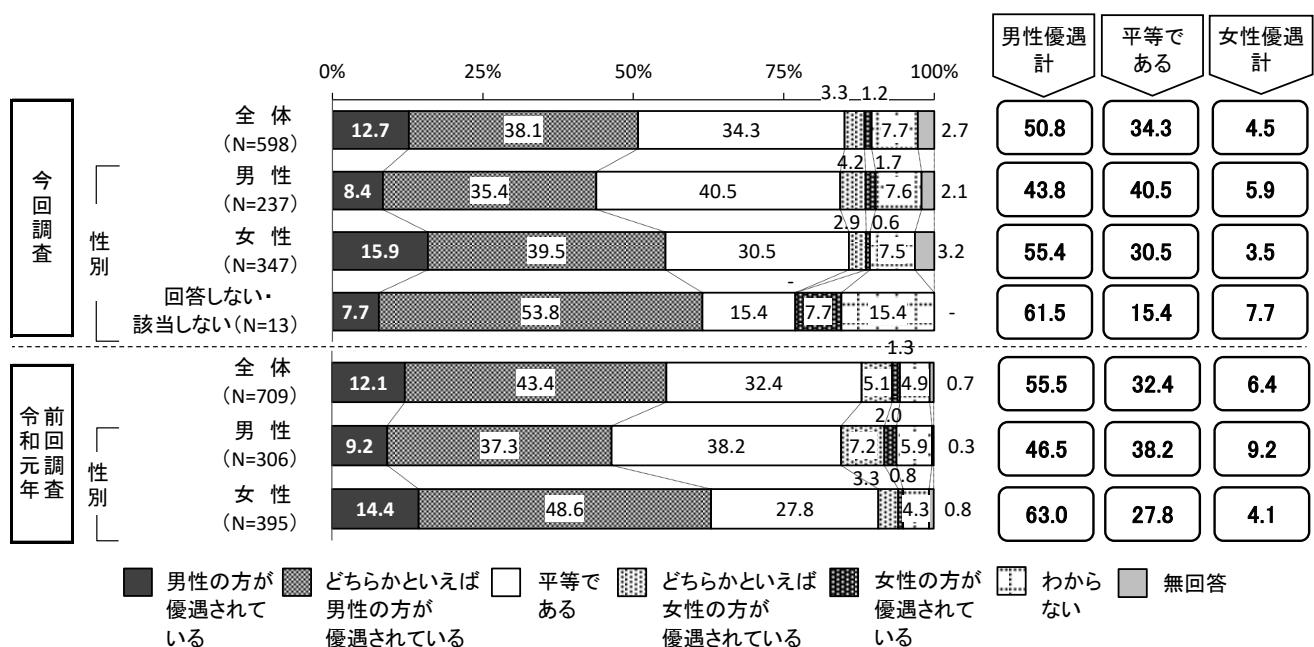
令和 4 年 11 月に実施された内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」(以下、全国調査という) と比べると、『男性優遇』の割合はいずれの分野も今回調査の方が低いが、「社会通念、慣習、しきたりなど」や「社会全体」では『男性優遇』のうち「男性の方が優遇されている」の割合が今回調査の方が 8~8.6 ポイント高くなっている。

### (ア) 家庭生活

『男性優遇』は男性が 43.8%、女性が 55.4% と女性の方が 11.6 ポイント上回り、「平等である」は男性が 40.5%、女性が 30.5% と男性の方が 10 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合が減っており、特に女性では 7.6 ポイント減っている。

図表 1-2 家庭生活 [全体、性別] (前回調査比較)



## 1. 男女の地位・役割について

配偶状況別にみると、配偶者・パートナーがいる男性は「平等である」が43.5%と最も高いが、配偶者・パートナーがいる女性は34.8%と8.7ポイント低く、『男性優遇』が56.2%と男性(45.2%)を11ポイント上回っている。

図表 1-3 家庭生活 [全体、配偶状況別]

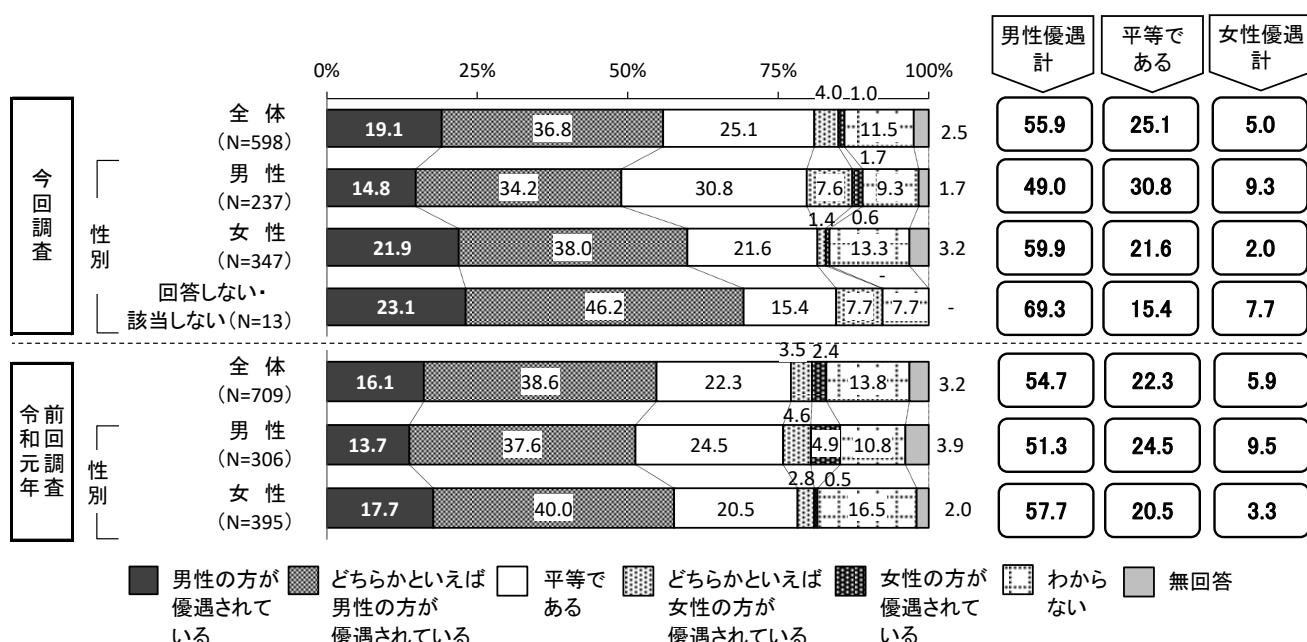
		標本数	男 性 の い 方 が 優 遇	遇 ば ど さ 男 性 ら て か い 方 と る が い 優 遇	平 等 で あ る	遇 ば ど さ 女 性 ら て か い 方 と る が い 優 遇	女 性 の い 方 が 優 遇	わ か ら な い	無 回 答	男 性 優 遇 計	女 性 優 遇 計	(%)
全 体		598	76	228	205	20	7	46	16	304	27	
		100.0	12.7	38.1	34.3	3.3	1.2	7.7	2.7	50.8	4.5	
配偶状況別	男性:配偶者、パートナーがいる	168	7.7	37.5	43.5	3.0	2.4	4.8	1.2	45.2	5.4	
	男性:配偶者・パートナーと離死別した	16	6.3	37.5	37.5	6.3	-	6.3	6.3	43.8	6.3	
	男性:未婚	52	11.5	26.9	32.7	7.7	-	17.3	3.8	38.4	7.7	
	女性:配偶者、パートナーがいる	224	14.7	41.5	34.8	3.1	0.4	4.0	1.3	56.2	3.5	
	女性:配偶者・パートナーと離死別した	60	18.3	43.3	13.3	1.7	-	11.7	11.7	61.6	1.7	
	女性:未婚	63	17.5	28.6	31.7	3.2	1.6	15.9	1.6	46.1	4.8	
	回答しない・該当しない	13	7.7	53.8	15.4	-	7.7	15.4	-	61.5	7.7	
無回答		2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	

### (1) 職場

『男性優遇』は男性が 49.0%、女性が 59.9%と女性の方が 10.9 ポイント上回り、「平等である」は男性が 30.8%、女性が 21.6%と男性の方が 9.2 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男性は「平等である」が6.3ポイント増えているが、女性は『男性優遇』「平等である」の割合はほとんど変わっていない。

图表 1-4 职场 [全体、性别] (前回调查比较)



## II 調査結果

職業・職種別にみると、男性の正社員・正規雇用の『男性優遇』は46.0%に対し、女性は65.7%と19.7ポイント上回っている。

図表1-5 職場 [全体、職業・職種別]

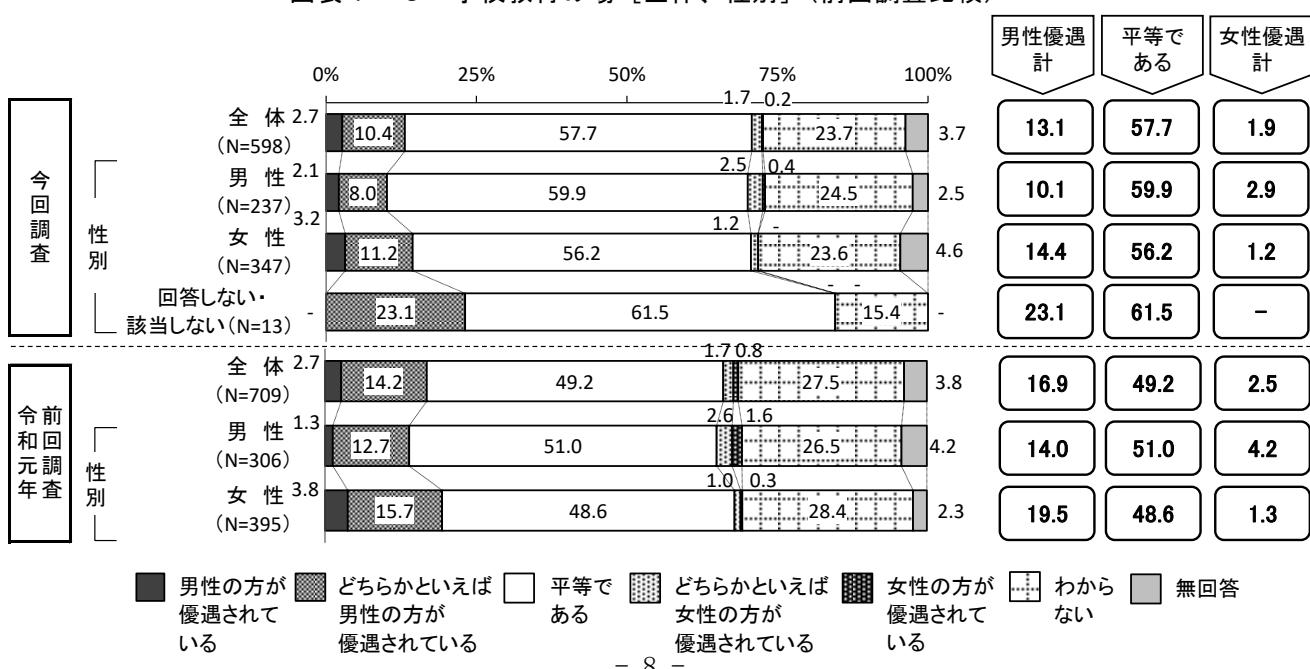
		標本数	さ男性てのい方が優遇	遇ばどさ男ち性らてのかい方とるがい優え	平等である	遇ばどさ女ち性らてのかい方とるがい優え	さ女性てのい方が優遇	わからな	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全 体		598 100.0	114 19.1	220 36.8	150 25.1	24 4.0	6 1.0	69 11.5	15 2.5	334 55.9	30 5.0
職業・職種別	男性:正社員、正規雇用	89	15.7	30.3	32.6	12.4	3.4	5.6	-	46.0	15.8
	男性:契約・派遣社員、パート・アルバイト	38	15.8	23.7	42.1	7.9	2.6	7.9	-	39.5	10.5
	男性:自営業、自由業	20	15.0	35.0	30.0	-	-	10.0	10.0	50.0	-
	男性:専業主夫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:学生	8	12.5	12.5	25.0	12.5	-	37.5	-	25.0	12.5
	男性:無職	77	11.7	46.8	24.7	3.9	-	10.4	2.6	58.5	3.9
	男性:その他	5	40.0	20.0	20.0	-	-	20.0	-	60.0	-
	女性:正社員、正規雇用	99	25.3	40.4	23.2	2.0	-	6.1	3.0	65.7	2.0
	女性:契約・派遣社員、パート・アルバイト	100	21.0	33.0	30.0	2.0	2.0	8.0	4.0	54.0	4.0
	女性:自営業、自由業	16	18.8	37.5	37.5	-	-	-	6.3	56.3	-
回答しない・該当しない	女性:専業主婦	95	22.1	43.2	12.6	-	-	21.1	1.1	65.3	-
	女性:学生	7	14.3	-	28.6	-	-	57.1	-	14.3	-
	女性:無職	28	17.9	39.3	7.1	3.6	-	25.0	7.1	57.2	3.6
	女性:その他	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	回答しない・該当しない	13	23.1	46.2	15.4	7.7	-	7.7	-	69.3	7.7
	無回答	2	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-

### (ウ) 学校教育の場

「平等である」は男性が59.9%、女性が56.2%と男性の方が3.7ポイント高い。『男性優遇』は1割台であるが、女性は14.4%と男性(10.1%)よりも4.3ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合が減っており、「平等である」は男性で8.9ポイント、女性で7.6ポイント増えている。

図表1-6 学校教育の場 [全体、性別] (前回調査比較)



## 1. 男女の地位・役割について

年齢別にみると、女性の50歳代では「平等である」が49.2%と低く、『男性優遇』が21.3%と最も高い。女性の40歳代と60歳代でも『男性優遇』は1割台半ばと他の年代に比べて比較的高くなっている。子どもがいると思われる年代の女性では学校教育の場も平等でないと感じられているようである。

図表1-7 学校教育の場 [全体、年齢別]

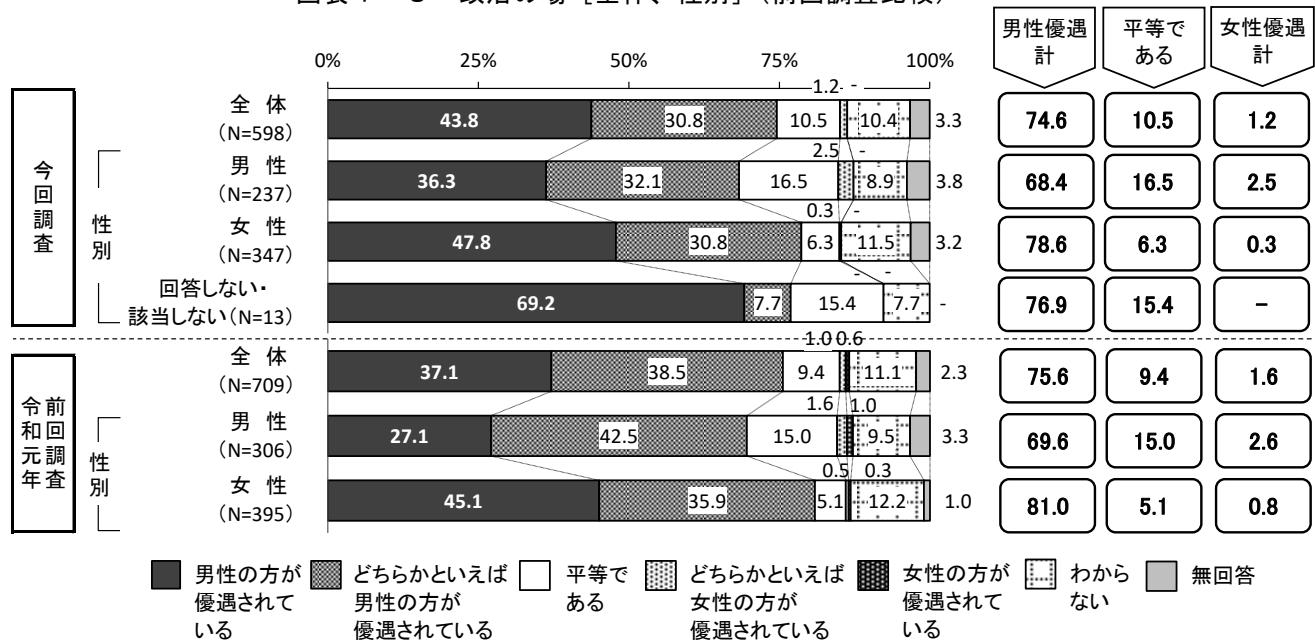
		標本数	され性てのい方が優遇	遇ばどされ性らてのかい方がい優え	平等である	遇ばどされ性らてのかい方がい優え	され性てのい方が優遇	わからぬ	無回答	男性優遇計	女性優遇計
		598	16	62	345	10	1	142	22	78	11
		100.0	2.7	10.4	57.7	1.7	0.2	23.7	3.7	13.1	1.9
年齢別	男性:18~20歳代	14	-	14.3	71.4	-	-	14.3	-	14.3	-
	男性:30歳代	20	5.0	10.0	70.0	5.0	5.0	5.0	-	15.0	10.0
	男性:40歳代	33	-	9.1	48.5	15.2	-	24.2	3.0	9.1	15.2
	男性:50歳代	36	-	5.6	58.3	-	-	33.3	2.8	5.6	-
	男性:60歳代	63	6.3	6.3	60.3	-	-	25.4	1.6	12.6	-
	男性:70歳代以上	68	-	8.8	63.2	-	-	23.5	4.4	8.8	-
	女性:18~20歳代	31	6.5	-	61.3	3.2	-	25.8	3.2	6.5	3.2
	女性:30歳代	36	-	2.8	58.3	5.6	-	30.6	2.8	2.8	5.6
	女性:40歳代	61	6.6	9.8	62.3	-	-	16.4	4.9	16.4	-
	女性:50歳代	61	-	21.3	49.2	-	-	24.6	4.9	21.3	-
	女性:60歳代	82	3.7	13.4	58.5	-	-	22.0	2.4	17.1	-
	女性:70歳代以上	76	2.6	10.5	51.3	1.3	-	26.3	7.9	13.1	1.3
	回答しない・該当しない	13	-	23.1	61.5	-	-	15.4	-	23.1	-
	無回答	4	-	25.0	-	-	-	75.0	-	25.0	-

### (エ) 政治の場

『男性優遇』は男性が68.4%、女性が78.6%と女性の方が10.2ポイント上回り、「平等である」は男性が16.5%、女性が6.3%と男性の方が10.2ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』『平等である』の割合はほとんど変わっていない。

図表1-8 政治の場 [全体、性別] (前回調査比較)



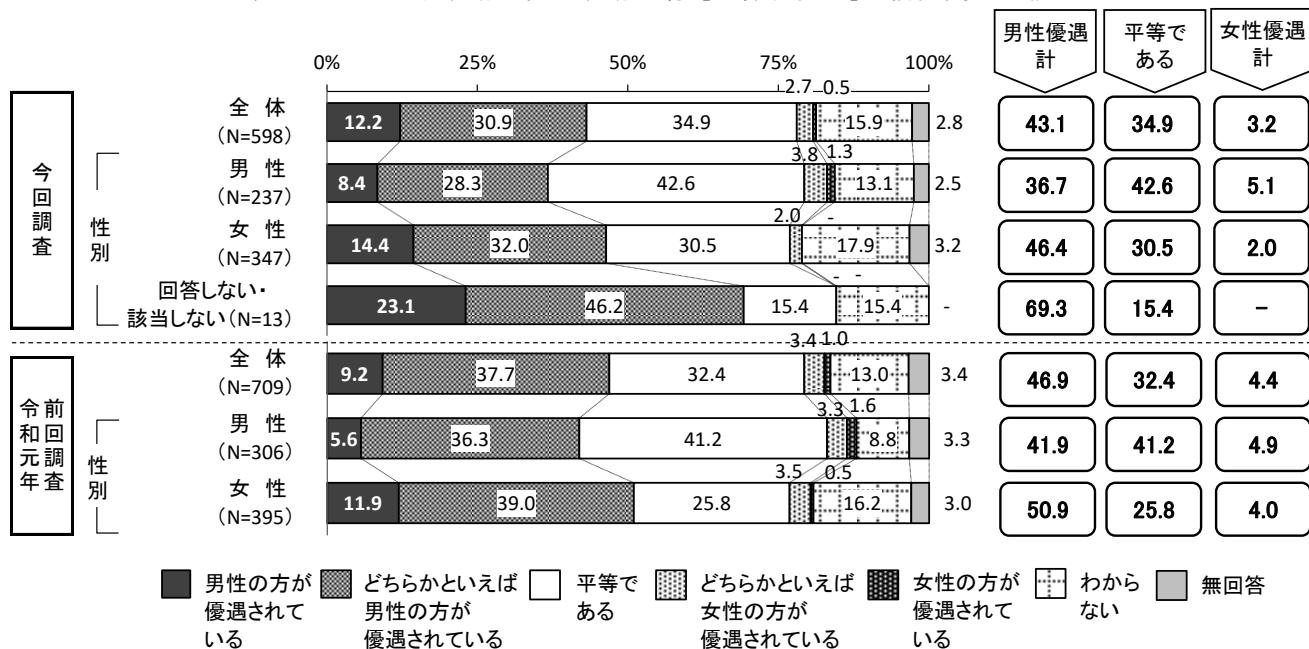
## II 調査結果

#### （才） 地域活動や社会活動の場

『男性優遇』は男性が36.7%、女性が46.4%と女性の方が9.7ポイント上回り、「平等である」は男性が42.6%、女性が30.5%と男性の方が12.1ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合が4.5~5.2ポイント減り、「平等である」の割合は男性ではほとんど変わらないが、女性では4.7ポイント増えている。

図表 1-9 地域活動や社会活動の場 [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、女性の60歳代で『男性優遇』が54.9%と最も高く、40歳代と50歳代でも約47%、男性の60歳代で46.0%と地域活動や社会活動を実際に行っていると思われる年代で『男性優遇』の割合が高くなっている。

図表 1-10 地域活動や社会活動の場「全体、年齢別」

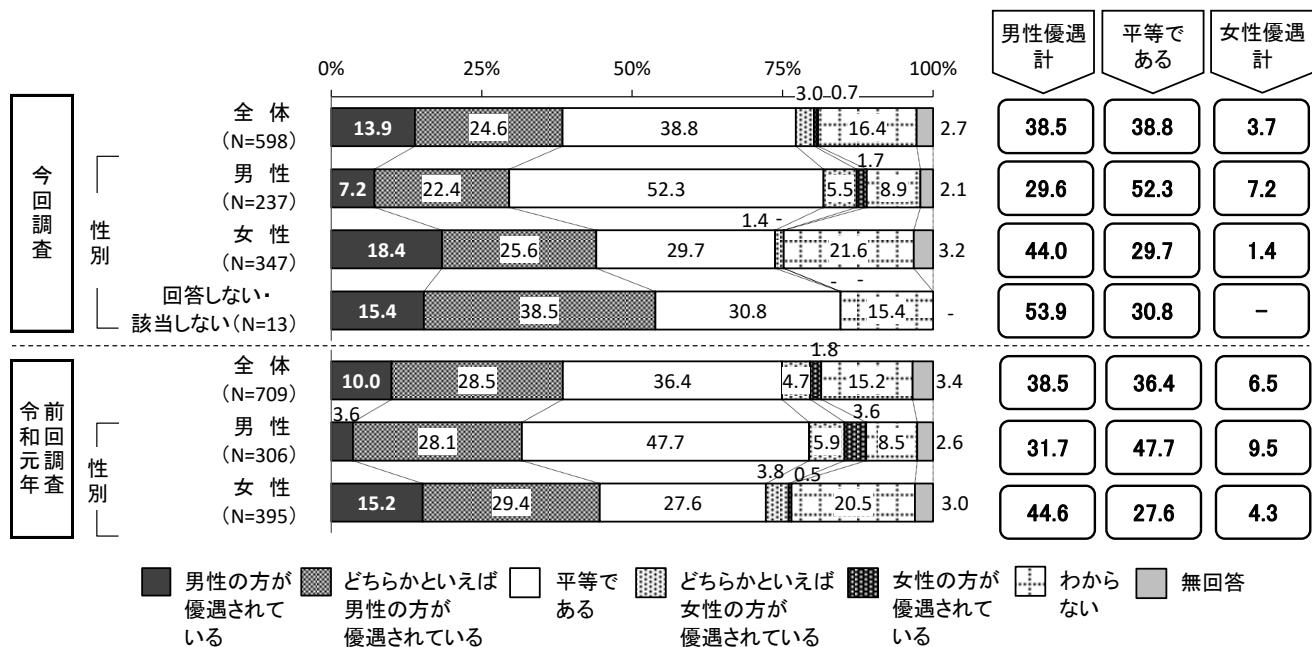
図表4-14 報告活動・社会活動の割合【上位、下位別】											
		標本数	男性	遇ばど	平等	遇ばど	女性	わから	無回答	男性優遇計	女性優遇計
			れ性てのい方	さ男ちれ性らてのいか	である	さ女ちれ性らてのいか	れ性てのい方	ない			
			が優遇	が優遇	が優遇	が優遇	が優遇	ない			
全 体		598	73	185	209	16	3	95	17	258	19
		100.0	12.2	30.9	34.9	2.7	0.5	15.9	2.8	43.1	3.2
年齢別	男性:18~20歳代	14	-	-	50.0	7.1	-	35.7	7.1	-	7.1
	男性:30歳代	20	-	15.0	60.0	5.0	-	20.0	-	15.0	5.0
	男性:40歳代	33	6.1	33.3	36.4	12.1	-	9.1	3.0	39.4	12.1
	男性:50歳代	36	8.3	27.8	41.7	2.8	-	16.7	2.8	36.1	2.8
	男性:60歳代	63	12.7	33.3	38.1	1.6	1.6	11.1	1.6	46.0	3.2
	男性:70歳代以上	68	10.3	32.4	42.6	1.5	2.9	7.4	2.9	42.7	4.4
	女性:18~20歳代	31	12.9	19.4	35.5	-	-	29.0	3.2	32.3	-
	女性:30歳代	36	13.9	27.8	33.3	5.6	-	19.4	-	41.7	5.6
	女性:40歳代	61	16.4	31.1	29.5	1.6	-	14.8	6.6	47.5	1.6
	女性:50歳代	61	14.8	32.8	27.9	1.6	-	19.7	3.3	47.6	1.6
	女性:60歳代	82	17.1	37.8	23.2	-	-	22.0	-	54.9	-
	女性:70歳代以上	76	10.5	32.9	38.2	3.9	-	9.2	5.3	43.4	3.9
	回答しない・該当しない	13	23.1	46.2	15.4	-	-	15.4	-	-	-
	無回答	4	-	25.0	50.0	-	-	25.0	-	25.0	-

## (力) 法律や制度上

「平等である」は男性が 52.3%に対し、女性は 29.7%と男性の方が 22.6 ポイント高い。『男性優遇』は女性が 44.0%と男性（29.6%）よりも 14.4 ポイント高いなど、男女の認識の違いが特に大きい分野となっている。

前回調査と比べると、男性は「平等である」が 4.6 ポイント増えているが、女性は「平等である」『男性優遇』の割合ともほとんど変わっていない。

図表 1-11 法律や制度上【全体、性別】（前回調査比較）



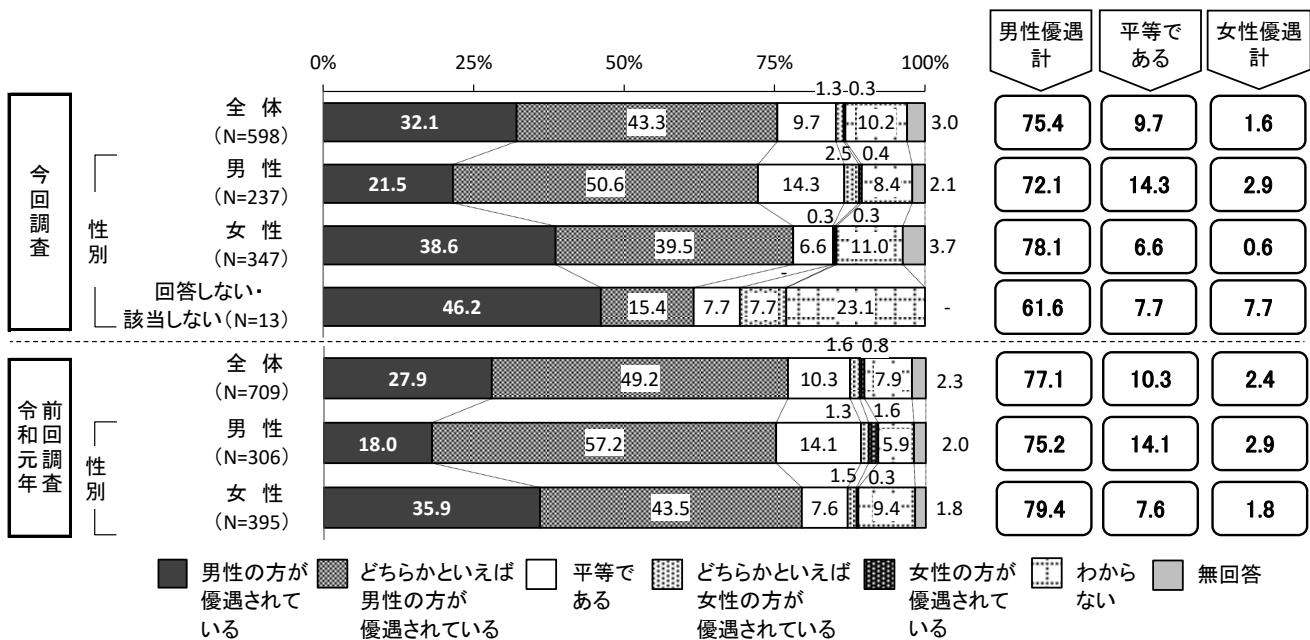
## II 調査結果

### (キ) 社会通念・慣習・しきたりなど

『男性優遇』は男性が 72.1%、女性が 78.1%とともに 7 割を超えて高く、特に女性の方が男性を 6 ポイント上回っている。「平等である」は男性が 14.3%、女性が 6.6% と男性の方が 7.7 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』『平等である』の割合はほとんど変わっていない。

図表 1-12 社会通念・慣習・しきたりなど [全体、性別] (前回調査比較)

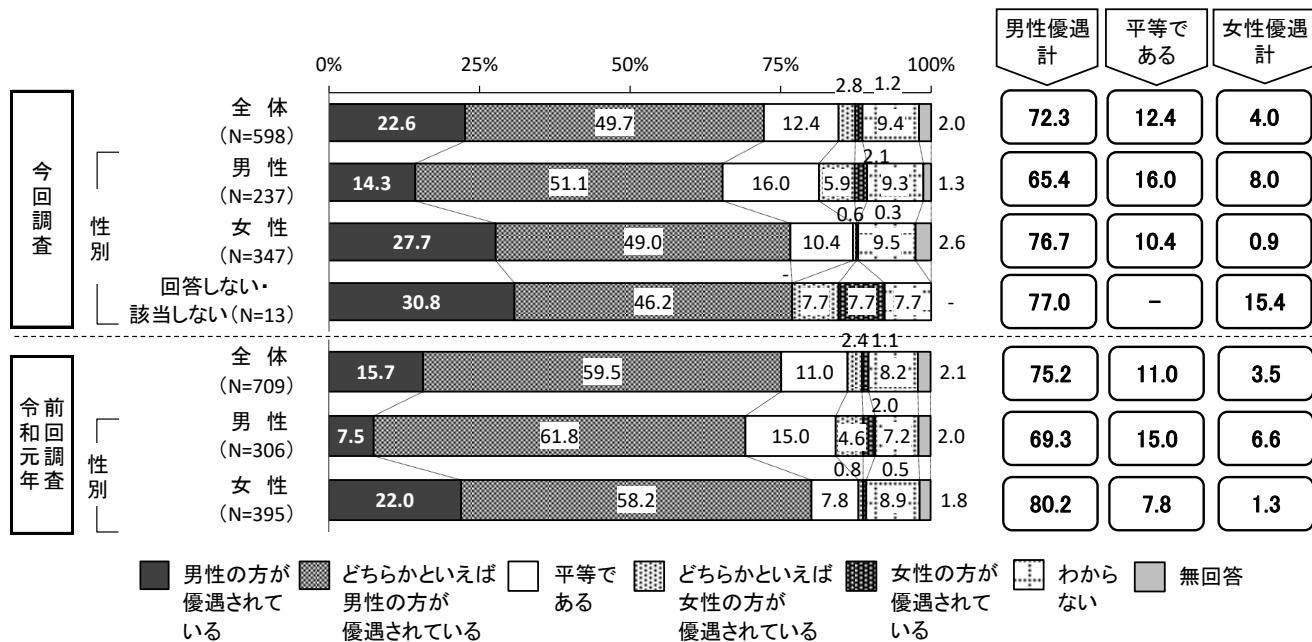


## (ク) 社会全体

『男性優遇』は男性が 65.4%、女性が 76.7%と、女性の方が 11.3 ポイント上回っている。「平等である」は男性が 16.0%、女性が 10.4%と男性の方が 5.6 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が 3.5~3.9 ポイント減っている。「平等である」の割合はほとんど変わっていない。

図表 1-13 社会全体 [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男性は年齢が上がるほど『男性優遇』の割合が高くなっているが、女性は30歳代と40歳代で約8割と最も高くなっている。

図表 1-14 社会全体 [全体、年齢別]

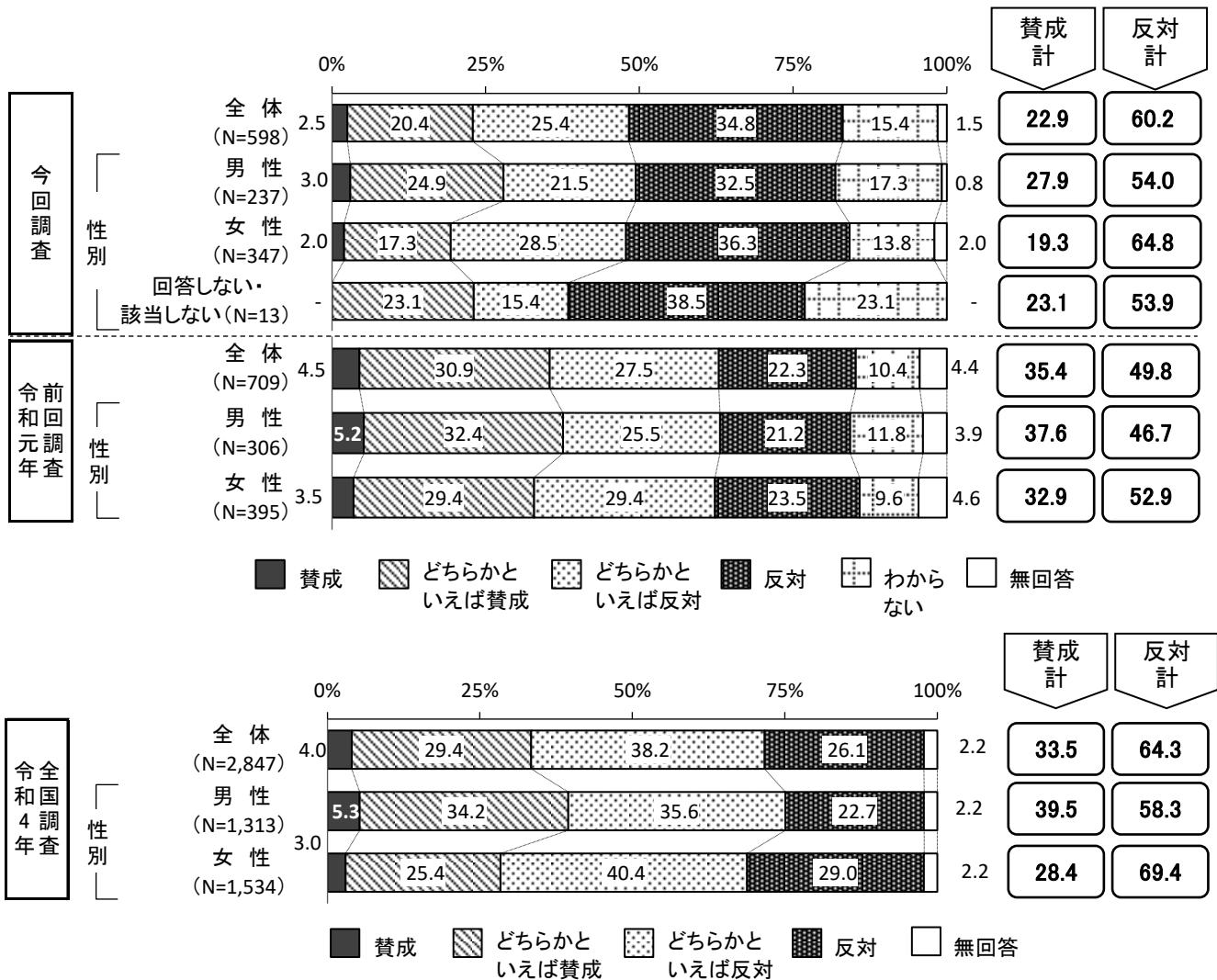
		標本数	され ての い方 るが 優 遇	遇ば ど さ れ 性 ら て の か い 方 と る が い 優 え	平 等 で あ る	遇ば ど さ れ 性 ら て の か い 方 と る が い 優 え	さ れ て の い 方 る が 優 遇	わ か ら な い	無 回 答	男 性 優 遇 計	女 性 優 遇 計
全 体		598	135	297	74	17	7	56	12	432	24
年 齢 別	男性:18~20歳代	14	7.1	14.3	21.4	7.1	7.1	42.9	-	21.4	14.2
	男性:30歳代	20	25.0	20.0	30.0	10.0	-	15.0	-	45.0	10.0
	男性:40歳代	33	9.1	45.5	9.1	18.2	6.1	9.1	3.0	54.6	24.3
	男性:50歳代	36	11.1	61.1	11.1	2.8	2.8	11.1	-	72.2	5.6
	男性:60歳代	63	17.5	57.1	17.5	1.6	-	4.8	1.6	74.6	1.6
	男性:70歳代以上	68	14.7	60.3	14.7	4.4	1.5	2.9	1.5	75.0	5.9
	女性:18~20歳代	31	9.7	45.2	16.1	-	-	22.6	6.5	54.9	-
	女性:30歳代	36	36.1	44.4	11.1	2.8	-	5.6	-	80.5	2.8
	女性:40歳代	61	31.1	49.2	9.8	-	-	6.6	3.3	80.3	-
	女性:50歳代	61	36.1	42.6	11.5	-	-	6.6	3.3	78.7	-
	女性:60歳代	82	28.0	51.2	6.1	-	1.2	13.4	-	79.2	1.2
	女性:70歳代以上	76	21.1	55.3	11.8	1.3	-	6.6	3.9	76.4	1.3
回答しない・該当しない		13	30.8	46.2	-	7.7	7.7	7.7	-	-	-
無回答		4	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0	-	50.0	-

## II 調査結果

### (2) 男は仕事、女は家庭という考え方について

問14 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

図表1-15 男は仕事、女は家庭という考え方について [全体、性別] (前回・全国調査比較)



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という、いわゆる性別役割分担意識について、「反対」と「どちらかといえれば反対」をあわせた『反対』は 60.2%、「賛成」と「どちらかといえれば賛成」をあわせた『賛成』は 22.9%と、『反対』の人が方が 37.3 ポイント高い。

性別にみると、女性の『反対』は 64.8%で、男性 (54.0%) を 10.8 ポイント上回っている。前回調査と比べると、『反対』の割合が男性で 7.3 ポイント、女性で 11.9 ポイント増えている。全国調査と比べると、今回調査の方が『反対』の割合は男性で 4.3 ポイント、女性で 4.6 ポイント低い。

## 1. 男女の地位・役割について

年齢別にみると、男性の40歳代で『反対』が75.7%と最も高く、次いで女性の50歳代で70.5%と高い。『賛成』は男性の70歳以上で45.6%と最も高く、30歳代までの各年代でも約2割ある。女性は30歳代と60歳代以上で2割台となっている。

図表1-16 男は仕事、女は家庭という考え方について [全体、年齢別]

		標本数	賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	わ か ら な い	無 回 答	(%)	
全 体									賛成計 137 22.9	反対計 360 60.2
年 齢 別	男性:18~20歳代	14	-	7.1	14.3	50.0	28.6	-	7.1	64.3
	男性:30歳代	20	-	20.0	15.0	45.0	20.0	-	20.0	60.0
	男性:40歳代	33	-	24.2	21.2	54.5	-	-	24.2	75.7
	男性:50歳代	36	2.8	16.7	19.4	25.0	36.1	-	19.5	44.4
	男性:60歳代	63	3.2	20.6	23.8	28.6	20.6	3.2	23.8	52.4
	男性:70歳代以上	68	5.9	39.7	22.1	23.5	8.8	-	45.6	45.6
	女性:18~20歳代	31	-	12.9	22.6	45.2	16.1	3.2	12.9	67.8
	女性:30歳代	36	2.8	22.2	11.1	52.8	11.1	-	25.0	63.9
	女性:40歳代	61	1.6	13.1	32.8	31.1	18.0	3.3	14.7	63.9
	女性:50歳代	61	-	8.2	32.8	37.7	18.0	3.3	8.2	70.5
	女性:60歳代	82	2.4	19.5	26.8	39.0	12.2	-	21.9	65.8
	女性:70歳代以上	76	3.9	25.0	34.2	25.0	9.2	2.6	28.9	59.2
	回答しない・該当しない	13	-	23.1	15.4	38.5	23.1	-	23.1	53.9
	無回答	4	25.0	-	50.0	-	25.0	-	25.0	50.0

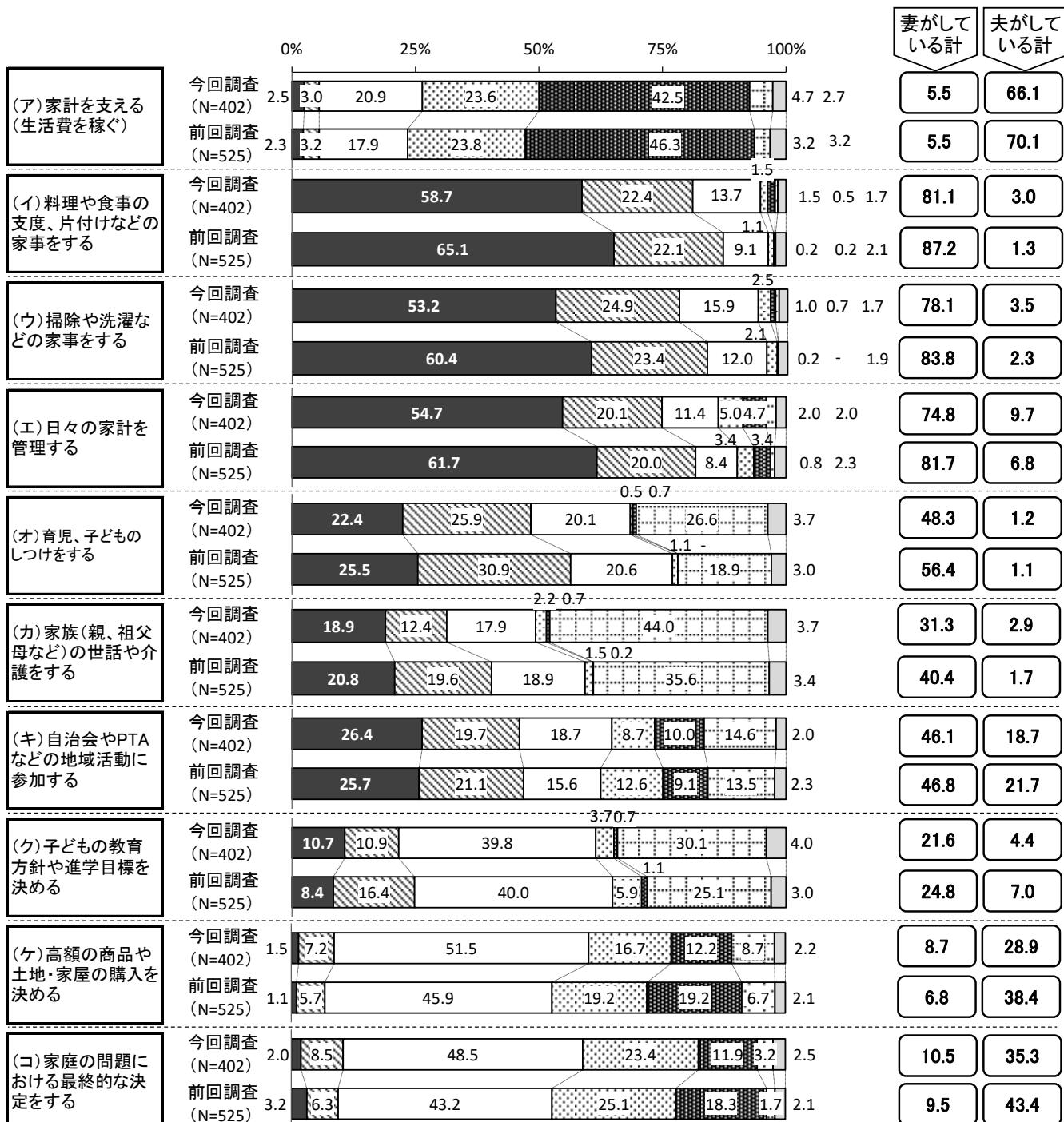
## II 調査結果

### 2. 家庭生活について

#### 問15【現在、配偶者・パートナーと同居している方におたずねします。】

次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。項目ごとに、最もあてはまるものを選んでください。((ア)～(コ)のそれぞれに○は1つ)

図表2-1 家庭内の役割分担 [全体] (前回調査比較)



■ 主に妻がしている  
▨ どちらかといえれば妻がしている  
□ 夫と妻が同じ程度  
▨ どちらかといえれば夫がしている  
■ 主に夫がしている  
▨ その他の家族/該当しない  
■ 無回答

現在、配偶者・パートナーと同居している人に家庭内の仕事 10 項目について主に誰がしているのかをたずねた。

「家計を支える（生活費を稼ぐ）」は「主に夫がしている」（42.5%）と「どちらかといえば夫がしている」（23.6%）をあわせた『夫がしている』は 66.1% と 10 項目の中で最も高い。

反対に「主に妻がしている」と「どちらかといえば妻がしている」をあわせた『妻がしている』の割合が高いのは、「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」（81.1%）、「掃除や洗濯などの家事をする」（78.1%）、「日々の家計を管理する」（74.8%）などが 7 割台から 8 割台、「育児、子どものしつけをする」（48.3%）、「自治会や P T A などの地域活動に参加する」（46.1%）、「家族（親、祖父母など）の世話や介護をする」（31.3%）などが約 3 割から 5 割となっている。

「夫と妻が同じ程度」の割合が高いのは、「子どもの教育方針や進学目標を決める」（39.8%）、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」（51.5%）、「家庭の問題における最終的な決定をする」（48.5%）などで約 4 割から 5 割あるが、「子どもの教育方針や進学目標を決める」は『妻がしている』の割合が 21.6%、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」と「家庭の問題における最終的な決定をする」は『夫がしている』の割合がそれぞれ 28.9%、35.3% と次いで高くなっている。

前回調査と比べると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」は『夫がしている』が 4 ポイント減り、「夫と妻が同じ程度」が 3 ポイント増えるなどやや変化がみられる。また、『妻がしている』割合が高かった「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」「掃除や洗濯などの家事をする」「日々の家計を管理する」なども『妻がしている』が前回調査より 5.7～6.9 ポイント減り、「夫と妻が同じ程度」が 3～4.6 ポイント増えるなどちらもやや変化がみられる。

「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」と「家庭の問題における最終的な決定をする」は「夫と妻が同じ程度」の割合が 5.3～5.6 ポイント増えている。

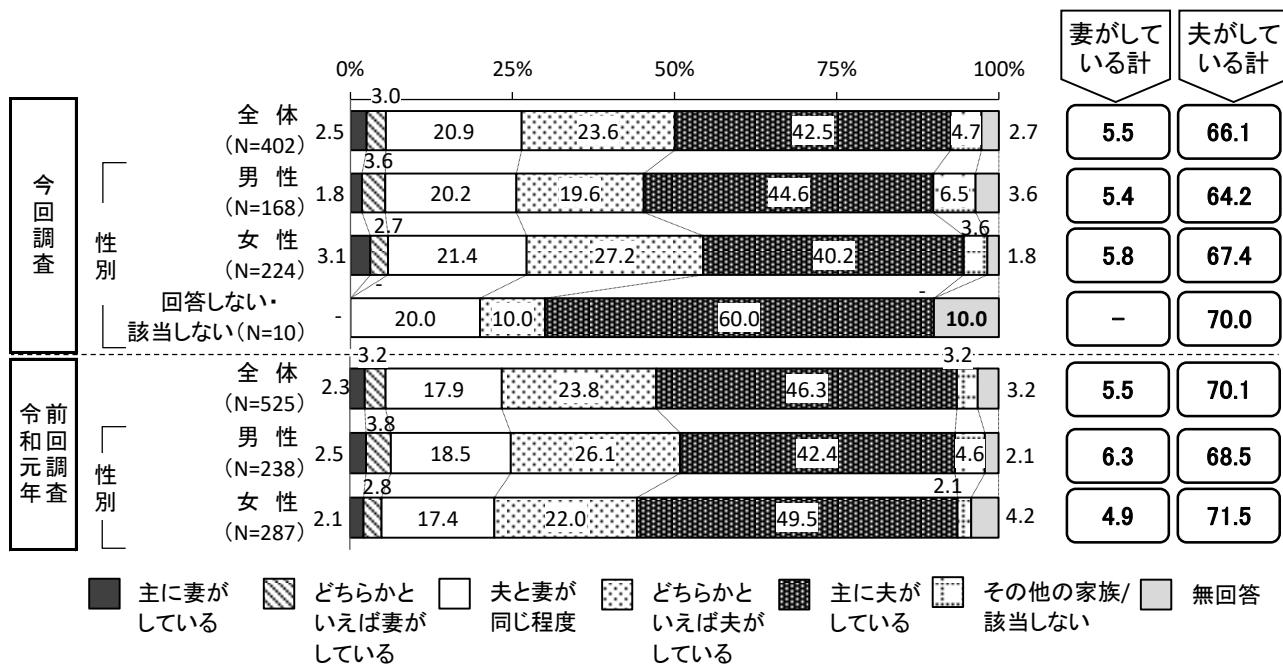
## II 調査結果

### (ア) 家計を支える（生活費を稼ぐ）

男性の『夫がしている』は 64.2%、女性は 67.4% と 6 割を超える家庭では生活費を稼ぐのは夫の仕事となっている。「夫と妻が同じ程度」は約 2 割と同程度となっている。

前回調査と比べると、女性の「主に夫がしている」が 9.3 ポイント減り、「どちらかといえば夫がしている」が 5.2 ポイント増、「夫と妻が同じ程度」が 4 ポイント増となっている。

図表 2-2 家計を支える（生活費を稼ぐ）【全体、性別】（前回調査比較）



## 2. 家庭生活について

年齢別にみると、男女とも30歳代、40歳代で「夫と妻が同じ程度」の割合が約3割から4割台半ばと他の年齢に比べて高いが、やはり『夫がしている』の割合が各年代とも5割台半ばから約7割と高い。

共働きの状況別にみると、男女とも共働きでも『夫がしている』は5割台半ばから約6割あり、「夫と妻が同じ程度」は約3割となっている。

図表2-3 家計を支える（生活費を稼ぐ）【全体、年齢別、共働きの状況別】

		標本数	て主にいる妻がし	しいどてえちいばらる妻かがと	じ夫程と度妻が同	しいどてえちいばらる夫かがと	て主にいる夫がし	該当しない	無回答	る妻計がしてい	る夫計がしてい
	全 体	402 100.0	10 2.5	12 3.0	84 20.9	95 23.6	171 42.5	19 4.7	11 2.7	22 5.5	266 66.1
年齢別	男性:18~20歳代	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	男性:30歳代	10	-	-	30.0	20.0	50.0	-	-	-	70.0
	男性:40歳代	22	-	-	45.5	18.2	36.4	-	-	-	54.6
	男性:50歳代	22	-	-	18.2	22.7	59.1	-	-	-	81.8
	男性:60歳代	50	4.0	8.0	22.0	12.0	44.0	8.0	2.0	12.0	56.0
	男性:70歳代以上	60	1.7	3.3	6.7	25.0	45.0	11.7	6.7	5.0	70.0
	女性:18~20歳代	5	20.0	-	20.0	20.0	40.0	-	-	20.0	60.0
	女性:30歳代	25	-	4.0	28.0	32.0	36.0	-	-	4.0	68.0
	女性:40歳代	43	2.3	-	27.9	18.6	48.8	2.3	-	2.3	67.4
	女性:50歳代	44	6.8	4.5	18.2	22.7	45.5	-	2.3	11.3	68.2
	女性:60歳代	54	3.7	3.7	18.5	29.6	40.7	1.9	1.9	7.4	70.3
	女性:70歳代以上	53	-	1.9	18.9	34.0	30.2	11.3	3.8	1.9	64.2
	回答しない・該当しない	10	-	-	20.0	10.0	60.0	-	10.0	-	70.0
	無回答	2	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	50.0
共働きの状況	男性:共働き	69	2.9	4.3	31.9	26.1	30.4	1.4	2.9	7.2	56.5
	男性:片働き	56	1.8	5.4	12.5	8.9	64.3	5.4	1.8	7.2	73.2
	男性:ふたりとも働いていない	41	-	-	12.2	22.0	41.5	17.1	7.3	-	63.5
	男性:その他	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0
	女性:共働き	120	5.0	3.3	29.2	29.2	31.7	-	1.7	8.3	60.9
	女性:片働き	58	1.7	1.7	13.8	15.5	63.8	1.7	1.7	3.4	79.3
	女性:ふたりとも働いていない	44	-	2.3	11.4	38.6	29.5	15.9	2.3	2.3	68.1
	女性:その他	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0
	回答しない・該当しない	10	-	-	20.0	10.0	60.0	-	10.0	-	70.0
	無回答	2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	100.0

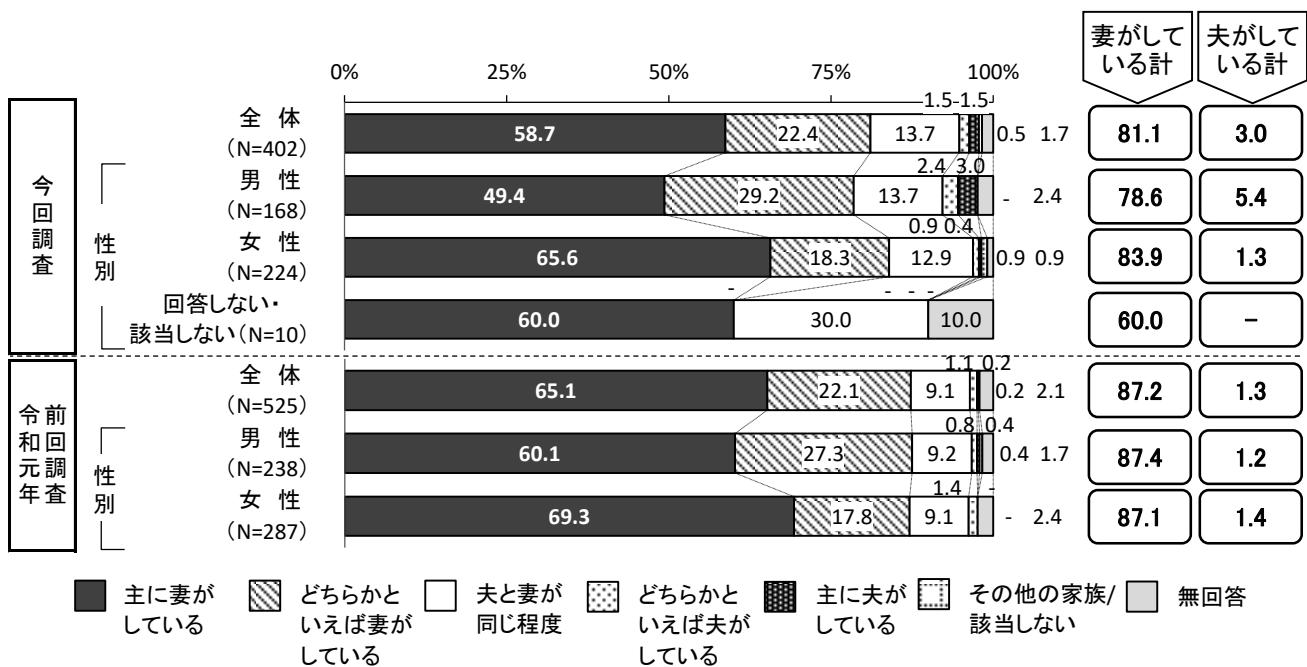
## II 調査結果

### (イ) 料理や食事の支度、片付けなどの家事をする

男性の『妻がしている』は78.6%、女性は83.9%と約8割の家庭では食事の支度や片付けなどの家事は女性の仕事となっており、特に女性では「主に妻がしている」が65.6%で男性(49.4%)を16.2ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男性の『妻がしている』は8.8ポイント減り、「夫と妻が同じ程度」が4.5ポイント増、『夫がしている』が4.2ポイント増となっている。女性も『妻がしている』がやや減り、「夫と妻が同じ程度」がやや増えている。

図表2-4 料理や食事の支度、片付けなどの家事をする [全体、性別] (前回調査比較)



## 2. 家庭生活について

年齢別にみると、女性の40歳代以下で「夫と妻が同じ程度」の割合が他の年齢に比べて高いが、やはり『妻がしている』の割合が各年代とも7割台から約8割と高い。

共働きの状況別にみると、男女とも共働きでも『妻がしている』は7割台半ばあり、「夫と妻が同じ程度」は女性で18.3%、男性は13.0%となっており、男性は片働き(21.4%)よりも8.4ポイント低くなっている。

図表2-5 料理や食事の支度、片付けなどの家事をする [全体、年齢別、共働きの状況別]

(%)

		標本数	て主いに る妻が し	しいど てえち いばら る妻か がと	じ夫 程と 度妻 が同	しいど てえち いばら る妻か がと	て主いに る夫が し	族そ の他 の家	該 当 し な い	無 回 答	る妻 計が し て い	る夫 計が し て い
	全 体	402 100.0	236 58.7	90 22.4	55 13.7	6 1.5	6 1.5	2 0.5	-	7 1.7	326 81.1	12 3.0
年 齢 別	男性:18~20歳代	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30歳代	10	40.0	50.0	10.0	-	-	-	-	-	90.0	-
	男性:40歳代	22	54.5	27.3	9.1	9.1	-	-	-	-	81.8	9.1
	男性:50歳代	22	54.5	31.8	9.1	-	4.5	-	-	-	86.3	4.5
	男性:60歳代	50	54.0	22.0	18.0	2.0	2.0	-	-	2.0	76.0	4.0
	男性:70歳代以上	60	45.0	31.7	11.7	1.7	5.0	-	-	5.0	76.7	6.7
	女性:18~20歳代	5	60.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	80.0	-
	女性:30歳代	25	52.0	28.0	20.0	-	-	-	-	-	80.0	-
	女性:40歳代	43	58.1	14.0	25.6	2.3	-	-	-	-	72.1	2.3
	女性:50歳代	44	65.9	18.2	11.4	-	-	2.3	-	2.3	84.1	-
	女性:60歳代	54	77.8	14.8	3.7	-	-	1.9	-	1.9	92.6	-
	女性:70歳代以上	53	66.0	20.8	9.4	1.9	1.9	-	-	-	86.8	3.8
	回答しない・該当しない	10	60.0	-	30.0	-	-	-	-	10.0	60.0	-
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-
共 働 き の 状 況	男性:共働き	69	46.4	30.4	13.0	4.3	1.4	-	-	4.3	76.8	5.7
	男性:片働き	56	51.8	26.8	21.4	-	-	-	-	-	78.6	-
	男性:ふたりとも働いていない	41	51.2	29.3	4.9	2.4	9.8	-	-	2.4	80.5	12.2
	男性:その他	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	女性:共働き	120	56.7	20.8	18.3	0.8	-	1.7	-	1.7	77.5	0.8
	女性:片働き	58	77.6	13.8	6.9	-	1.7	-	-	-	91.4	1.7
	女性:ふたりとも働いていない	44	72.7	18.2	6.8	2.3	-	-	-	-	90.9	2.3
	女性:その他	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	回答しない・該当しない	10	60.0	-	30.0	-	-	-	-	10.0	60.0	-
	無回答	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-

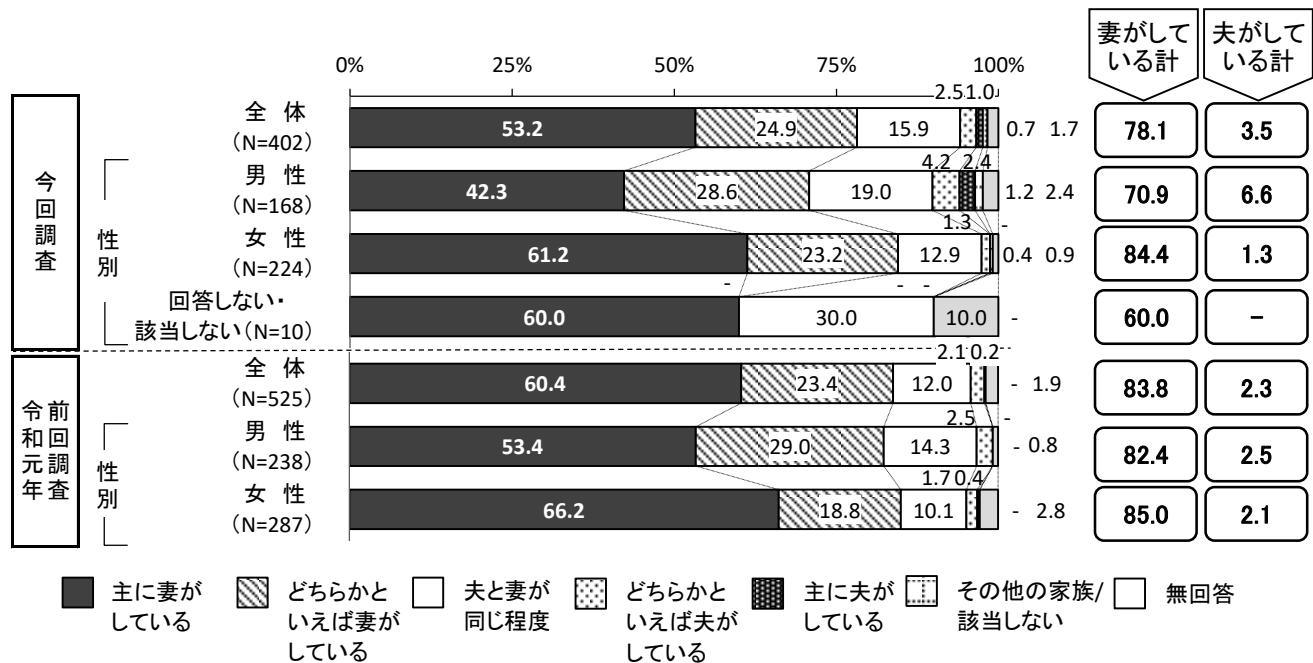
## II 調査結果

(ウ) 掃除や洗濯などの家事をする

男性の『妻がしている』は 70.9%、女性は 84.4% と女性の方が 13.5 ポイント上回っている。特に女性では「主に妻がしている」が 61.2% と男性 (42.3%) より 18.9 ポイント高く、男性は「夫と妻が同じ程度」が 19.0% と女性 (12.9%) より 6.1 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性の『妻がしている』は11.5ポイント減り、「夫と妻が同じ程度」が4.7ポイント増、『夫がしている』が4.1ポイント増となっている。

図表 2-6 掃除や洗濯などの家事をする [全体、性別] (前回調査比較)



## 2. 家庭生活について

年齢別にみると、標本数が少ないが男女とも18~20歳代で「夫と妻が同じ程度」の割合が他の年齢に比べて高いが、やはり『妻がしている』の割合が各年代とも約6割から8割台半ばと高い。

共働きの状況別にみると、男女とも共働きでも『妻がしている』は男性で62.3%、女性で79.2%と高く、「夫と妻が同じ程度」は男性で20.3%、女性で17.5%、となっており、男性は片働き(23.2%)と同程度となっている。

図表2-7 掃除や洗濯などの家事をする [全体、年齢別、共働きの状況別]

		標本数	て主いにいる妻がし	しいどてえちいばらる妻かがと	じ夫程度と妻が同	しいどてえちいばらる夫かがと	て主いにいる夫がし	族その他の家	該当しない	無回答	る妻計がしてい	る夫計がしてい
			402	214	100	64	10	4	3			
全 体		100.0	53.2	24.9	15.9	2.5	1.0	0.7	7	314	14	3.5
年齢別	男性:18~20歳代	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30歳代	10	30.0	30.0	30.0	10.0	-	-	-	60.0	10.0	-
	男性:40歳代	22	27.3	31.8	22.7	9.1	9.1	-	-	59.1	18.2	-
	男性:50歳代	22	45.5	27.3	13.6	4.5	4.5	4.5	-	72.8	9.0	-
	男性:60歳代	50	54.0	26.0	16.0	2.0	-	-	2.0	80.0	2.0	-
	男性:70歳代以上	60	40.0	31.7	16.7	3.3	1.7	1.7	-	71.7	5.0	-
	女性:18~20歳代	5	40.0	20.0	40.0	-	-	-	-	60.0	-	-
	女性:30歳代	25	44.0	40.0	16.0	-	-	-	-	84.0	-	-
	女性:40歳代	43	67.4	14.0	18.6	-	-	-	-	81.4	-	-
	女性:50歳代	44	54.5	31.8	9.1	-	-	2.3	-	86.3	-	-
	女性:60歳代	54	66.7	20.4	7.4	3.7	-	-	1.9	87.1	3.7	-
	女性:70歳代以上	53	66.0	18.9	13.2	1.9	-	-	-	84.9	1.9	-
	回答しない・該当しない	10	60.0	-	30.0	-	-	-	10.0	60.0	-	-
	無回答	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-
共働きの状況	男性:共働き	69	37.7	24.6	20.3	7.2	4.3	1.4	-	4.3	62.3	11.5
	男性:片働き	56	44.6	30.4	23.2	1.8	-	-	-	-	75.0	1.8
	男性:ふたりとも働いていない	41	46.3	34.1	9.8	2.4	2.4	2.4	-	2.4	80.4	4.8
	男性:その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	女性:共働き	120	54.2	25.0	17.5	0.8	-	0.8	-	1.7	79.2	0.8
	女性:片働き	58	70.7	22.4	5.2	1.7	-	-	-	-	93.1	1.7
	女性:ふたりとも働いていない	44	65.9	20.5	11.4	2.3	-	-	-	-	86.4	2.3
	女性:その他	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
回答しない・該当しない		10	60.0	-	30.0	-	-	-	10.0	60.0	-	-
無回答		2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-

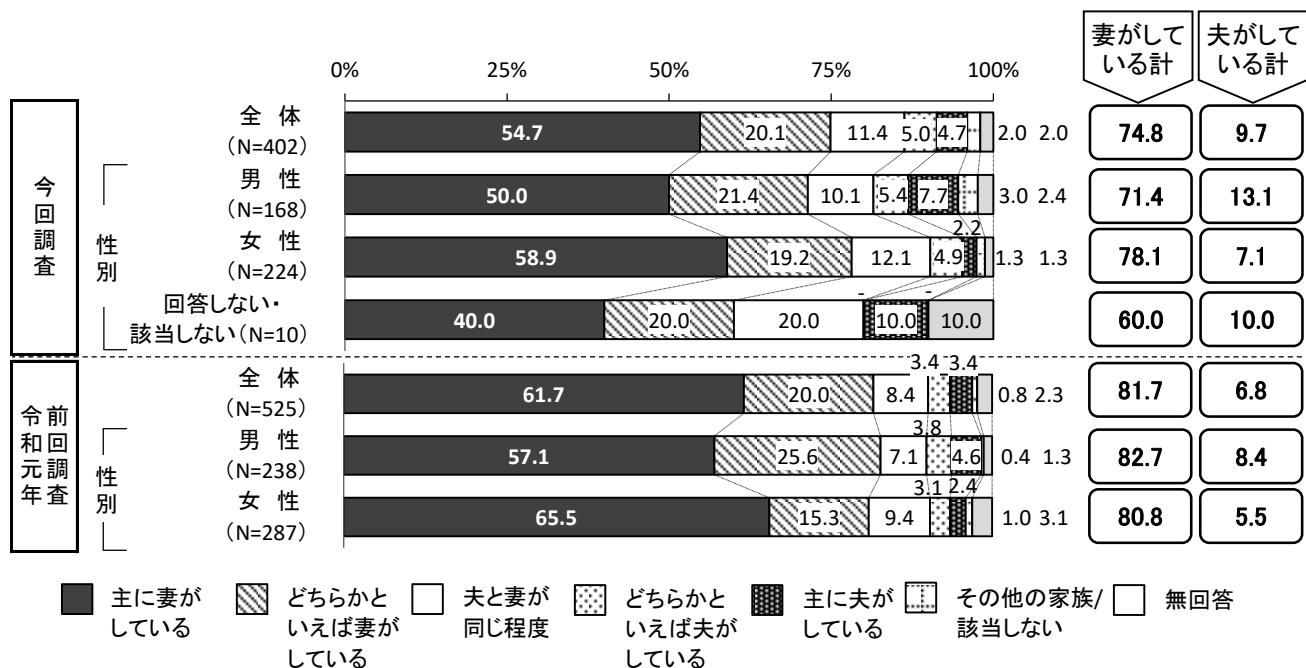
## II 調査結果

### (エ) 日々の家計を管理する

男性の『妻がしている』は 71.4%、女性は 78.1% と 7 割を超える家庭では日々の家計の管理は女性の仕事となっており、特に女性では「主に妻がしている」が 58.9% で男性 (50.0%) を 8.9 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男性の『妻がしている』の割合は 11.3 ポイント減り、『夫がしている』が 4.7 ポイント増となっている。

図表 2-8 日々の家計を管理する [全体、性別] (前回調査比較)

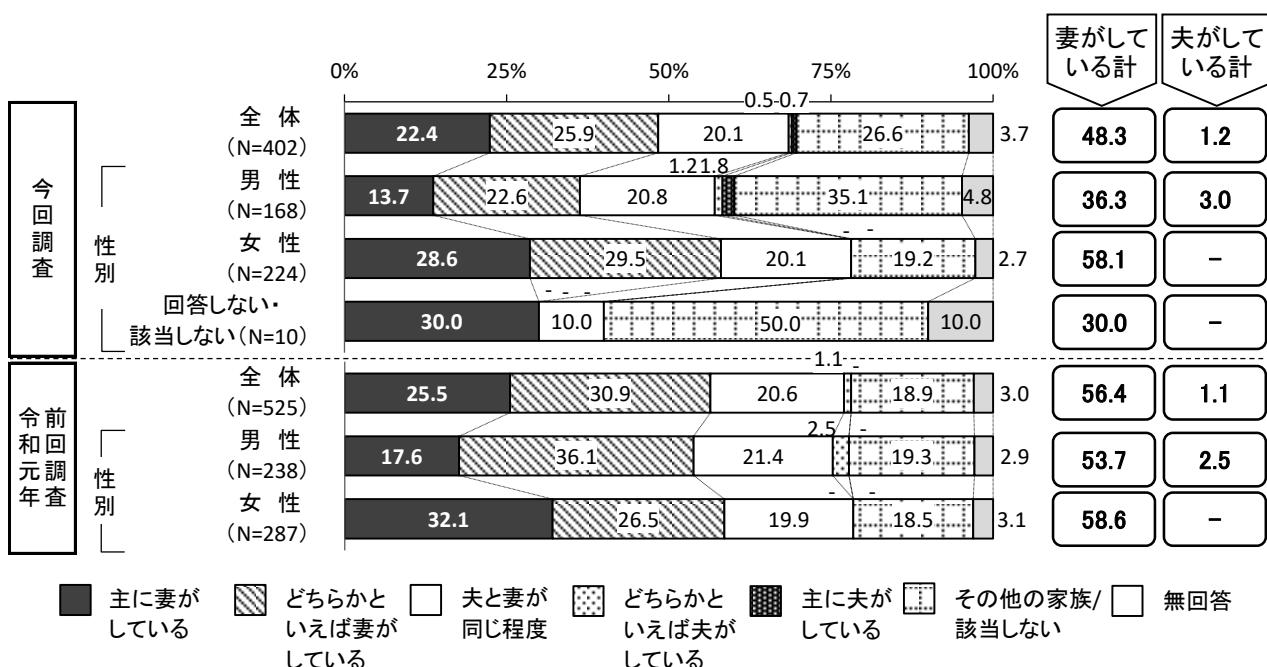


### (オ) 育児、子どものしつけをする

男性の『妻がしている』は 36.3%、女性は 58.1% と女性の方が 21.8 ポイント上回っている。「夫と妻が同じ程度」は男女とも約 2 割となっている。

前回調査と比べると、男性の『妻がしている』の割合は 17.4 ポイント減り、「その他の家族/該当しない」が 15.8 ポイント増となっている。

図表2-9 育児、子どものしつけをする [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、『妻がしている』は男性の30歳代で70.0%あるが、その他の年代では5割台以下となっている。女性は70歳代以上を除く年代で約6割から8割となっている。

共働きの状況別にみると、共働きの女性では『妻がしている』が61.7%で、男性（43.5%）を18.2ポイント上回っている。

図表2-10 育児、子どものしつけをする [全体、年齢別、共働きの状況別]

(%)

	標本数	て主に妻がし	しいどてえちらる妻かがと	じ夫程度と妻が同	しいどてえちらる夫かがと	て主に妻がし	族その他の家	該当しない	無回答	る妻計がしてい	る夫計がしてい
全 体	402 100.0	90 22.4	104 25.9	81 20.1	2 0.5	3 0.7	1 0.2	106 26.4	15 3.7	194 48.3	5 1.2
年齢別	男性:18~20歳代	2	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-
	男性:30歳代	10	30.0	40.0	30.0	-	-	-	-	70.0	-
	男性:40歳代	22	4.5	31.8	50.0	4.5	4.5	-	-	36.3	9.0
	男性:50歳代	22	13.6	40.9	22.7	-	-	22.7	-	54.5	-
	男性:60歳代	50	14.0	24.0	10.0	2.0	-	46.0	4.0	38.0	2.0
	男性:70歳代以上	60	15.0	10.0	16.7	-	3.3	45.0	10.0	25.0	3.3
	女性:18~20歳代	5	20.0	60.0	20.0	-	-	-	-	80.0	-
	女性:30歳代	25	28.0	32.0	32.0	-	-	8.0	-	60.0	-
	女性:40歳代	43	32.6	37.2	18.6	-	-	9.3	2.3	69.8	-
	女性:50歳代	44	36.4	27.3	18.2	-	-	15.9	2.3	63.7	-
共働きの状況別	女性:60歳代	54	27.8	31.5	20.4	-	-	1.9	14.8	3.7	59.3
	女性:70歳代以上	53	20.8	18.9	17.0	-	-	-	39.6	3.8	39.7
	回答しない・該当しない	10	30.0	-	10.0	-	-	50.0	10.0	30.0	-
	無回答	2	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	男性:共働き	69	14.5	29.0	29.0	1.4	1.4	-	18.8	5.8	43.5
	男性:片働き	56	10.7	23.2	17.9	1.8	-	-	46.4	-	33.9
性別別	男性:ふたりとも働いていない	41	17.1	9.8	9.8	-	4.9	-	48.8	9.8	26.9
	男性:その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	女性:共働き	120	31.7	30.0	23.3	-	-	-	11.7	3.3	61.7
	女性:片働き	58	31.0	36.2	12.1	-	-	-	19.0	1.7	67.2
	女性:ふたりとも働いていない	44	15.9	18.2	22.7	-	-	2.3	38.6	2.3	34.1
性別別	女性:その他	1	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	回答しない・該当しない	10	30.0	-	10.0	-	-	-	50.0	10.0	30.0
	無回答	2	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-

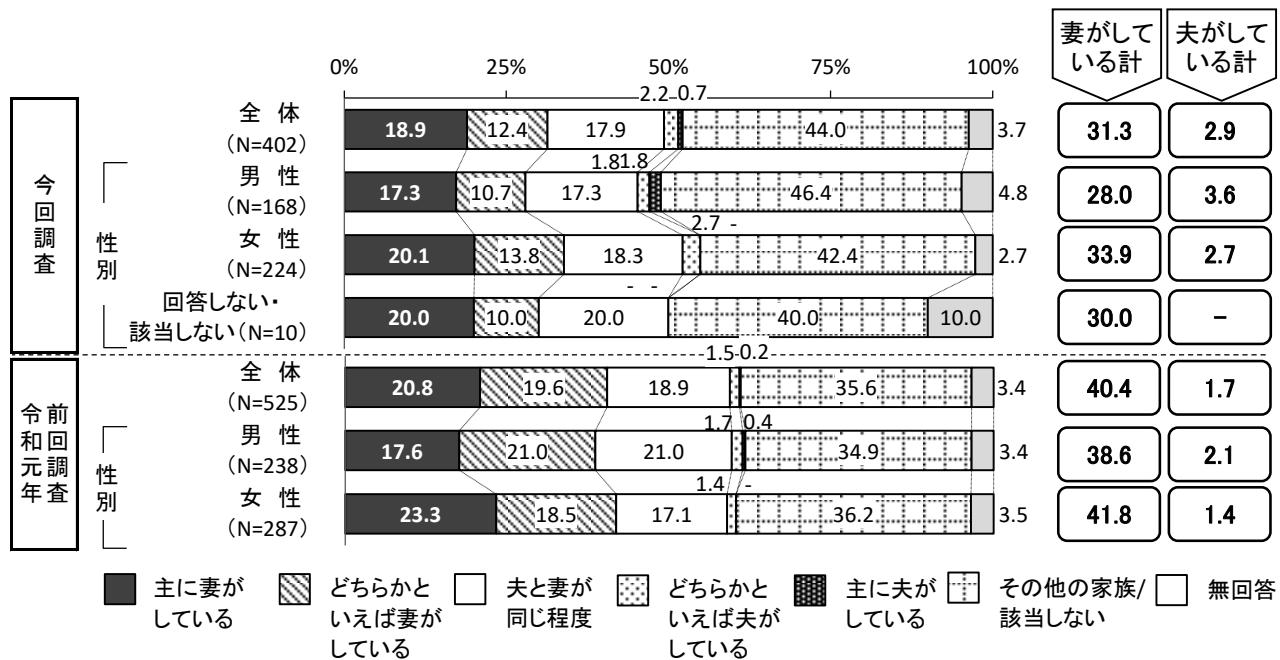
## II 調査結果

### (力) 家族（親、祖父母など）の世話や介護をする

男性の『妻がしている』は 28.0%、女性は 33.9% と女性の方が 5.9 ポイント上回っている。  
「夫と妻が同じ程度」は男女とも約 2 割となっている。

前回調査と比べると、男女とも『妻がしている』の割合が 7.9~10.6 ポイント減り、「その他の家族/該当しない」が 6.2~11.5 ポイント増となっている。

図表 2-11 家族（親、祖父母など）の世話や介護をする [全体、性別]（前回調査比較）



年齢別にみると、女性の 60 歳代で『妻がしている』が 57.4% と最も高く、同年代の男性では 38.0% と 19.4 ポイント差となっている。

図表 2-12 家族（親、祖父母など）の世話や介護をする [全体、年齢別]

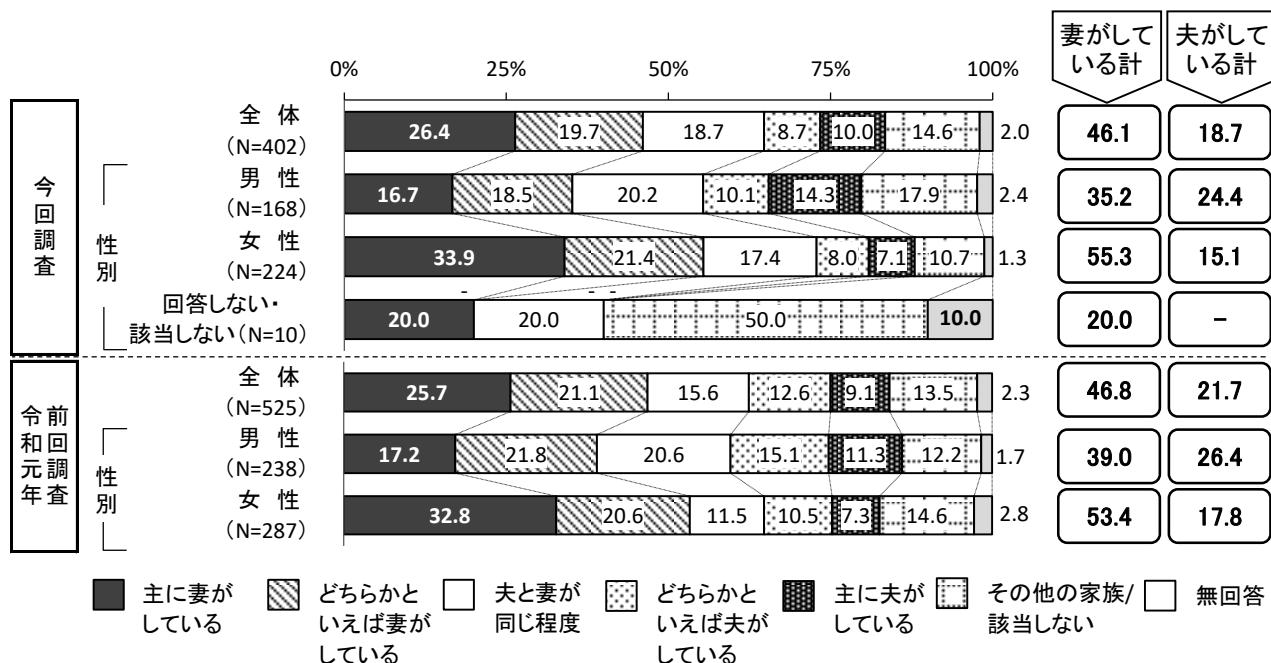
年齢別	標本数	(%)									
		て主に妻がし	しいどてえちらる妻かがと	じ夫程と度妻が同	しいどてえちらる夫かがと	て主にいちらる夫かがと	族その他の家	該当しない	無回答	る妻がしてい	る夫がしてい
全 体	402 100.0	76 18.9	50 12.4	72 17.9	9 2.2	3 0.7	7 1.7	170 42.3	15 3.7	126 31.3	12 2.9
男性:18~20歳代	2	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
男性:30歳代	10	10.0	-	10.0	-	-	20.0	60.0	-	10.0	-
男性:40歳代	22	9.1	9.1	36.4	4.5	-	-	40.9	-	18.2	4.5
男性:50歳代	22	13.6	9.1	31.8	-	-	-	45.5	-	22.7	-
男性:60歳代	50	24.0	14.0	10.0	2.0	4.0	-	44.0	2.0	38.0	6.0
男性:70歳代以上	60	16.7	11.7	13.3	1.7	1.7	-	43.3	11.7	28.4	3.4
女性:18~20歳代	5	-	-	40.0	-	-	-	60.0	-	-	-
女性:30歳代	25	12.0	4.0	28.0	4.0	-	-	52.0	-	16.0	4.0
女性:40歳代	43	18.6	4.7	16.3	2.3	-	4.7	53.5	-	23.3	2.3
女性:50歳代	44	15.9	20.5	22.7	6.8	-	4.5	25.0	4.5	36.4	6.8
女性:60歳代	54	37.0	20.4	16.7	1.9	-	-	22.2	1.9	57.4	1.9
女性:70歳代以上	53	13.2	15.1	11.3	-	-	-	54.7	5.7	28.3	-
回答しない・該当しない	10	20.0	10.0	20.0	-	-	10.0	30.0	10.0	30.0	-
無回答	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-

## (キ) 自治会やPTAなどの地域活動に参加する

男性の『妻がしている』は35.2%、女性は55.3%と女性の方が20.1ポイント上回り、『夫がしている』は男性が24.4%で女性(15.1%)を9.3ポイント上回っている。「夫と妻が同じ程度」は男女とも約2割となっている。

前回調査と比べても、あまり大きな差はみられない。

図表2-13 自治会やPTAなどの地域活動に参加する [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、女性の40歳代で『妻がしている』が62.8%と最も高く、50歳代以上でも5割を超えており、男性は50歳代のみが50.0%となっている。『夫がしている』は男性の40歳代と60歳代以上で2割台半ばから約3割と高い。

図表2-14 自治会やPTAなどの地域活動に参加する [全体、年齢別]

		標本数	て主に妻がし	しいどてえちらる妻かがと	じ夫程度と妻が同	しいどてえちらる夫かがと	て主に妻がし	族その他の家	該当しない	無回答	る妻計がしてい	る夫計がしてい	(%)
全体		402	106	79	75	35	40	1	58	8	185	75	
		100.0	26.4	19.7	18.7	8.7	10.0	0.2	14.4	2.0	46.1	18.7	
年齢別	男性:18~20歳代	2	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	
	男性:30歳代	10	-	20.0	40.0	-	-	-	40.0	-	20.0	-	
	男性:40歳代	22	9.1	31.8	22.7	9.1	18.2	-	9.1	-	40.9	27.3	
	男性:50歳代	22	36.4	13.6	31.8	-	9.1	-	9.1	-	50.0	9.1	
	男性:60歳代	50	16.0	20.0	14.0	12.0	20.0	-	16.0	2.0	36.0	32.0	
	男性:70歳代以上	60	16.7	15.0	18.3	13.3	13.3	-	18.3	5.0	31.7	26.6	
	女性:18~20歳代	5	-	-	-	-	20.0	-	80.0	-	-	20.0	
	女性:30歳代	25	32.0	16.0	28.0	8.0	-	-	16.0	-	48.0	8.0	
	女性:40歳代	43	44.2	18.6	16.3	4.7	2.3	-	14.0	-	62.8	7.0	
	女性:50歳代	44	27.3	25.0	13.6	9.1	6.8	2.3	13.6	2.3	52.3	15.9	
	女性:60歳代	54	38.9	20.4	25.9	5.6	5.6	-	-	3.7	59.3	11.2	
	女性:70歳代以上	53	30.2	26.4	9.4	13.2	15.1	-	5.7	-	56.6	28.3	
回答しない・該当しない		10	20.0	-	20.0	-	-	-	50.0	10.0	20.0	-	
無回答		2	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	50.0	

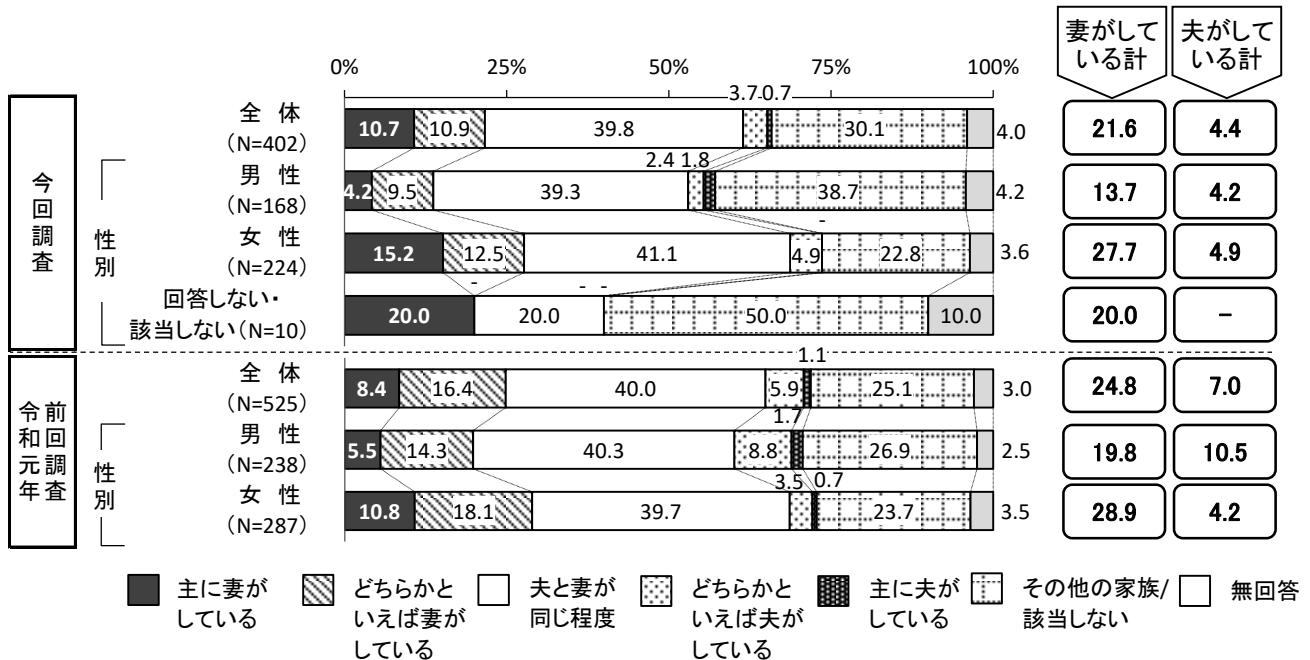
## II 調査結果

(ク) 子どもの教育方針や進学目標を決める

男性の『妻がしている』は13.7%、女性は27.7%と女性の方が14ポイント上回っている。「夫と妻が同じ程度」は男女とも約4割となっている。

前回調査と比べても、あまり大きな差はみられない。

図表2-15 子どもの教育方針や進学目標を決める [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男性の30歳代と40歳代では「夫と妻が同じ程度」が約7割、女性の18~20歳代でも80.0%と高い割合となっている。女性の30歳代から60歳代では『妻がしている』が約3割から5割と同年代の男性に比べて高くなっている。

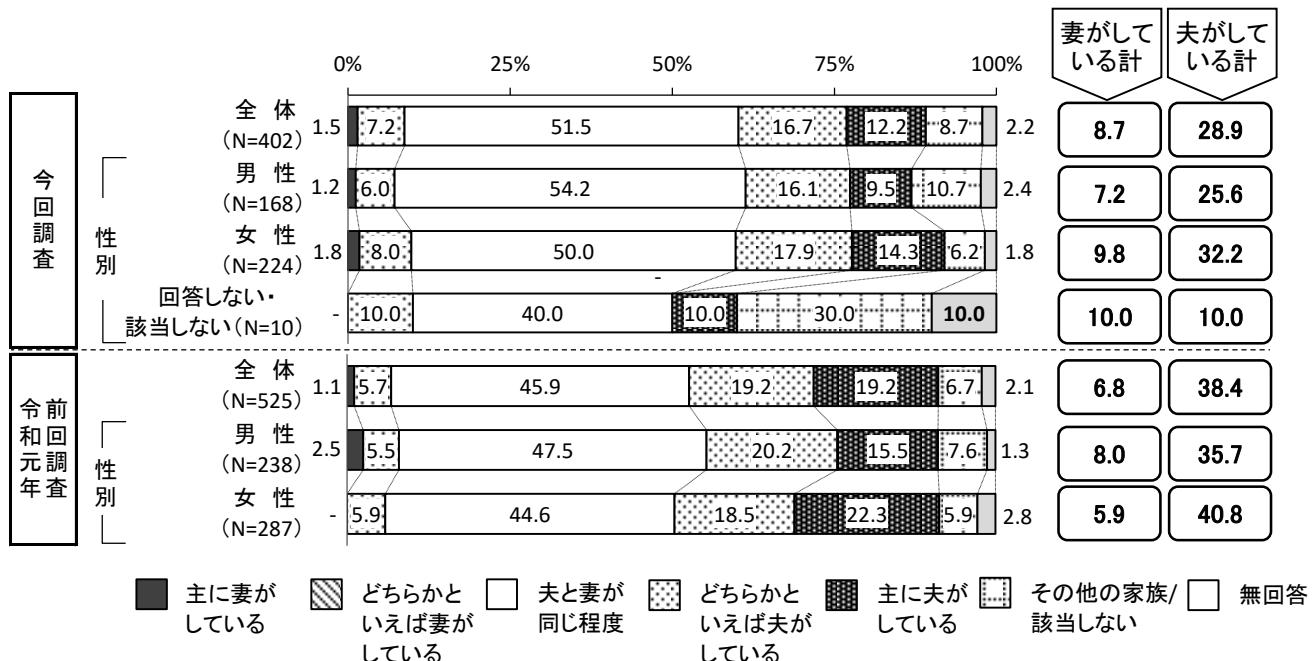
図表 2-16 子どもの教育方針や進学目標を決める [全体、年齢別]

## (ヶ) 高額の商品や土地・家屋の購入を決める

男女とも「夫と妻が同じ程度」の割合が最も高く、男性は 54.2%、女性は 50.0% となってい。女性は『夫がしている』が 32.2% と男性 (25.6%) を 6.6 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、「夫と妻が同じ程度」が男女とも 5.4~6.7 ポイント増えている。

図表 2-17 高額の商品や土地・家屋の購入を決める [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男女ともいずれの年齢でも「夫と妻が同じ程度」の割合が最も高い。『夫がしている』は男性の 30 歳代で 40.0%、50 歳代で 36.3% と他の年齢に比べて高く、女性は 40 歳代から 60 歳代で 3 割台半ばと高くなっている。

図表 2-18 高額の商品や土地・家屋の購入を決める [全体、年齢別]

		標本数	て主いにいる妻がし	しいどてえちらばる妻かがと	じ夫程度と度妻が同	しいどてえちらばる夫かがと	て主いにいる夫がし	族その他の家	該当しない	無回答	る妻がしてい	る夫がしてい
全 体		402 100.0	6 1.5	29 7.2	207 51.5	67 16.7	49 12.2	1 0.2	34 8.5	9 2.2	35 8.7	116 28.9
年齢別	男性:18~20歳代	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30歳代	10	-	10.0	50.0	10.0	30.0	-	-	-	10.0	40.0
	男性:40歳代	22	-	13.6	63.6	18.2	4.5	-	-	-	13.6	22.7
	男性:50歳代	22	-	4.5	40.9	13.6	22.7	-	18.2	-	4.5	36.3
	男性:60歳代	50	2.0	4.0	60.0	14.0	6.0	-	12.0	2.0	6.0	20.0
	男性:70歳代以上	60	1.7	5.0	50.0	20.0	6.7	-	11.7	5.0	6.7	26.7
	女性:18~20歳代	5	-	20.0	40.0	20.0	-	-	20.0	-	20.0	20.0
	女性:30歳代	25	4.0	8.0	60.0	20.0	4.0	-	4.0	-	12.0	24.0
	女性:40歳代	43	2.3	7.0	44.2	20.9	14.0	-	11.6	-	9.3	34.9
	女性:50歳代	44	-	9.1	50.0	9.1	25.0	2.3	2.3	2.3	9.1	34.1
	女性:60歳代	54	1.9	3.7	57.4	22.2	13.0	-	-	1.9	5.6	35.2
	女性:70歳代以上	53	1.9	11.3	43.4	17.0	13.2	-	9.4	3.8	13.2	30.2
回答しない・該当しない		10	-	10.0	40.0	-	10.0	-	30.0	10.0	10.0	10.0
無回答		2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-

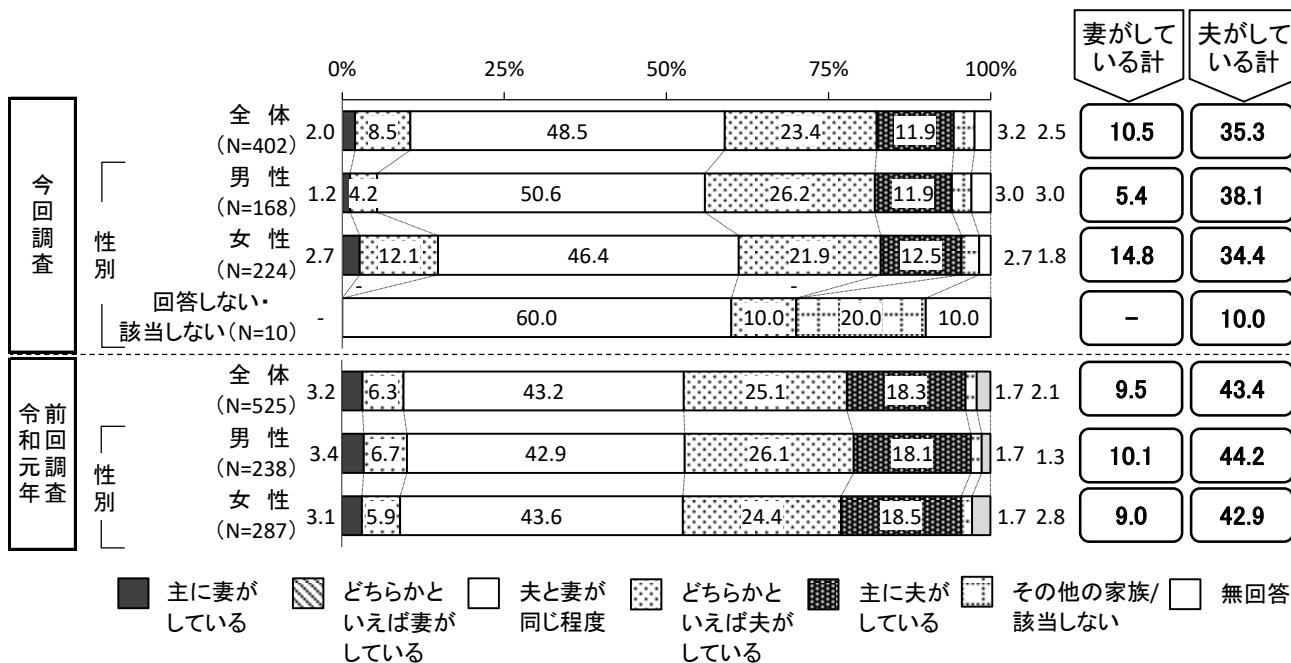
## II 調査結果

### (コ) 家庭の問題における最終的な決定をする

男女とも「夫と妻が同じ程度」の割合が最も高く、男性は 50.6%、女性は 46.4% となっている。次いで『夫がしている』で男性が 38.1%、女性が 34.4% となっている。

前回調査と比べると、「夫と妻が同じ程度」が男性で 7.7 ポイント増えている。『夫がしている』は男女とも 6.1~8.5 ポイント減っている。

図表 2-19 家庭の問題における最終的な決定をする [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男女とも 70 歳以上を除く年齢で「夫と妻が同じ程度」の割合が最も高く、特に男性の 30 歳代、60 歳代、女性の 18~20 歳代では 6 割を超えている。

図表 2-20 家庭の問題における最終的な決定をする [全体、年齢別]

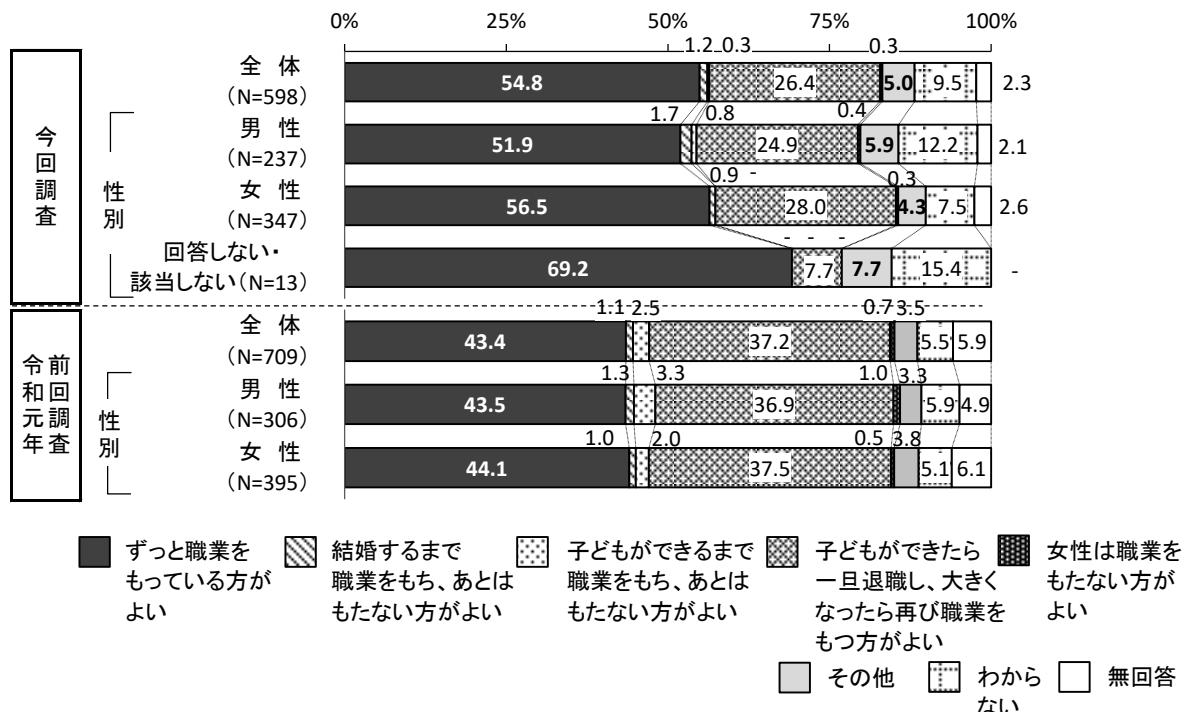
		標本数	て主に妻がし	しいどてえちらいばらる妻かがと	じ夫程度と妻が同	しいどてえちらいばらる夫かがと	て主に妻がし	族その他の家	該当しない	無回答	る妻計がしてい	る夫計がしてい	(%)	
													全体	402
年齢別	男性:18~20歳代	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	100.0
	男性:30歳代	10	-	10.0	70.0	-	20.0	-	-	-	-	10.0	20.0	100.0
	男性:40歳代	22	-	13.6	45.5	36.4	4.5	-	-	-	-	13.6	40.9	100.0
	男性:50歳代	22	-	-	45.5	22.7	22.7	-	9.1	-	-	-	45.4	100.0
	男性:60歳代	50	-	4.0	62.0	20.0	10.0	-	2.0	2.0	4.0	30.0	45.4	100.0
	男性:70歳代以上	60	3.3	1.7	41.7	33.3	11.7	-	1.7	6.7	5.0	45.0	45.0	100.0
	女性:18~20歳代	5	-	20.0	60.0	20.0	-	-	-	-	20.0	20.0	20.0	100.0
	女性:30歳代	25	-	16.0	56.0	16.0	4.0	-	8.0	-	16.0	20.0	20.0	100.0
	女性:40歳代	43	9.3	11.6	34.9	30.2	4.7	-	9.3	-	20.9	34.9	34.9	100.0
	女性:50歳代	44	-	9.1	52.3	11.4	25.0	-	-	2.3	9.1	36.4	36.4	100.0
	女性:60歳代	54	1.9	11.1	51.9	25.9	7.4	-	-	1.9	13.0	33.3	33.3	100.0
	女性:70歳代以上	53	1.9	13.2	39.6	22.6	18.9	-	-	3.8	15.1	41.5	41.5	100.0
回答しない・該当しない		10	-	-	60.0	10.0	-	-	20.0	10.0	-	10.0	10.0	100.0
無回答		2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	100.0

### 3. 就労・働き方について

### (1) 女性が職業をもつことについて

問16 一般的に女性が職業をもつことについて、どう思いますか。(○は1つ)

図表 3-1 女性が職業をもつことについて [全体、性別] (前回調査比較)



女性が職業をもつことについて、「ずっと職業をもっている方がよい」が 54.8%と最も高く、次いで「子どもができたら一旦退職し、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が 26.4%となっている。「結婚するまで職業をもち、あとはもたない方がよい」(1.2%)、「子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい」(0.3%)、「女性は職業をもたない方がよい」(0.3%)などは専業主婦志向であるが、1.8%とわずかである。

性別にみると、「ずっと職業をもっている方がよい」は女性が 56.5% で男性 (51.9%) を 4.6 ポイント上回っているが、「子どもができたら一旦退職し、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」も女性が 28.0% と男性 (24.9%) を 3.1 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「ずっと職業をもっている方がよい」が8.4～12.4ポイント増え、「子どもができたら一旦退職し、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が9.5～12ポイント減っている。

## II 調査結果

年齢別にみると、「ずっと職業をもっている方がよい」は男性の30歳代と女性の50歳代で6割台半ばと高い。「子どもができたら一旦退職し、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は男性の70歳代以上、女性の60歳代以上で3割を超えて、他の年齢に比べて高くなっている。

配偶状況別にみると、女性の未婚では「ずっと職業をもっている方がよい」が58.7%と高く、また配偶者・パートナーがいる人でも57.6%と同程度ある。男性の未婚は「ずっと職業をもっている方がよい」が50.0%、配偶者・パートナーがいる人で53.0%と女性よりもやや低くなっている。

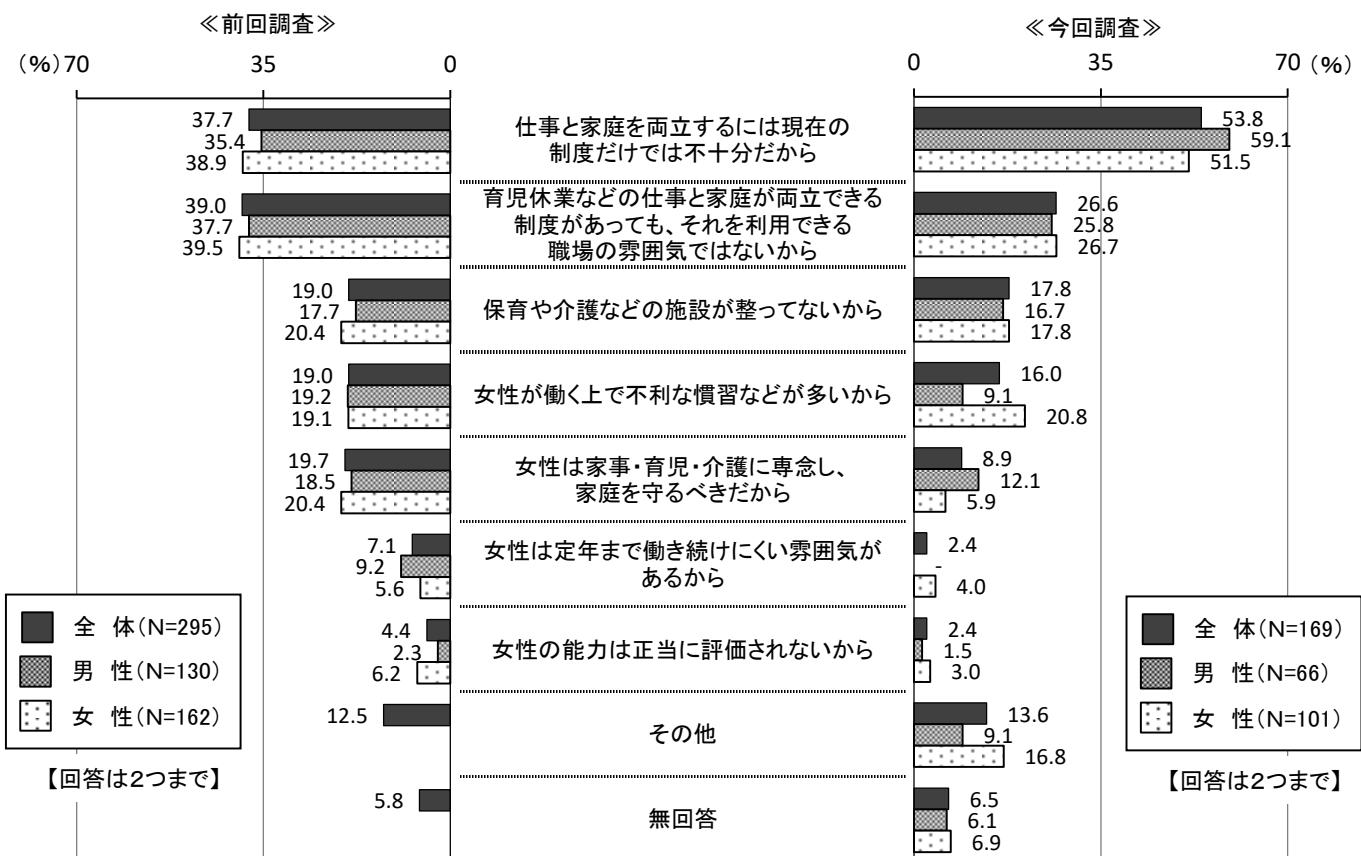
図表3-2 女性が職業をもつことについて [全体、年齢別、配偶状況別]

		標本数	方ずがつよとい職業をもつている	よち結い、婚あするはまもた職な業いを方もが	方を子がもどよちもいがあでときはもたでな職い業	び職子職しど業、もを大がもきでつくなたがつらよた一いら且再退	が女性いは職業をもたない方	その他	わからぬ	無回答	(%)
			598 100.0	328 54.8	7 1.2	2 0.3	158 26.4	2 0.3	30 5.0	57 9.5	14 2.3
年齢別	男性:18~20歳代	14	57.1	—	—	14.3	—	—	28.6	—	
	男性:30歳代	20	65.0	5.0	—	10.0	—	10.0	10.0	—	
	男性:40歳代	33	51.5	—	—	24.2	—	15.2	9.1	—	
	男性:50歳代	36	55.6	—	—	22.2	—	11.1	11.1	—	
	男性:60歳代	63	57.1	—	1.6	19.0	—	1.6	14.3	6.3	
	男性:70歳代以上	68	39.7	4.4	1.5	38.2	1.5	2.9	10.3	1.5	
	女性:18~20歳代	31	48.4	—	—	22.6	—	9.7	16.1	3.2	
	女性:30歳代	36	55.6	2.8	—	27.8	—	2.8	8.3	2.8	
	女性:40歳代	61	57.4	—	—	24.6	—	8.2	8.2	1.6	
	女性:50歳代	61	65.6	1.6	—	21.3	—	3.3	4.9	3.3	
配偶状況別	女性:60歳代	82	54.9	—	—	35.4	—	2.4	6.1	1.2	
	女性:70歳代以上	76	53.9	1.3	—	30.3	1.3	2.6	6.6	3.9	
	回答しない・該当しない	13	69.2	—	—	7.7	—	7.7	15.4	—	
	無回答	4	50.0	—	—	50.0	—	—	—	—	
	男性:配偶者、パートナーがいる	168	53.0	1.8	1.2	28.6	0.6	3.0	10.7	1.2	
	男性:配偶者・パートナーと離死別した	16	50.0	—	—	25.0	—	12.5	6.3	6.3	
配偶状況別	男性:未婚	52	50.0	1.9	—	11.5	—	13.5	19.2	3.8	
	女性:配偶者、パートナーがいる	224	57.6	0.9	—	28.1	0.4	4.5	6.7	1.8	
	女性:配偶者・パートナーと離死別した	60	50.0	—	—	36.7	—	—	6.7	6.7	
	女性:未婚	63	58.7	1.6	—	19.0	—	7.9	11.1	1.6	
回答しない・該当しない		13	69.2	—	—	7.7	—	7.7	15.4	—	
無回答		2	—	—	—	100.0	—	—	—	—	

## 問16-1【問16で「2.」～「5.」のいずれかに答えた方】

そう思うのはどのような理由からですか。(○は2つまで)

図表3-3 女性が職業を継続しない方がいいと思う理由【全体、性別】(前回調査比較)



女性が職業を継続しない方がいいと思う理由は、「仕事と家庭を両立するには現在の制度だけでは不十分だから」が53.8%で最も高く、次いで「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」が26.6%、「保育や介護などの施設が整っていないから」が17.8%、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が16.0%などとなっている。

性別にみると、男性は「仕事と家庭を両立するには現在の制度だけでは不十分だから」が59.1%で女性(51.5%)を7.6ポイント上回り、女性は「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が20.8%で男性(9.1%)を11.7ポイント上回っている。また、男性は「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」(男性12.1%、女性5.9%)が女性よりも6.2ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも「仕事と家庭を両立するには現在の制度だけでは不十分だから」が12.6～23.7ポイント高くなっている、前回の2位から1位の理由となっている。

## II 調査結果

年齢別にみると、「仕事と家庭を両立するには現在の制度だけでは不十分だから「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」などの理由は女性の年齢が低い層で割合が高い傾向がみられる。

図表3-4 女性が職業を継続しない方がいいと思う理由 [全体、年齢別]

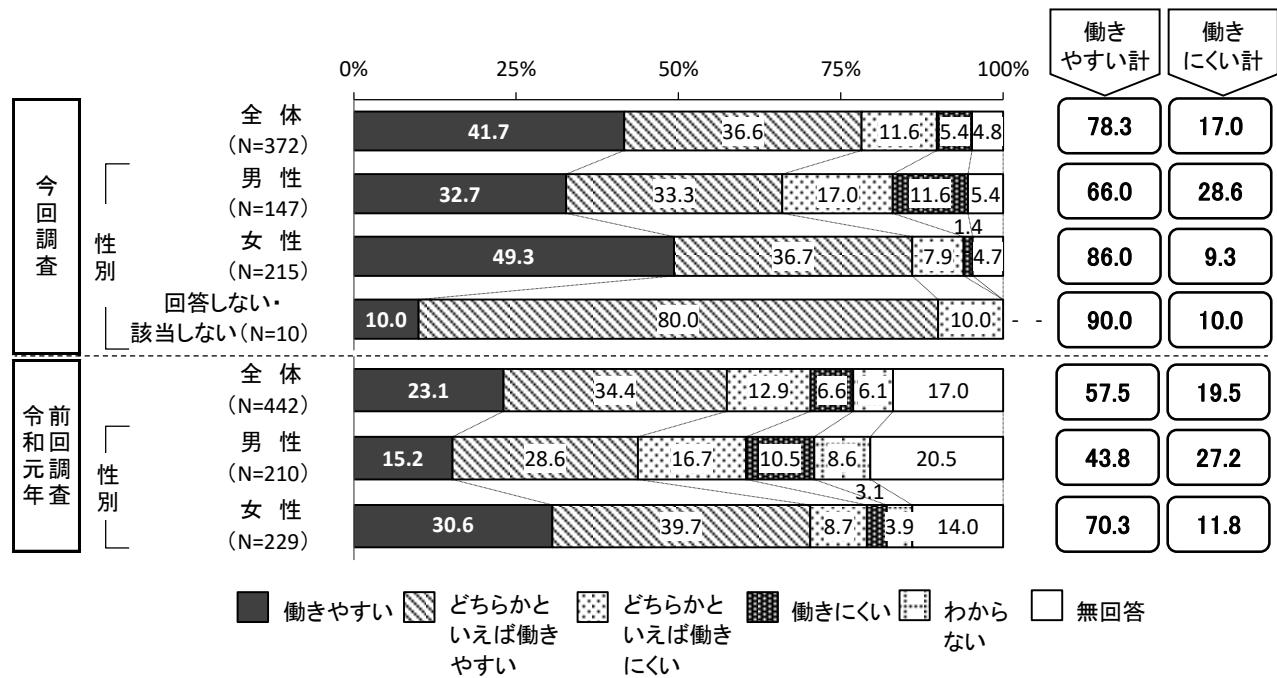
		標本数	家庭性を守る事ベ・きだりから介護に専念し、	女性がある定年まで働き続けにくい雰囲	女性がある定年まで働き続けにくい雰囲	女性の能力は正当に評価されないか	女性からが働く上で不利な慣習などが多いか	育児休業の雰囲気で、職場の仕事でも、家庭でも、それが両立する	仕事だけでは家庭不を両立するには、現在の制	から保育や介護などの施設が整ってない	その他	無回答
			169 100.0	15 8.9	4 2.4	4 2.4	27 16.0	45 26.6	91 53.8	30 17.8	23 13.6	11 6.5
年齢別	男性:18~20歳代	2	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	男性:30歳代	3	33.3	-	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-
	男性:40歳代	8	25.0	-	-	-	-	50.0	25.0	12.5	-	-
	男性:50歳代	8	-	-	-	-	12.5	25.0	100.0	12.5	-	-
	男性:60歳代	13	7.7	-	7.7	7.7	15.4	69.2	7.7	15.4	7.7	7.7
	男性:70歳代以上	31	12.9	-	-	12.9	38.7	45.2	22.6	6.5	9.7	9.7
	女性:18~20歳代	7	-	-	-	28.6	28.6	71.4	14.3	14.3	14.3	14.3
	女性:30歳代	11	-	9.1	-	27.3	36.4	54.5	18.2	27.3	-	-
	女性:40歳代	15	6.7	-	6.7	26.7	33.3	46.7	13.3	20.0	-	-
	女性:50歳代	14	-	14.3	7.1	14.3	35.7	42.9	-	21.4	14.3	14.3
	女性:60歳代	29	-	-	-	13.8	20.7	44.8	34.5	24.1	10.3	10.3
	女性:70歳代以上	25	20.0	4.0	4.0	24.0	20.0	60.0	12.0	-	-	4.0
回答しない・該当しない		1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答		2	-	-	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-

## (2) 勤めている職場は女性にとって働きやすい職場か

## 問17【現在職業をもっている方におたずねします。】

あなたが現在勤めている職場は、女性にとって働きやすい職場だと思いますか。  
(○は1つ)

図表3-5 勤めている職場は女性にとって働きやすい職場か【全体、性別】(前回調査比較)



現在、職業をもっている人に勤めている職場は女性にとって働きやすいかどうかたずねた。「働きやすい」が41.7%、「どちらかといえども働きやすい」が36.6%でこれらをあわせた『働きやすい』は78.3%である。「働きにくい」(5.4%)と「どちらかといえども働きにくい」(11.6%)をあわせた『働きにくい』は17.0%で、『働きやすい』が大きく上回っている。

性別にみると、『働きやすい』は女性が86.0%で男性の66.0%を20ポイント上回っている。男性の『働きにくい』は28.6%と約3割となっている。

前回調査と比べると、男女とも『働きやすい』が15.7~22.2ポイント増えている。

## II 調査結果

職業・職種別にみると、男性の正社員、正規雇用の『働きやすい』は62.9%で、同じく女性では87.9%と女性の方が25ポイント高い。契約社員・派遣社員、パート・アルバイトや自営業・自由業でも『働きやすい』の割合は女性の方が男性よりも11.9~23.8ポイント高くなっている。男性の正社員、正規雇用、契約社員・派遣社員、パート・アルバイトの『働きにくい』は約3割となっている。

年齢別にみると、女性の40歳代と60歳代で『働きやすい』が9割を超えて高くなっている。

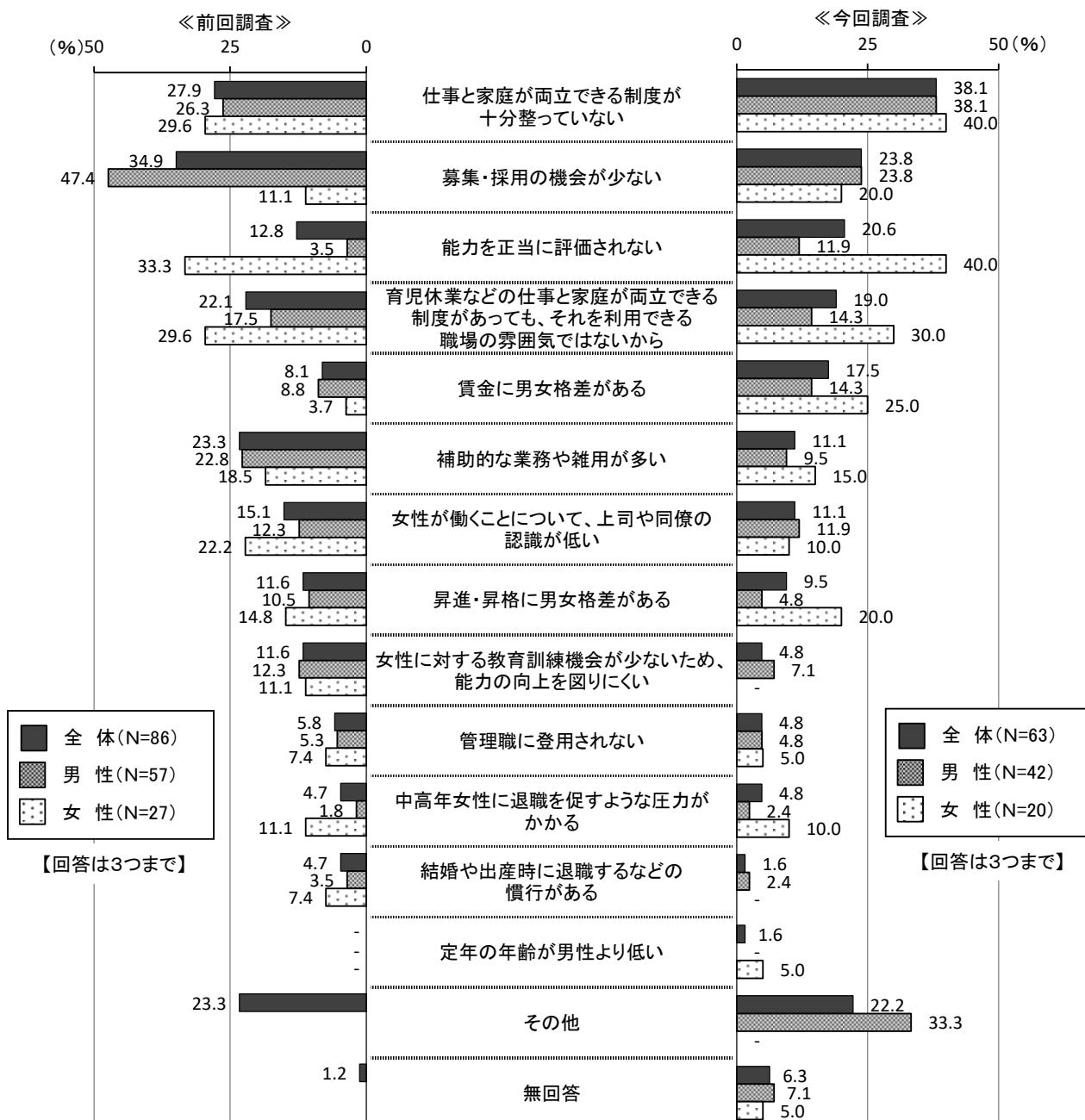
図表3-6 勤めている職場は女性にとって働きやすい職場か [全体、職業・職種別、年齢別]

		標本数	働きやすい	働きどちらにかくいといえれば	働きどちらにかくいといえれば	働きにくくい	無回答	働きやすい計	働きにくい計	(%)
全 体			372 100.0	155 41.7	136 36.6	43 11.6				63 17.0
職業・職種別	男性：正社員、正規雇用	89	29.2	33.7	21.3	10.1	5.6	62.9	31.4	
	男性：契約・派遣社員、パート・アルバイト	38	39.5	31.6	13.2	15.8	-	71.1	29.0	
	男性：自営業、自由業	20	35.0	35.0	5.0	10.0	15.0	70.0	15.0	
	女性：正社員、正規雇用	99	50.5	37.4	9.1	-	3.0	87.9	9.1	
	女性：契約・派遣社員、パート・アルバイト	100	44.0	39.0	8.0	3.0	6.0	83.0	11.0	
	女性：自営業、自由業	16	75.0	18.8	-	-	6.3	93.8	-	
	回答しない・該当しない	10	10.0	80.0	10.0	-	-	90.0	10.0	
年齢別	男性：18~20歳代	6	33.3	16.7	33.3	16.7	-	50.0	50.0	
	男性：30歳代	17	41.2	35.3	23.5	-	-	76.5	23.5	
	男性：40歳代	33	45.5	21.2	21.2	9.1	3.0	66.7	30.3	
	男性：50歳代	33	24.2	42.4	12.1	15.2	6.1	66.6	27.3	
	男性：60歳代	38	28.9	34.2	18.4	10.5	7.9	63.1	28.9	
	男性：70歳代以上	20	25.0	40.0	5.0	20.0	10.0	65.0	25.0	
	女性：18~20歳代	22	45.5	27.3	13.6	4.5	9.1	72.8	18.1	
	女性：30歳代	33	63.6	21.2	9.1	-	6.1	84.8	9.1	
	女性：40歳代	53	41.5	49.1	7.5	-	1.9	90.6	7.5	
	女性：50歳代	51	51.0	33.3	9.8	3.9	2.0	84.3	13.7	
	女性：60歳代	40	52.5	40.0	5.0	-	2.5	92.5	5.0	
	女性：70歳代以上	16	37.5	43.8	-	-	18.8	81.3	-	
	回答しない・該当しない	10	10.0	80.0	10.0	-	-	90.0	10.0	

## 問17-1【問17で「3.」または「4.」と答えた方】

女性にとって働きにくいのはどういう点だと思いますか。(○は3つまで)

図表3-7 女性にとって働きにくいと考える点【全体、性別】(前回調査比較)



現在、勤めている職場が女性にとって働きにくいと考える点は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が38.1%で最も高く、次いで「募集・採用の機会が少ない」が23.8%、「能力を正当に評価されない」が20.6%、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があつても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」が19.0%などとなっている。

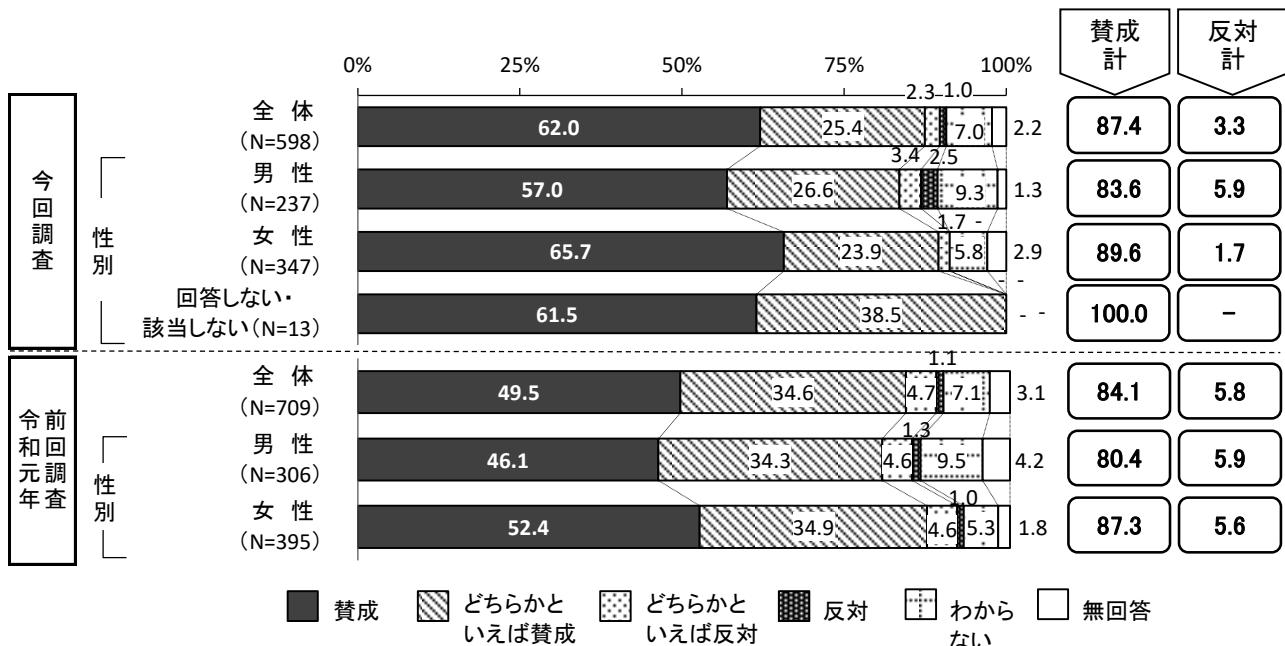
前回調査と比べると、「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が男女とも10.4~11.8増え、「募集・採用の機会が少ない」は男性が23.6ポイント減り、女性は8.9ポイント増えている。

## II 調査結果

### (3) 男性が育児休業・介護休業制度を活用することについて

問18 育児や介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業を取得できる制度があります。男性がこの制度を活用することについてどう思いますか。(○は1つ)

図表3-8 男性が育児休業・介護休業制度を活用することについて [全体、性別] (前回調査比較)



男性が育児休業・介護休業制度を活用することについて、「賛成」が 62.0%、「どちらかといえば賛成」が 25.4% でこれらをあわせた『賛成』は 87.4% である。「反対」(1.0%) と「どちらかといえば反対」(2.3%) をあわせた『反対』は 3.3% とわずかである。

性別にみると、男女とも『賛成』は8割を超え、特に女性では 89.6% と男性 (83.6%) を 6 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『賛成』の割合に大きな差はみられないが、そのうち強い「賛成」の割合が 10.9~13.3 ポイント高くなっている。

### 3. 就労・働き方について

年齢別にみると、男女とも18～20歳代と男性の50歳代で「わからない」が1割台半ばから約2割と他の年齢に比べて高くなっている。男女とも30歳代では『賛成』の割合がほとんどを占めて高くなっている。

配偶状況別にみると、男女とも配偶者、パートナーがいる人で『賛成』の割合が未婚者離死別の人よりも高い。

図表3－9 男性が育児休業・介護休業制度を活用することについて [全体、年齢別、配偶状況別]

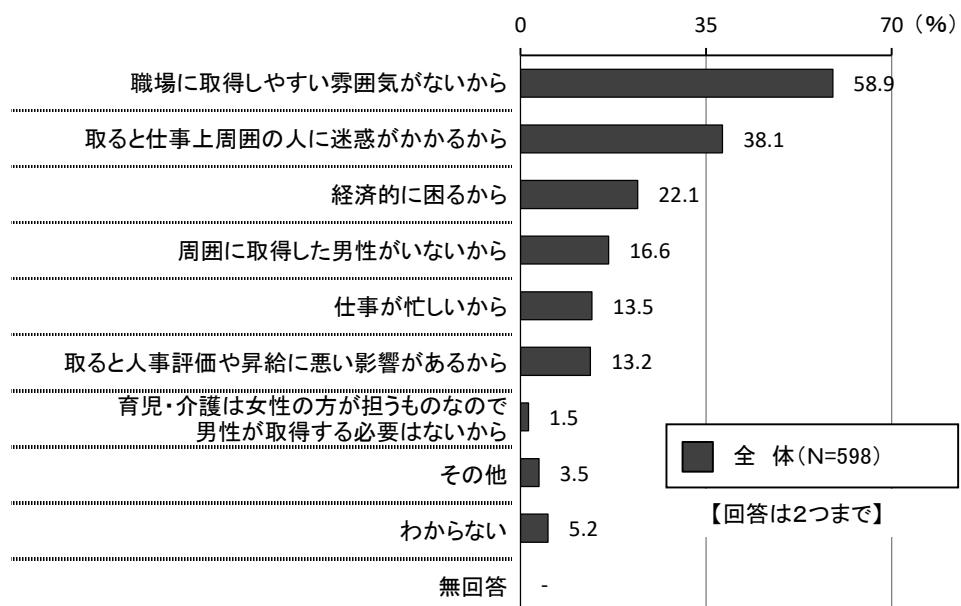
		標本数	賛成	いどえちらばら賛成と	いどえちらばら反対と	反対	わからぬい	無回答	賛成計	反対計	(%)
全 体		598 100.0	371 62.0	152 25.4	14 2.3	6 1.0	42 7.0	13 2.2	523 87.4	20 3.3	
年齢別	男性:18～20歳代	14	71.4	7.1	—	—	21.4	—	78.5	—	
	男性:30歳代	20	80.0	20.0	—	—	—	—	100.0	—	
	男性:40歳代	33	60.6	12.1	12.1	12.1	3.0	—	72.7	24.2	
	男性:50歳代	36	47.2	25.0	—	5.6	19.4	2.8	72.2	5.6	
	男性:60歳代	63	58.7	27.0	3.2	—	9.5	1.6	85.7	3.2	
	男性:70歳代以上	68	50.0	38.2	2.9	—	7.4	1.5	88.2	2.9	
	女性:18～20歳代	31	67.7	9.7	—	—	16.1	6.5	77.4	—	
	女性:30歳代	36	61.1	36.1	—	—	2.8	—	97.2	—	
	女性:40歳代	61	54.1	34.4	—	—	9.8	1.6	88.5	—	
	女性:50歳代	61	68.9	23.0	3.3	—	1.6	3.3	91.9	3.3	
配偶状況別	女性:60歳代	82	76.8	15.9	2.4	—	3.7	1.2	92.7	2.4	
	女性:70歳代以上	76	61.8	25.0	2.6	—	5.3	5.3	86.8	2.6	
	回答しない・該当しない	13	61.5	38.5	—	—	—	—	100.0	—	
	無回答	4	25.0	75.0	—	—	—	—	100.0	—	
	男性:配偶者、パートナーがいる	168	57.1	30.4	2.4	1.8	6.5	1.8	87.5	4.2	
	男性:配偶者・パートナーと離死別した	16	62.5	12.5	—	6.3	18.8	—	75.0	6.3	
	男性:未婚	52	53.8	19.2	7.7	3.8	15.4	—	73.0	11.5	
	女性:配偶者、パートナーがいる	224	63.8	28.1	2.2	—	3.6	2.2	91.9	2.2	
	女性:配偶者・パートナーと離死別した	60	71.7	13.3	1.7	—	8.3	5.0	85.0	1.7	
	女性:未婚	63	66.7	19.0	—	—	11.1	3.2	85.7	—	
	回答しない・該当しない	13	61.5	38.5	—	—	—	—	100.0	—	
	無回答	2	50.0	50.0	—	—	—	—	100.0	—	

## II 調査結果

### (4) 男性の育児休業取得率が低い理由

問19 女性の育児休業取得率は80.2%であるのに対し、男性は17.1%（厚生労働省：令和4年度雇用均等基本調査（全国））となっています。男性の8割以上が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思いますか。（○は2つまで）

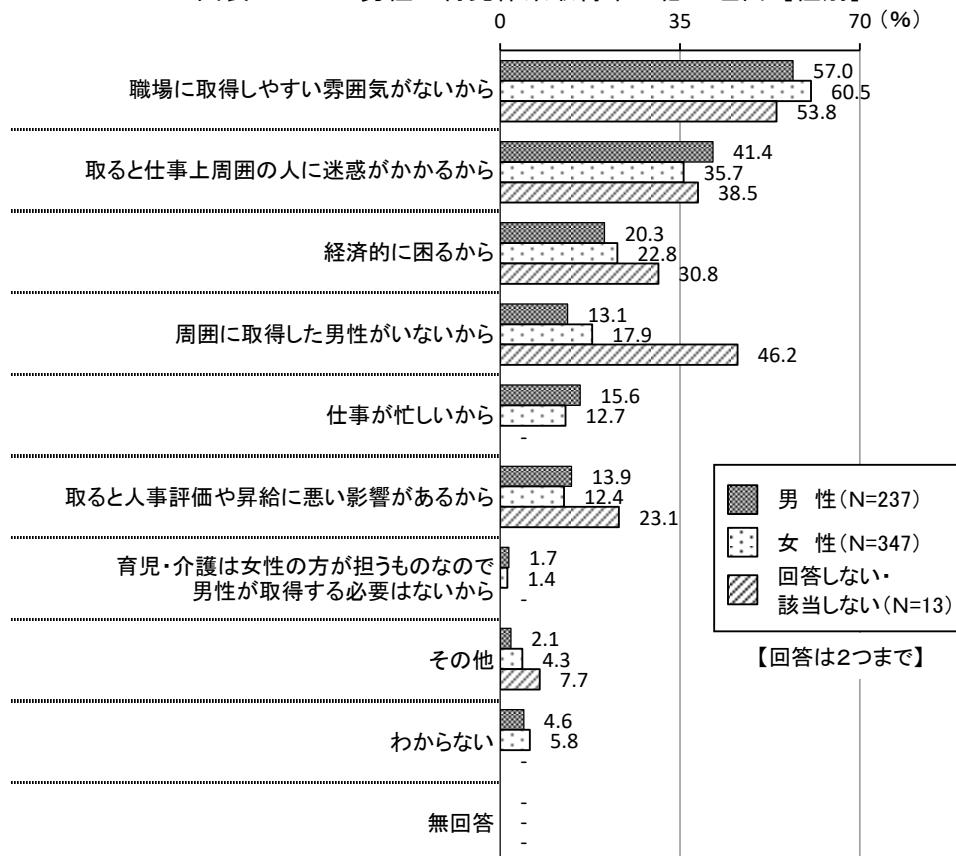
図表3-10 男性の育児休業取得率が低い理由 [全体]



男性の8割以上が育児休業を取得しない（できない）理由について、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が58.9%で最も高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が38.1%となっている。

性別にみると、男女とも職場に取得しやすい雰囲気がないから」が最も高く、男性は「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」（男性41.4%、女性35.7%）や「仕事が忙しいから」（同15.6%、12.7%）などの理由が女性よりもやや高い。

図表 3-11 男性の育児休業取得率が低い理由 [性別]



## II 調査結果

年齢別にみると、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」は女性の30歳代で75.0%と最も高い。「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」は男性の50歳代(52.8%)、「経済的に困るから」は男性の50歳代と30歳代以下で2割台半ばから約3割、「周囲に取得した男性がいないから」は女性の30歳代以下で約3割と他の年齢に比べて高くなっている。

職業・職種別にみると、男性の正社員、正規雇用では「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が49.4%と最も高く、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」(47.2%)をやや上回っている。

図表3-12 男性の育児休業取得率が低い理由 [全体、年齢別、職業・職種別]

		標本数	性周が囲いにない取得かしら男	らい職雰場に気が得なしいやかす	仕事が忙しいから	るの取か入るらにと迷惑事が上か周か囲	ある昇給るかにと悪人い事影評価がや	経済的に困るから	るの育必要男が・は性担介ながう護ない取もはか得の女らすな性	その他	わからぬ	無回答	(%)
		全 体	598	99	352	81	228	79	132	9	21	31	-
		100.0	16.6	58.9	13.5	38.1	13.2	22.1	1.5	3.5	3.5	5.2	-
年齢別	男性:18~20歳代	14	14.3	64.3	-	35.7	7.1	28.6	-	-	14.3	-	-
	男性:30歳代	20	10.0	65.0	35.0	30.0	5.0	25.0	-	5.0	-	-	-
	男性:40歳代	33	24.2	42.4	27.3	45.5	9.1	18.2	3.0	3.0	3.0	-	-
	男性:50歳代	36	16.7	47.2	2.8	52.8	13.9	25.0	-	5.6	8.3	-	-
	男性:60歳代	63	14.3	60.3	15.9	41.3	19.0	19.0	1.6	-	3.2	-	-
	男性:70歳代以上	68	5.9	61.8	14.7	36.8	13.2	17.6	2.9	1.5	4.4	-	-
	女性:18~20歳代	31	29.0	64.5	16.1	16.1	9.7	12.9	-	6.5	9.7	-	-
	女性:30歳代	36	30.6	75.0	13.9	33.3	13.9	19.4	-	2.8	-	-	-
	女性:40歳代	61	18.0	59.0	14.8	45.9	6.6	27.9	1.6	4.9	1.6	-	-
	女性:50歳代	61	23.0	54.1	8.2	27.9	11.5	29.5	3.3	8.2	6.6	-	-
	女性:60歳代	82	8.5	63.4	12.2	40.2	13.4	24.4	-	1.2	9.8	-	-
	女性:70歳代以上	76	13.2	55.3	13.2	38.2	17.1	17.1	2.6	3.9	5.3	-	-
	回答しない・該当しない	13	46.2	53.8	-	38.5	23.1	30.8	-	7.7	-	-	-
	無回答	4	-	50.0	-	75.0	50.0	25.0	-	-	-	-	-
職業・職種別	男性:正社員、正規雇用	89	19.1	47.2	16.9	49.4	7.9	23.6	1.1	2.2	2.2	-	-
	男性:契約・派遣社員、パート・アルバイト	38	15.8	65.8	21.1	26.3	21.1	15.8	2.6	2.6	5.3	-	-
	男性:自営業、自由業	20	10.0	60.0	10.0	30.0	10.0	15.0	10.0	5.0	10.0	-	-
	男性:専業主夫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:学生	8	12.5	62.5	-	37.5	12.5	-	-	-	25.0	-	-
	男性:無職	77	6.5	63.6	14.3	42.9	18.2	23.4	-	1.3	3.9	-	-
	男性:その他	5	-	40.0	20.0	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-
	女性:正社員、正規雇用	99	28.3	67.7	12.1	29.3	9.1	25.3	2.0	5.1	5.1	-	-
	女性:契約・派遣社員、パート・アルバイト	100	15.0	60.0	13.0	42.0	12.0	23.0	2.0	6.0	3.0	-	-
	女性:自営業、自由業	16	12.5	62.5	12.5	37.5	18.8	31.3	-	-	-	-	-
	女性:専業主婦	95	10.5	58.9	12.6	38.9	14.7	21.1	1.1	3.2	6.3	-	-
	女性:学生	7	28.6	57.1	-	14.3	-	28.6	-	-	28.6	-	-
	女性:無職	28	14.3	42.9	17.9	32.1	17.9	14.3	-	3.6	10.7	-	-
	女性:その他	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回答しない・該当しない	13	46.2	53.8	-	38.5	23.1	30.8	-	7.7	-	-	-
	無回答	2	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	50.0	-	-

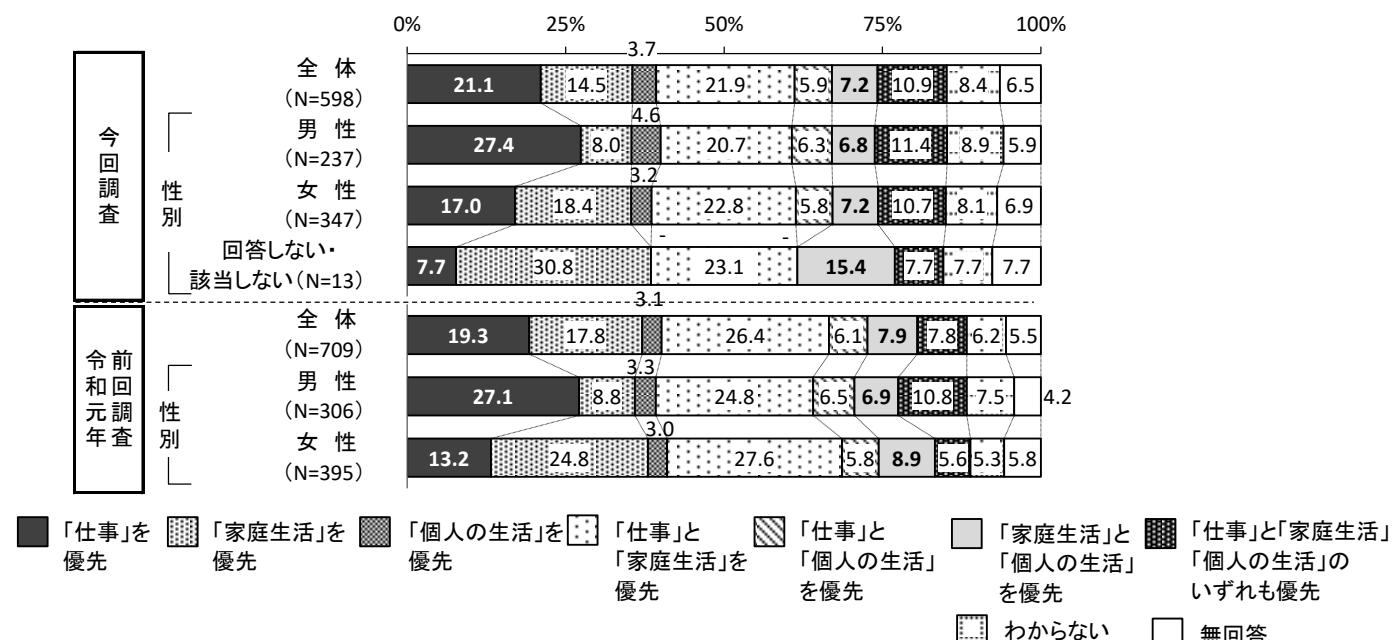
## 4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問20 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度についておたずねします。

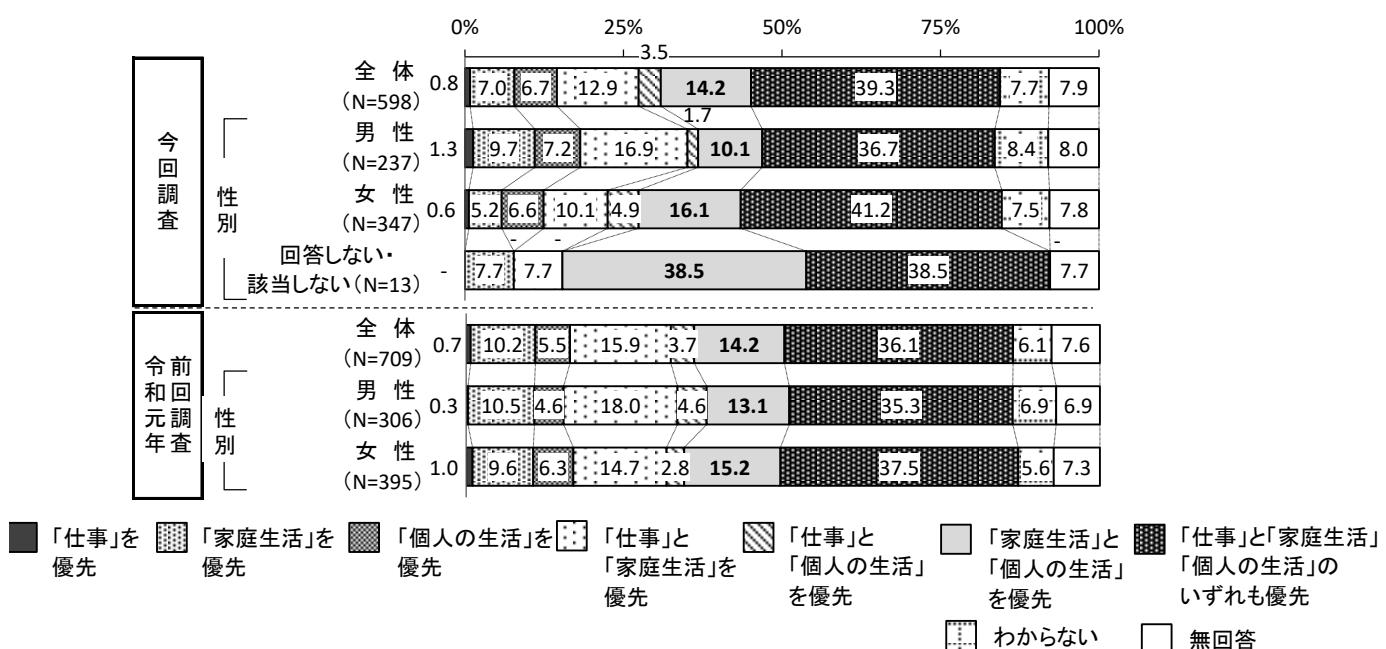
あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。((ア)、(イ)のそれぞれに○は1つ)

図表4-1 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活に調和）について [全体、性別]（前回調査比較）

## (ア) 実際の生活



## (イ) 理想の生活



「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度について、実際の生活では「「仕事」を優先」(21.1%) や「「仕事」と「家庭生活」を優先」(21.9%) が約2割と高く、理想の生活では「「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」のいずれも優先」が39.3%で最も高い。

## II 調査結果

実際の生活を性別にみると、男性は「「仕事」を優先」(27.4%) が女性 (17.0%) よりも 10.4 ポイント、女性は「「家庭生活」を優先」(18.4%) が男性 (8.0%) よりも 10.4 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられないが、女性で「家庭生活」よりも「仕事」を優先する割合がやや高くなっている。

理想の生活を性別にみると、男女とも「「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」のいずれも優先」の割合が最も高いが、男性は 36.7% で女性 (41.2%) の方が 4.5 ポイント低く、男性は「「家庭生活」を優先」(男性 9.7%、女性 5.2%) や「「仕事」と「家庭生活」を優先」(同 16.9%、10.1%) などの割合が女性よりも 4.5~6.8 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられないが、女性で「家庭生活」よりも「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」のいずれも優先」する割合がやや増えている。

実際の生活を年齢別にみると、男性の 50 歳代で「「仕事」を優先」が 44.4% で最も高い。「「仕事」と「家庭生活」を優先」は男性の 30 歳代と 40 歳代、女性の 30 歳代から 50 歳代で約 3 割から約 4 割、「「家庭生活」を優先」は女性の 40 歳代で 31.1% と他の年齢に比べて高くなっている。

図表 4-2 実際の生活について [全体、年齢別]

		標本数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	先個人の生活」を優	活「仕事を優先と家庭生	生活「仕事を優先と個人の	人の家庭生活」を優先個	活「仕事を優先と個人の	わからぬ	無回答	(%)
		全 体	100.0	126	87	22	131	35	43	65	50	39
年齢別	男性:18~20歳代	14	7.1	-	14.3	21.4	21.4	7.1	-	28.6	-	-
	男性:30歳代	20	30.0	5.0	10.0	30.0	10.0	-	15.0	-	-	-
	男性:40歳代	33	39.4	3.0	3.0	39.4	-	3.0	12.1	-	-	-
	男性:50歳代	36	44.4	2.8	2.8	19.4	5.6	8.3	5.6	8.3	2.8	-
	男性:60歳代	63	20.6	9.5	1.6	17.5	6.3	9.5	15.9	11.1	7.9	-
	男性:70歳代以上	68	23.5	14.7	5.9	13.2	5.9	7.4	10.3	10.3	8.8	-
	女性:18~20歳代	31	29.0	6.5	6.5	3.2	6.5	9.7	16.1	19.4	3.2	-
	女性:30歳代	36	16.7	22.2	2.8	36.1	5.6	2.8	8.3	2.8	2.8	-
	女性:40歳代	61	23.0	31.1	1.6	27.9	4.9	1.6	4.9	4.9	4.9	-
	女性:50歳代	61	18.0	8.2	1.6	37.7	4.9	6.6	14.8	3.3	4.9	-
	女性:60歳代	82	9.8	19.5	2.4	18.3	7.3	12.2	13.4	14.6	2.4	-
	女性:70歳代以上	76	14.5	18.4	5.3	13.2	5.3	7.9	7.9	5.3	22.4	-
	回答しない・該当しない	13	7.7	30.8	-	23.1	-	15.4	7.7	7.7	7.7	-
	無回答	4	25.0	-	-	-	-	-	25.0	-	50.0	-

#### 4. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

理想の生活を年齢別にみると、「「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」のいずれも優先」は男性の30歳代を除く、男女のいずれの年齢でも割合が最も高い。男性の30歳代は「「仕事」と「家庭生活」を優先」が35.0%と最も高い。

図表4-3 理想の生活について [全体、年齢別]

		標本数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	先個人の生活」を優	活「仕事を優先と家庭生	生活「仕事を優先と個人の	人の家庭生活」を優先と個人個	活活「仕事を優先と個人の家庭生活」を優先と個人個	わからぬ	無回答
			(%)								
	全 体	598 100.0	5 0.8	42 7.0	40 6.7	77 12.9	21 3.5	85 14.2	235 39.3	46 7.7	47 7.9
年齢別	男性:18~20歳代	14	—	14.3	21.4	—	—	21.4	28.6	14.3	—
	男性:30歳代	20	—	15.0	15.0	35.0	—	5.0	30.0	—	—
	男性:40歳代	33	6.1	15.2	9.1	12.1	—	15.2	30.3	6.1	6.1
	男性:50歳代	36	—	—	5.6	22.2	8.3	8.3	38.9	13.9	2.8
	男性:60歳代	63	1.6	11.1	3.2	12.7	—	6.3	49.2	6.3	9.5
	男性:70歳代以上	68	—	8.8	5.9	19.1	1.5	11.8	30.9	10.3	11.8
	女性:18~20歳代	31	3.2	—	16.1	6.5	6.5	16.1	32.3	16.1	3.2
	女性:30歳代	36	—	5.6	2.8	5.6	2.8	22.2	55.6	—	5.6
	女性:40歳代	61	—	8.2	3.3	9.8	—	24.6	45.9	6.6	1.6
	女性:50歳代	61	—	1.6	8.2	4.9	6.6	19.7	54.1	1.6	3.3
	女性:60歳代	82	1.2	4.9	4.9	13.4	6.1	13.4	37.8	13.4	4.9
	女性:70歳代以上	76	—	7.9	7.9	14.5	6.6	6.6	27.6	6.6	22.4
	回答しない・該当しない	13	—	7.7	—	7.7	—	38.5	38.5	—	7.7
	無回答	4	—	—	—	25.0	—	—	25.0	—	50.0

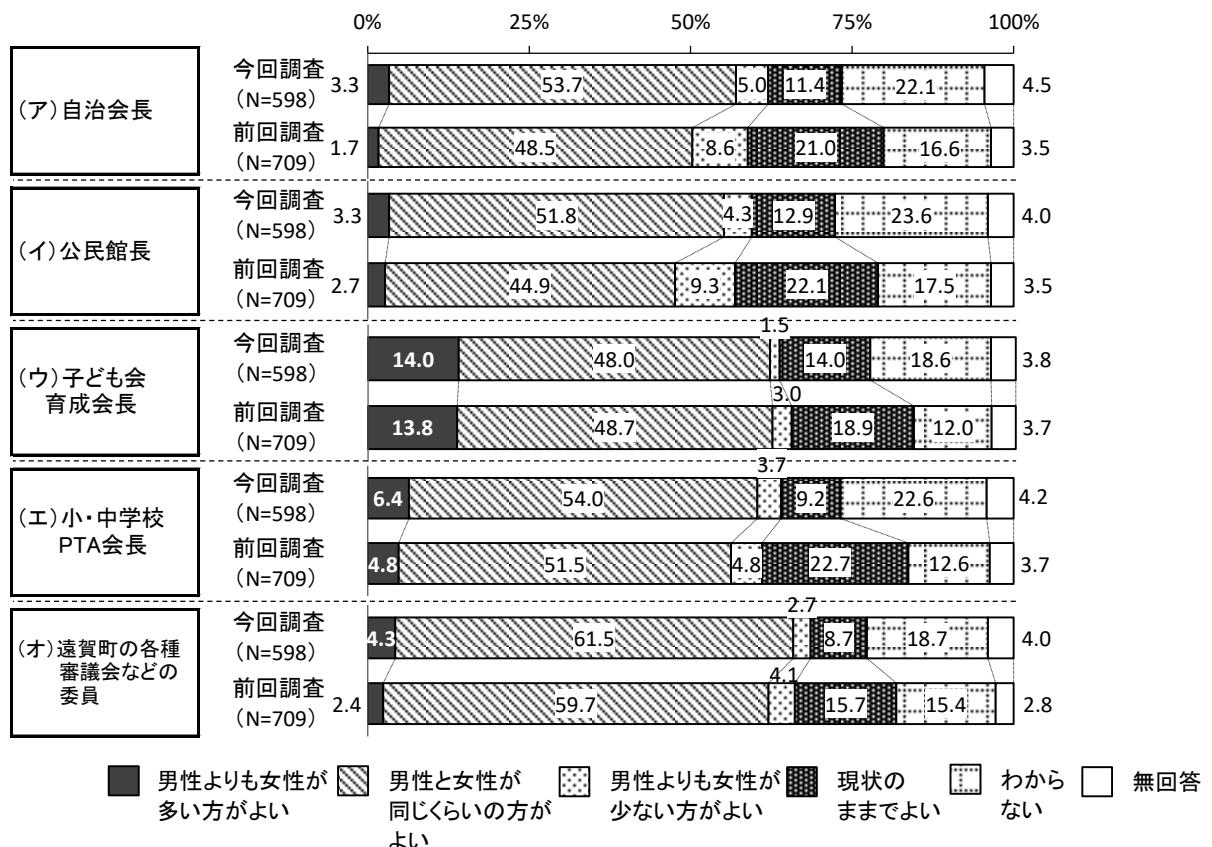
## II 調査結果

### 5. 地域活動や社会活動への参加について

#### (1) 地域の役職に女性がつく望ましい程度

問 21 現在、遠賀町の女性役員の割合は下記のとおりとなっています。次のような役職に、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。((ア)～(オ)のそれぞれに○は1つ)

図表5-1 地域の役職に女性がつく望ましい程度 [全体] (前回調査比較)



地域の役職に女性がどの程度つくことが望ましいかたずねた。いずれの役職も「男性と女性が同じくらいの方がよい」の割合が約5割から6割で最も高いが、「子ども会育成会長」は「男性よりも女性が多い方がよい」が14.0%と他の役職よりも高くなっている。「現状のままでよい」はいずれの役職も1割前後ある。

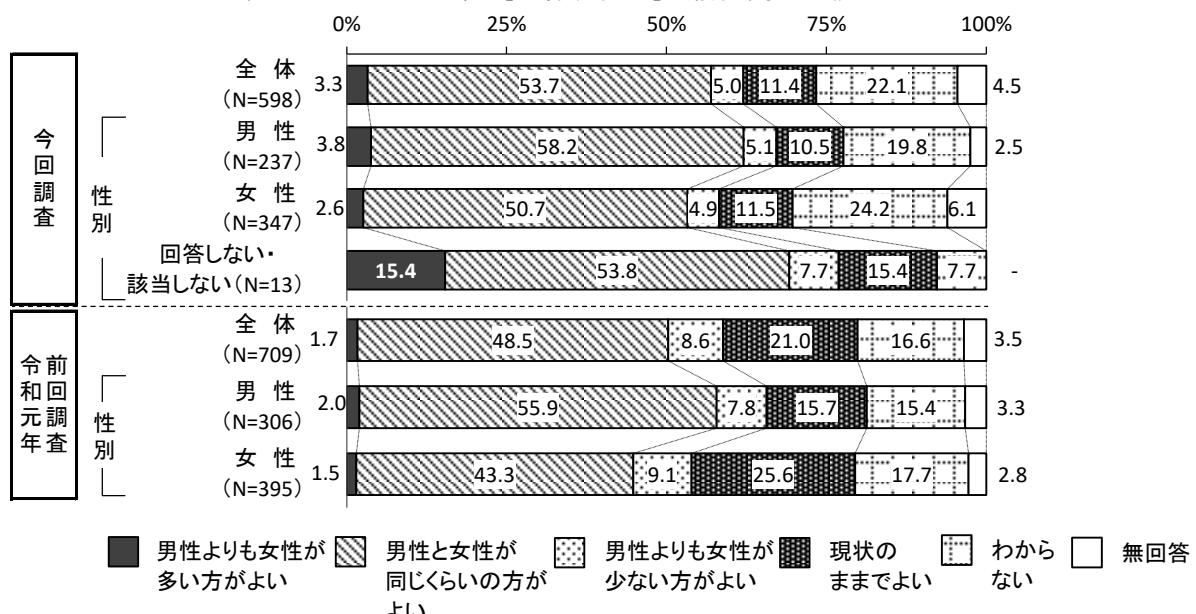
前回調査と比べると、「子ども会育成会長」を除く役職で「男性と女性が同じくらいの方がよい」の割合がやや増え、「現状のままでよい」は減っている。

## (ア) 自治会長

自治会長について、男性の「男性と女性が同じくらいの方がよい」は 58.2%と女性（50.7%）を 7.5 ポイント上回っている。女性は「わからない」が男性より 4.4 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「男性と女性が同じくらいの方がよい」の割合が増え、特に女性では 7.4 ポイント増え、「現状のままでよい」は 14.1 ポイント減っている。

図表 5-2 自治会長 [全体、性別] (前回調査比較)

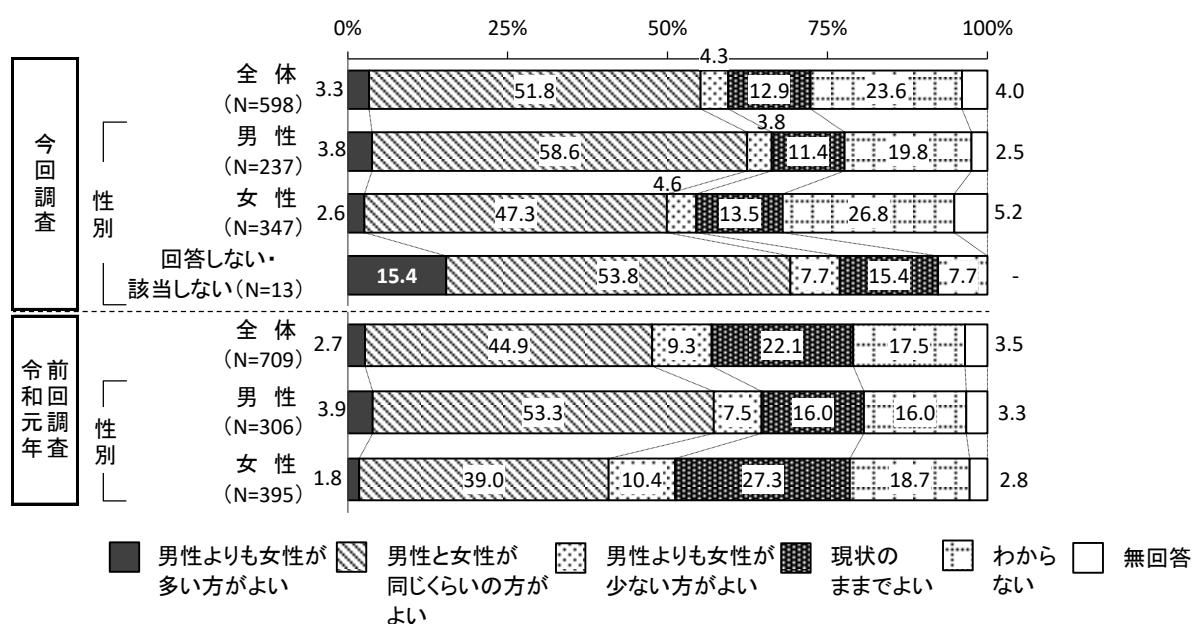


## (イ) 公民館長

公民館長について、男性の「男性と女性が同じくらいの方がよい」は 58.6%と女性（47.3%）を 11.3 ポイント上回っている。女性は「わからない」が男性より 7 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「男性と女性が同じくらいの方がよい」の割合が 5.3~8.3 ポイント増え、「現状のままでよい」は 4.6~13.8 ポイント減るなど、特に女性の変化が大きい。

図表 5-3 公民館長 [全体、性別] (前回調査比較)



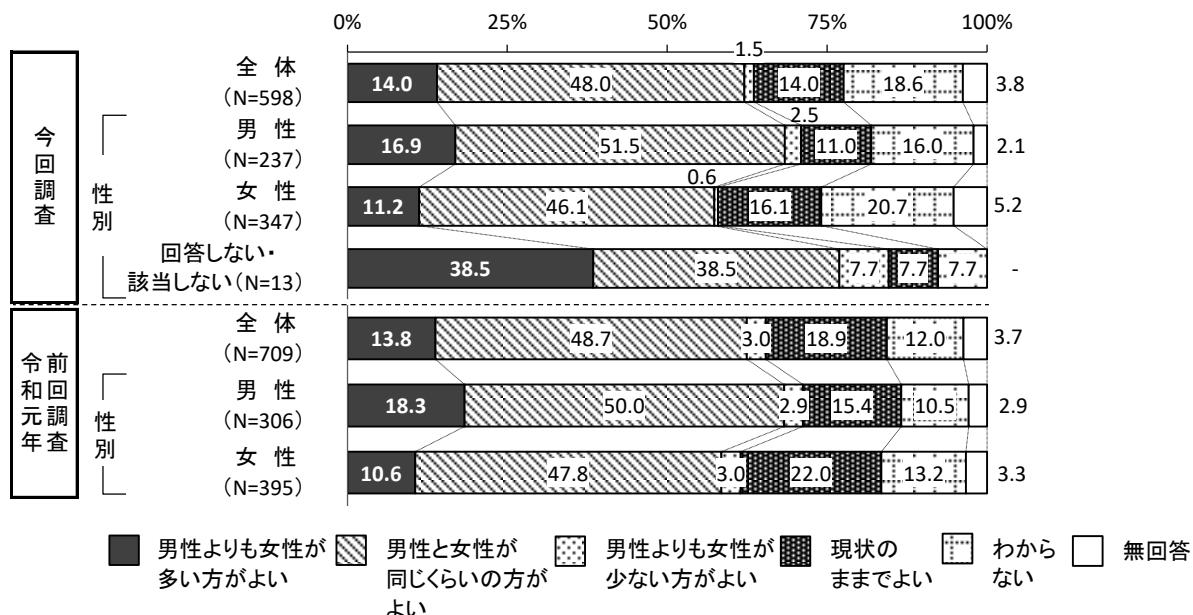
## II 調査結果

### (ウ) 子ども会育成会長

子ども会育成会長について、男性の「男性と女性が同じくらいの方がよい」は 51.5%と女性 (46.1%) を 5.4 ポイント上回り、また、男性の「男性よりも女性が多い方がよい」(16.9%) も女性 (11.2%) を 5.7 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられない。

図表 5-4 子ども会育成会長 [全体、性別] (前回調査比較)

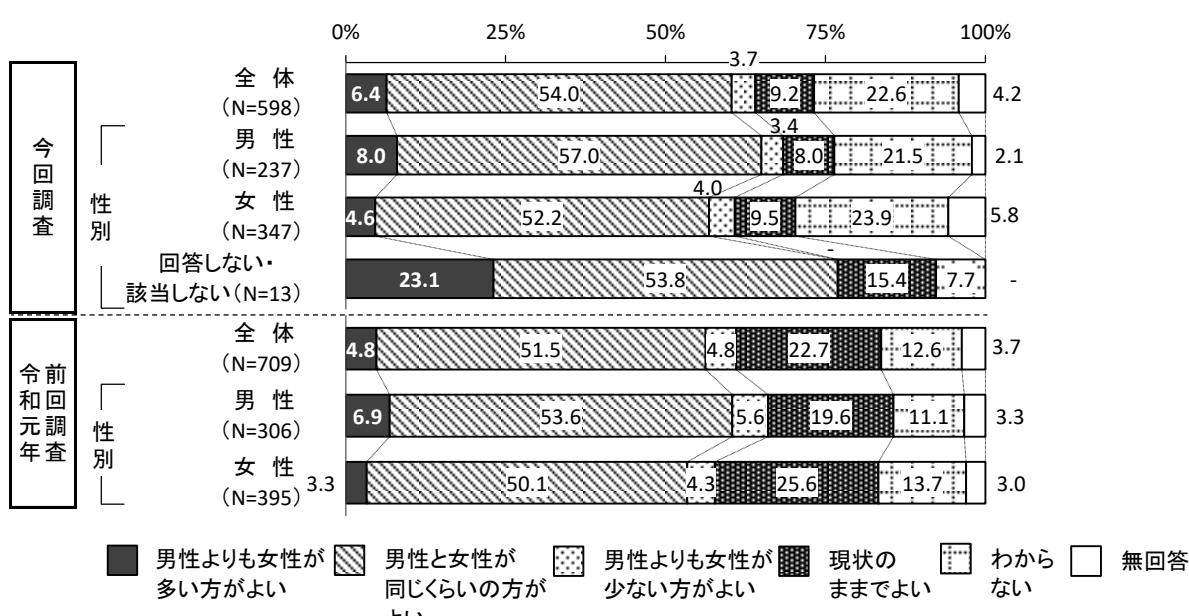


### (エ) 小・中学校 P T A 会長

小・中学校 P T A 会長について、男性の「男性と女性が同じくらいの方がよい」は 57.0%と女性 (52.2%) を 4.8 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「男性と女性が同じくらいの方がよい」の割合がやや増え、「現状のままでよい」は 11.6~16.1 ポイント減っている。

図表 5-5 小・中学校 P T A 会長 [全体、性別] (前回調査比較)

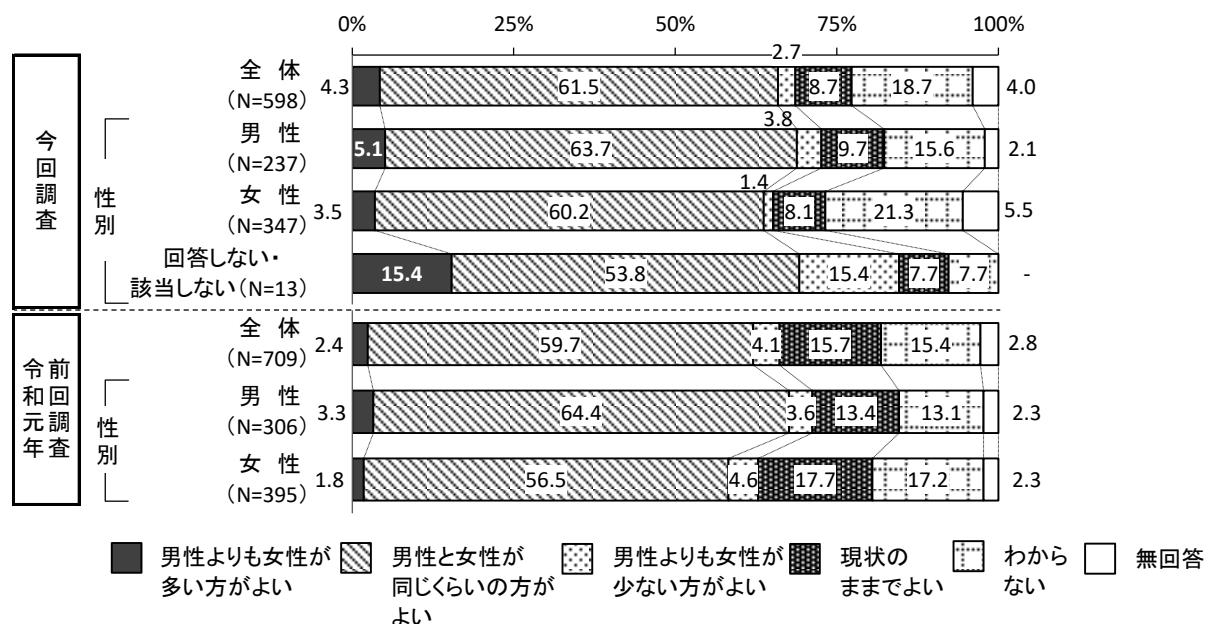


## (才) 遠賀町の各種審議会などの委員

遠賀町の各種審議会などの委員について、男性の「男性と女性が同じくらいの方がよい」は63.7%と女性（60.2%）を3.5ポイント上回っている。女性は「わからない」が男性より5.7ポイント高い。

前回調査と比べると、女性で「男性と女性が同じくらいの方がよい」の割合が3.7ポイント増え、「現状のままでよい」は9.6ポイント減っている。

図表5-6 遠賀町の各種審議会などの委員 [全体、性別] (前回調査比較)

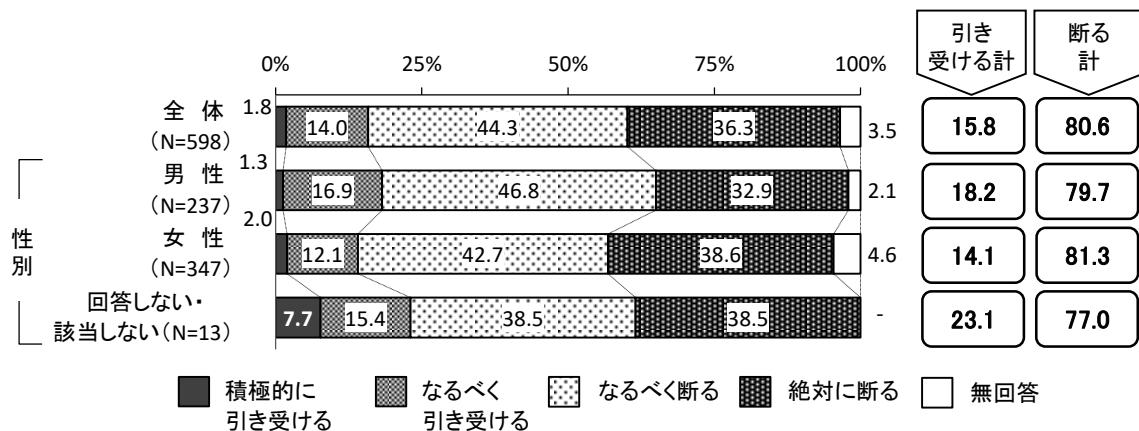


## II 調査結果

### (2) 地域の役職に就くことについて

問22 自治会長や公民館長、PTA会長など地域の役職に就くことについておたずねします。(1)あなたが推薦されたらどうしますか。(○は1つ)

図表5-7 地域の役職にあなたが推薦された場合 [全体、性別]



地域の役職に対象者本人が推薦された場合の対応は、「なるべく断る」が44.3%と最も高く、次いで「絶対断る」の36.3%をあわせた『断る』は80.6%となっている。「積極的に引き受ける」は1.8%、「なるべく引き受ける」は14.0%とこれらをあわせた『引き受ける』は15.8%となっている。

性別にみると、男女とも『断る』割合は約8割であるが、そのうち女性は「絶対に断る」が38.6%と男性(32.9%)を5.7ポイント上回っている。

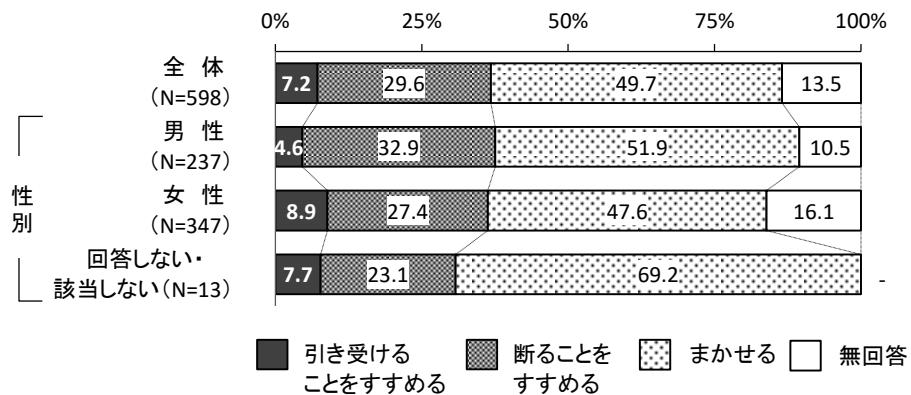
年齢別にみると、女性の40歳代と60歳代では『断る』が約9割と高い。女性の30歳代と50歳代では『引き受ける』が2割台半ばで他の年齢に比べて高くなっている。

図表5-8 地域の役職にあなたが推薦された場合 [全体、年齢別]

		標本数	受積極的に引き	受なれるべく引き	なるべく断る	絶対に断る	無回答	受引きける	断る	(%)
全 体		598 100.0	11 1.8	84 14.0	265 44.3	217 36.3	21 3.5	95 15.8	482 80.6	
年齢別	男性:18~20歳代	14	-	14.3	35.7	42.9	7.1	14.3	78.6	
	男性:30歳代	20	5.0	25.0	50.0	20.0	-	30.0	70.0	
	男性:40歳代	33	-	18.2	39.4	42.4	-	18.2	81.8	
	男性:50歳代	36	2.8	16.7	44.4	33.3	2.8	19.5	77.7	
	男性:60歳代	63	1.6	15.9	50.8	31.7	-	17.5	82.5	
	男性:70歳代以上	68	-	16.2	48.5	30.9	4.4	16.2	79.4	
	女性:18~20歳代	31	-	9.7	58.1	22.6	9.7	9.7	80.7	
	女性:30歳代	36	2.8	19.4	41.7	36.1	-	22.2	77.8	
	女性:40歳代	61	-	9.8	42.6	47.5	-	9.8	90.1	
	女性:50歳代	61	4.9	19.7	36.1	34.4	4.9	24.6	70.5	
	女性:60歳代	82	3.7	4.9	43.9	45.1	2.4	8.6	89.0	
	女性:70歳代以上	76	-	13.2	40.8	35.5	10.5	13.2	76.3	
回答しない・該当しない 無回答		13 4	7.7 -	15.4 -	38.5 75.0	38.5 25.0	-	-	-	100.0

問22 自治会長や公民館長、PTA会長など地域の役職に就くことについておたずねします。(2) 配偶者・パートナーなどが推薦されたらどうしますか。(○は1つ)

図表5-9 配偶者・パートナーが推薦された場合 [全体、性別]



地域の役職に配偶者・パートナーが推薦された場合の対応は、「まかせる」が49.7%と最も高く、次いで「断ることをすすめる」が29.6%で、「引き受けることをすすめる」は7.2%である。

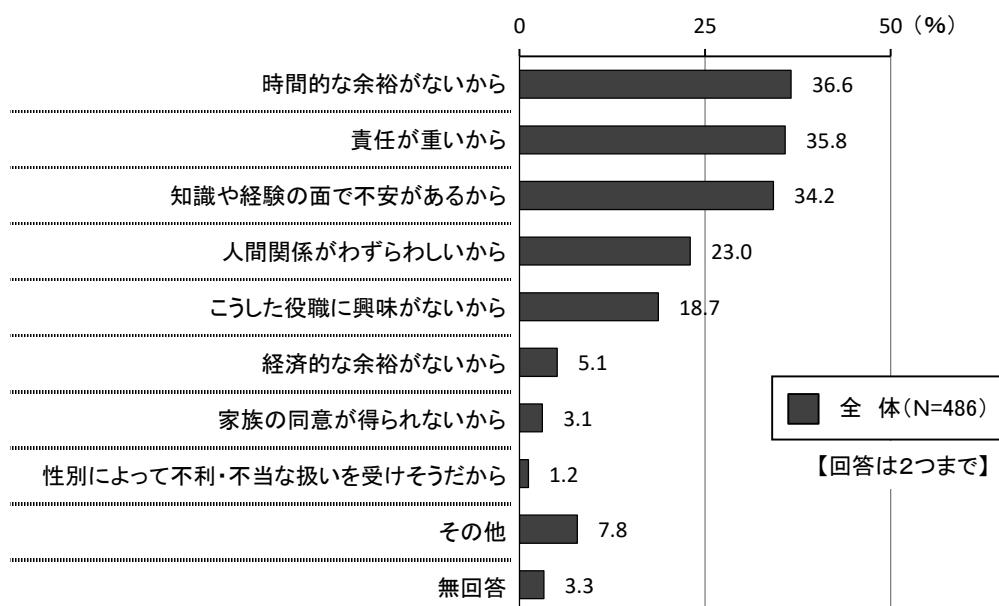
性別にみると、男性の「まかせる」は51.9%で女性(47.6%)よりも4.3ポイント高いものの、「断ることをすすめる」は32.9%と女性(27.4%)より5.5ポイント高く、「引き受けることをすすめる」は4.6%で女性(8.9%)より4.3ポイント低くなっている。

## II 調査結果

### (3) 地域の役職を断る理由

問22-1【問22の（1）で「3.」または「4.」、あるいは（2）で「2.」と答えた方】  
地域の役職や公職を断る（断ることを進める）のは、どのような理由からですか。  
(○は2つまで)

図表5-10 地域の役職を断る理由【全体】

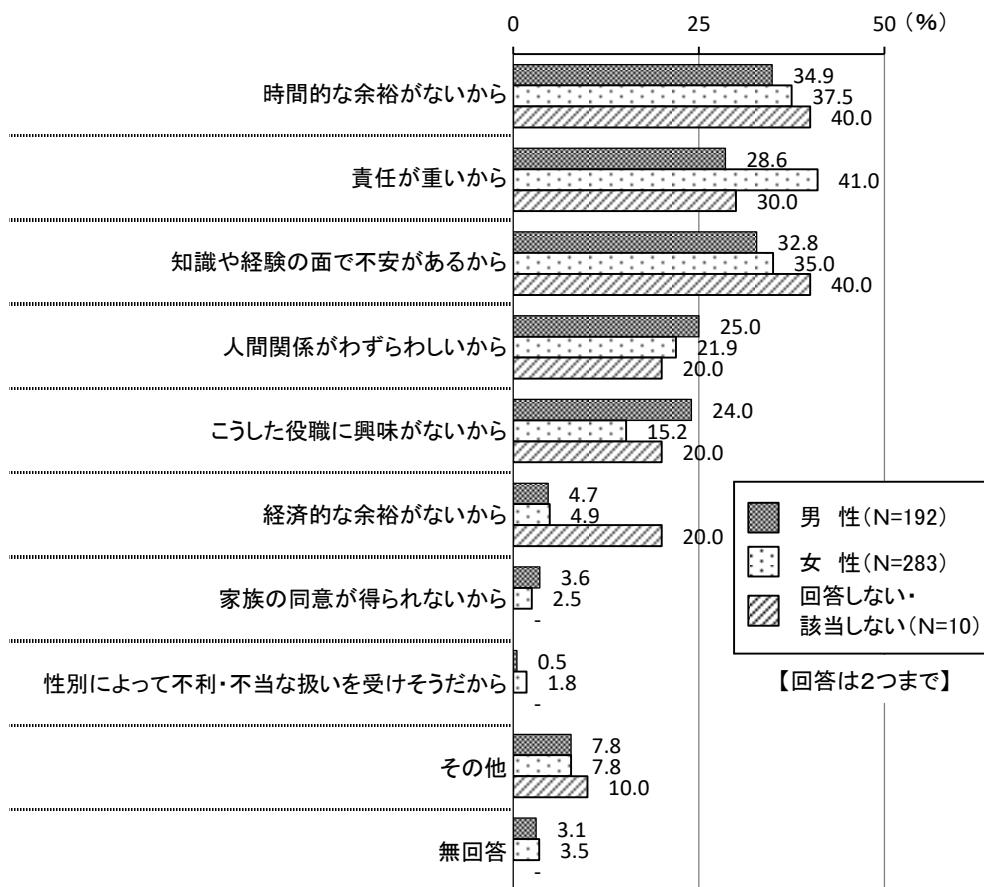


地域の役職を断る、または配偶者・パートナーが推薦された場合に断ることをすすめる人に、その理由をたずねた。「時間的な余裕がないから」(36.6%)、「責任が重いから」(35.8%)、「知識や経験の面で不安があるから」(34.2%)などの理由が3割台半ばで上位にあげられている。

性別にみると、上位3位にあげられた項目はいずれも女性の割合が男性よりも高く、特に「責任が重いから」は41.0%と男性(28.6%)を12.4ポイント上回り、第1位の理由となっている。男性は「人間関係がわづらわしいから」「こうした役職に興味がないから」などの理由が女性よりも割合が高くなっている。

## 5. 地域活動や社会活動への参加について

図表 5-11 地域の役職を断る理由 [性別]



年齢別にみると、男女とも 30 歳代と 40 歳代で「時間的な余裕がないから」が 6 割台と高い。「責任が重いから」は女性の 30 歳代で 48.3% と最も高く、「知識や経験の面で不安があるから」は女性の 18~20 歳代と 50 歳代、60 歳代で約 4 割、男性の 70 歳以上で 54.5% と高い。

図表 5-12 地域の役職を断る理由 [全体、年齢別]

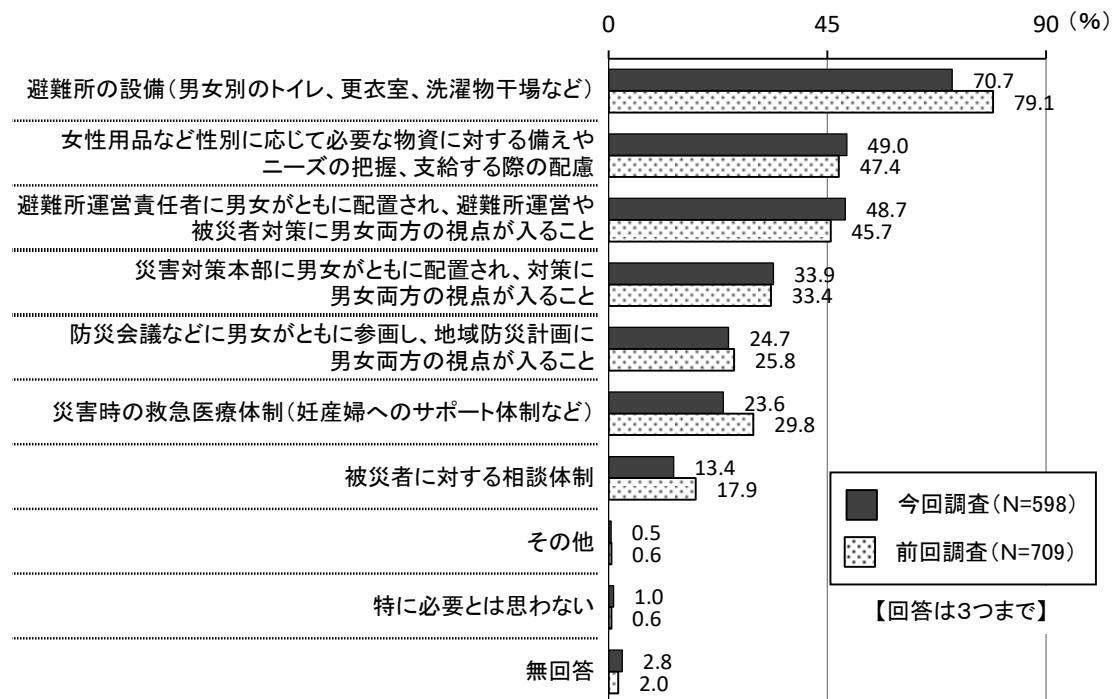
		標本数	責任が重いから	不知安識がある経験から面で	い時間的な余裕がな	い経済的な余裕がな	れ家庭的な同意が得ら	わ人し間にか係らがわづら	受け・別そ不にう当よだなつか扱てらい不を	味こうなしたか役職に興	その他	無回答	(%)
全 体		486 100.0	174 35.8	166 34.2	178 36.6	25 5.1	15 3.1	112 23.0	6 1.2	91 18.7	38 7.8	16 3.3	
年齢別	男性:18~20歳代	11	18.2	9.1	54.5	9.1	-	36.4	-	27.3	-	-	
	男性:30歳代	15	40.0	13.3	60.0	6.7	-	6.7	-	20.0	6.7	13.3	
	男性:40歳代	27	18.5	18.5	63.0	-	11.1	25.9	-	18.5	3.7	-	
	男性:50歳代	28	25.0	32.1	46.4	3.6	3.6	25.0	-	21.4	3.6	-	
	男性:60歳代	53	32.1	30.2	28.3	9.4	3.8	22.6	1.9	26.4	13.2	1.9	
	男性:70歳代以上	55	32.7	54.5	10.9	1.8	1.8	29.1	-	25.5	7.3	5.5	
	女性:18~20歳代	25	40.0	40.0	44.0	8.0	-	12.0	-	24.0	4.0	-	
	女性:30歳代	29	48.3	20.7	62.1	-	-	13.8	-	20.7	-	6.9	
	女性:40歳代	55	40.0	32.7	60.0	5.5	3.6	21.8	-	14.5	-	3.6	
	女性:50歳代	43	30.2	39.5	41.9	2.3	4.7	25.6	2.3	23.3	2.3	-	
	女性:60歳代	73	43.8	38.4	28.8	6.8	4.1	26.0	5.5	12.3	8.2	1.4	
	女性:70歳代以上	58	43.1	34.5	8.6	5.2	-	22.4	-	6.9	24.1	8.6	
	回答しない・該当しない	10	30.0	40.0	40.0	20.0	-	20.0	-	20.0	10.0	-	
	無回答	4	-	-	50.0	-	25.0	25.0	-	25.0	25.0	-	

## II 調査結果

### 6. 防災対策について

問23 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思うことは何ですか。  
(○は3つまで)

図表6-1 防災対策で必要な対応【全体】(前回調査)



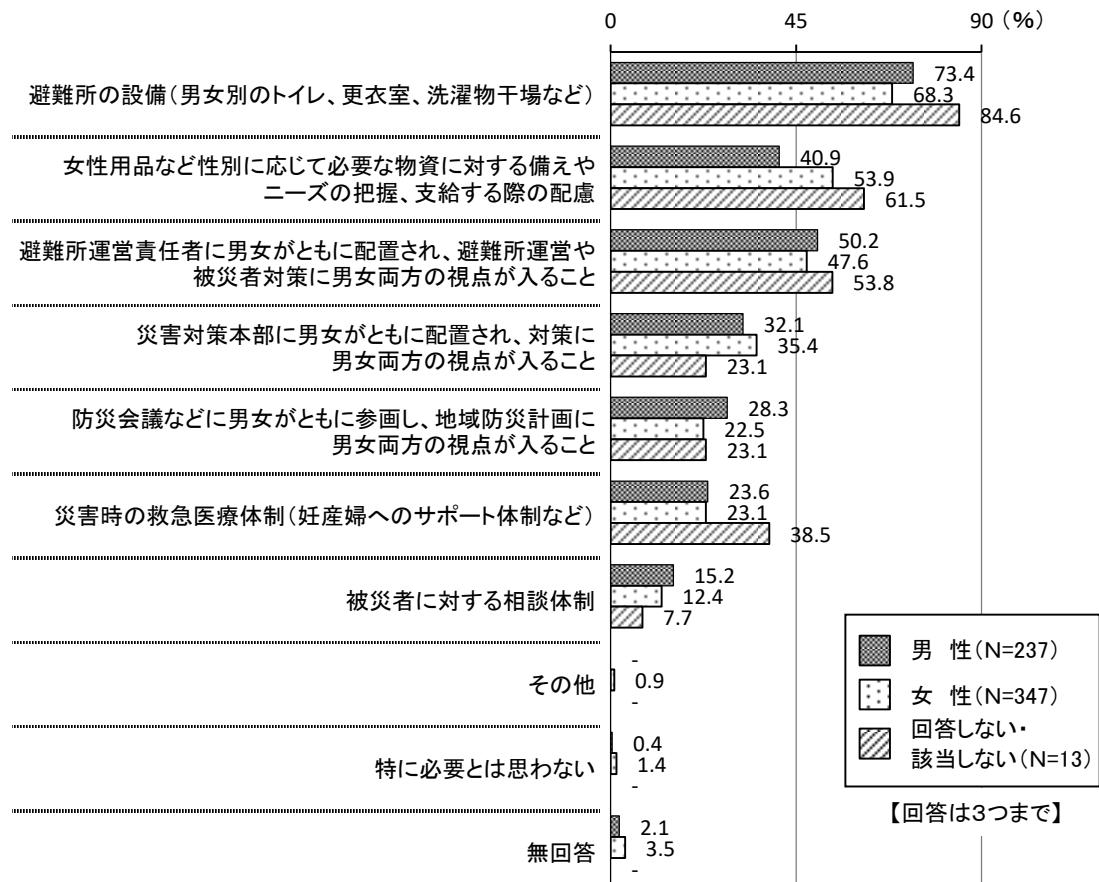
防災対策において、性別に配慮した対応として必要なことは、「避難所の設備 (男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場など)」が 70.7%と最も高くなっている。次いで「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」(49.0%)、「避難所運営責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対策に男女両方の視点が入ること」(48.7%) などが約5割であげられている。

前回調査と比べると、「避難所の設備 (男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場など)」は 8.4 ポイント、「災害時の救急医療体制 (妊産婦へのサポート体制など)」は 6.2 ポイント減っている。

## 6. 防災対策について

性別にみると、男女とも「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場など）」の割合が最も高いが、男性は73.4%と女性（68.3%）より5.1ポイント高い。女性は「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が53.9%で男性（40.9%）より13ポイント高く、第2位にあげられている。

図表6-2 防災対策で必要な対応 [性別]



## II 調査結果

年齢別にみると、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場など）」は男性の50歳代で83.3%と最も高く、60歳代でも77.8%と8割近くある。「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」は男性の30歳代、女性の18～20歳代と40歳代で7割台と高い。「災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること」は女性の30歳代（47.2%）と50歳代（44.3%）、「災害時の救急医療体制（妊娠婦へのサポート体制など）」は男性の18～20歳代（42.9%）で4割台、「災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること」は男性の40歳代（39.4%）で約4割と他の年齢に比べて高くなっている。

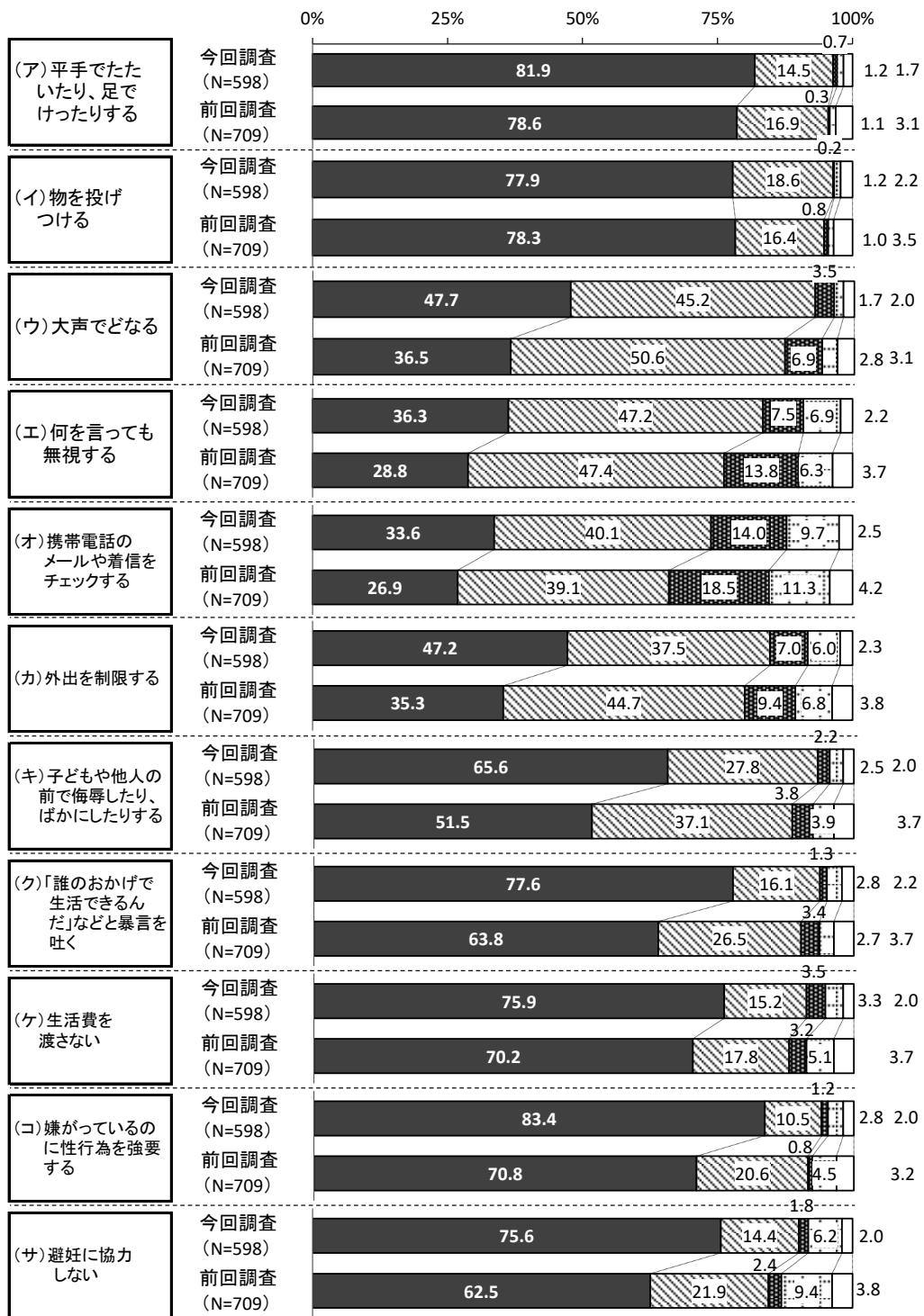
図表 6-3 防災対策で必要な対応 [全体、年齢別]

## 7. DVについて

## (1) DVの認知

問24 次のようなことが配偶者・パートナーや恋人との間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。項目ごとに、あてはまるものを選んでください。  
 ((ア)～(サ)のそれぞれに○は1つ)

図表7-1 DVの認知 [全体] (前回調査比較)



■ どんな場合も暴力にあたる   ■ 場合によっては暴力にあたる   ■ 暴力にはあたらない   ■ わからぬ   □ 無回答

## II 調査結果

D Vの認知について、「どんな場合も暴力にあたる」の割合が高いのは、「嫌がっているのに性行為を強要する」が83.4%と最も高く、次いで「平手でたたいたり、足でけったりする」81.9%、「物を投げつける」77.9%、「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く」77.6%、「生活費を渡さない」75.9%、「避妊に協力しない」75.6%、「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」65.6%などとなっている。反対に割合が低いのは、「携帯電話のメールや着信をチェックする」(33.6%) や「何を言っても無視する」(36.3%) で、「場合によっては暴力にあたる」の割合の方が高くなっている。

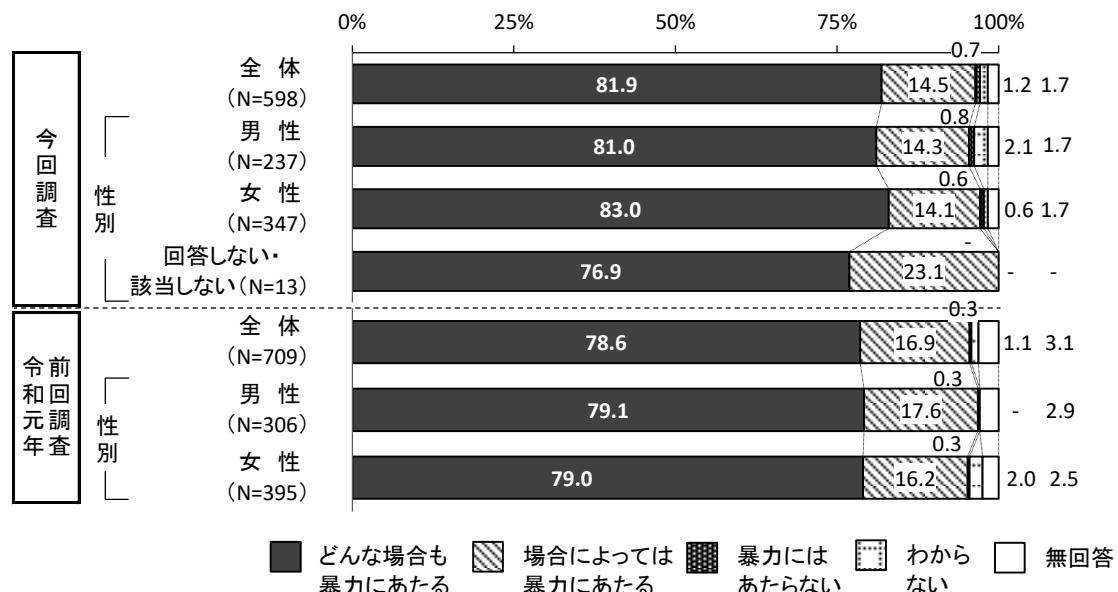
前回調査と比べると、「物を投げつける」以外の暴力で「どんな場合も暴力にあたる」の割合が前回調査よりも高くなっている。特に「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く」などの精神的暴力、「嫌がっているのに性行為を強要する」「避妊に協力しない」などの性的暴力で10ポイント以上増えている。

### (ア) 平手でたたいたり、足でけったりする

「平手でたたいたり、足でけったりする」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は男女とも約8割、「場合によっては暴力にあたる」が1割台半ばと同程度となっている。

前回調査と比べると、男女とも「どんな場合も暴力にあたる」の割合がやや増えている。

図表7-2 平手でたたいたり、足でけったりする [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男女の18~20歳代で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が6割台と低く、また男性の40歳代でも63.6%と低い。年齢の低い層では「場合によっては暴力にあたる」の割合が高い傾向がみられ、特に男性で顕著となっている。

図表7-3 平手でたたいたり、足でけったりする [全体、年齢別]

(%)

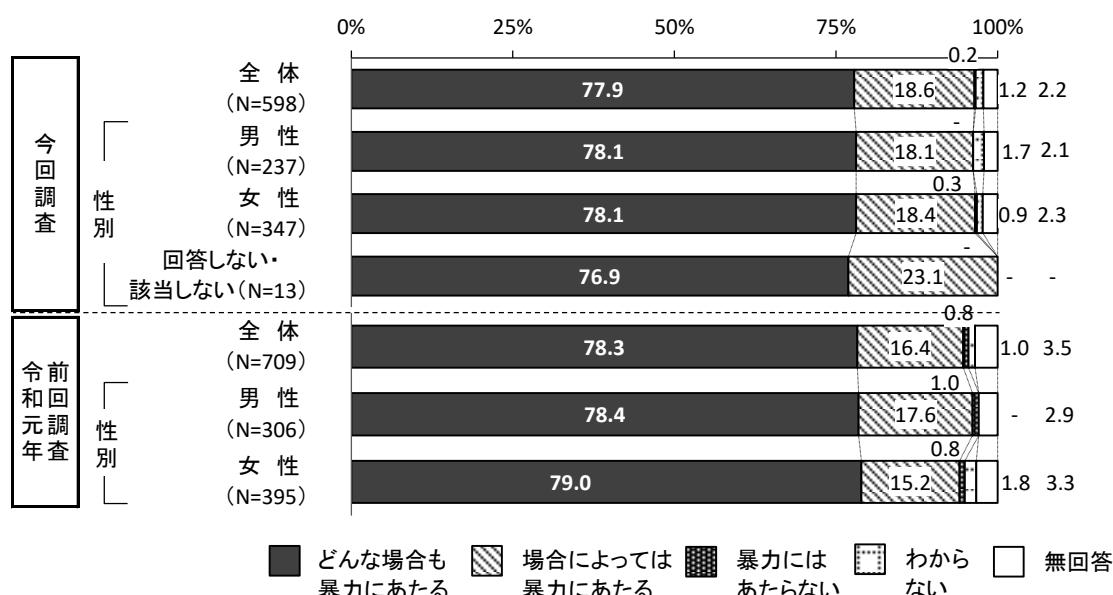
		標本数	暴ど 力ん にな あ場 た合 るも	るは場 暴合 力に によ あつ たて	ら暴 力な いに はあ た	わ か ら な い	無 回 答
全 体		598 100.0	490 81.9	87 14.5	4 0.7	7 1.2	10 1.7
年 齢 別	男性:18~20歳代	14	64.3	28.6	7.1	-	-
	男性:30歳代	20	75.0	25.0	-	-	-
	男性:40歳代	33	63.6	21.2	-	12.1	3.0
	男性:50歳代	36	80.6	19.4	-	-	-
	男性:60歳代	63	88.9	9.5	-	-	1.6
	男性:70歳代以上	68	86.8	7.4	1.5	1.5	2.9
	女性:18~20歳代	31	61.3	25.8	-	6.5	6.5
	女性:30歳代	36	80.6	19.4	-	-	-
	女性:40歳代	61	85.2	13.1	1.6	-	-
	女性:50歳代	61	86.9	11.5	-	-	1.6
	女性:60歳代	82	93.9	6.1	-	-	-
	女性:70歳代以上	76	76.3	18.4	1.3	-	3.9
	回答しない・該当しない	13	76.9	23.1	-	-	-
	無回答	4	75.0	25.0	-	-	-

## (イ) 物を投げつける

「物を投げつける」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は男女とも約8割、「場合によっては暴力にあたる」が約2割と同程度となっている。

前回調査と比べても、男女ともあまり大きな差はみられない。

図表7-4 物を投げつける [全体、性別] (前回調査比較)



## II 調査結果

年齢別にみると、男性の40歳代と女性の18～20歳代で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が6割台と低い。

図表7-5 物を投げつける [全体、年齢別]

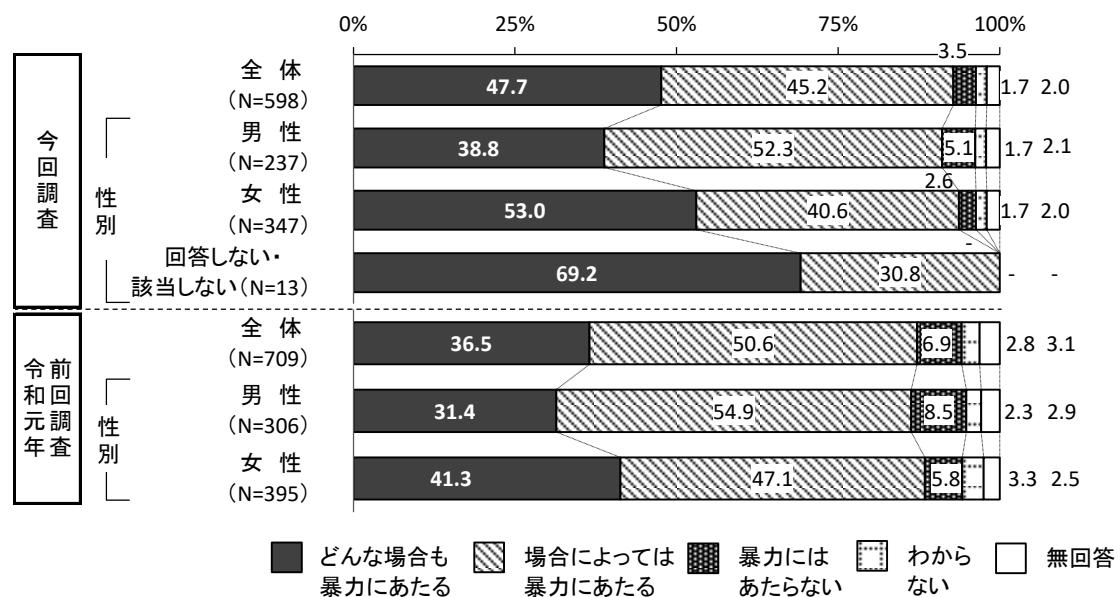
		標本数	暴どんになあ場合たるも	るは場暴力によあつたて	ら暴力にはあつた	わからぬ	無回答	(%)
	全 体	598 100.0	466 77.9	111 18.6	1 0.2	7 1.2	13 2.2	
年齢別	男性:18～20歳代	14	71.4	28.6	-	-	-	
	男性:30歳代	20	75.0	25.0	-	-	-	
	男性:40歳代	33	63.6	24.2	-	9.1	3.0	
	男性:50歳代	36	77.8	22.2	-	-	-	
	男性:60歳代	63	87.3	11.1	-	-	1.6	
	男性:70歳代以上	68	77.9	16.2	-	1.5	4.4	
	女性:18～20歳代	31	61.3	25.8	-	6.5	6.5	
	女性:30歳代	36	75.0	25.0	-	-	-	
	女性:40歳代	61	78.7	19.7	1.6	-	-	
	女性:50歳代	61	88.5	9.8	-	-	1.6	
女性:60歳代	82	82.9	15.9	-	-	1.2		
女性:70歳代以上	76	72.4	21.1	-	1.3	5.3		
回答しない・該当しない	13	76.9	23.1	-	-	-		
無回答	4	75.0	25.0	-	-	-		

### (ウ) 大声でどなる

「大声でどなる」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性が53.0%で男性(38.8%)を14.2ポイント上回り、男性は「場合によつては暴力にあたる」が52.3%で女性(40.6%)を11.7ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が7.4～11.7ポイント増えている。

図表7-6 大声でどなる [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男女の18~20歳代で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合がそれぞれ28.6%、35.5%と低く、「場合によっては暴力にあたる」の割合の方が5割台で上回っている。

図表7-7 大声でどなる [全体、年齢別]

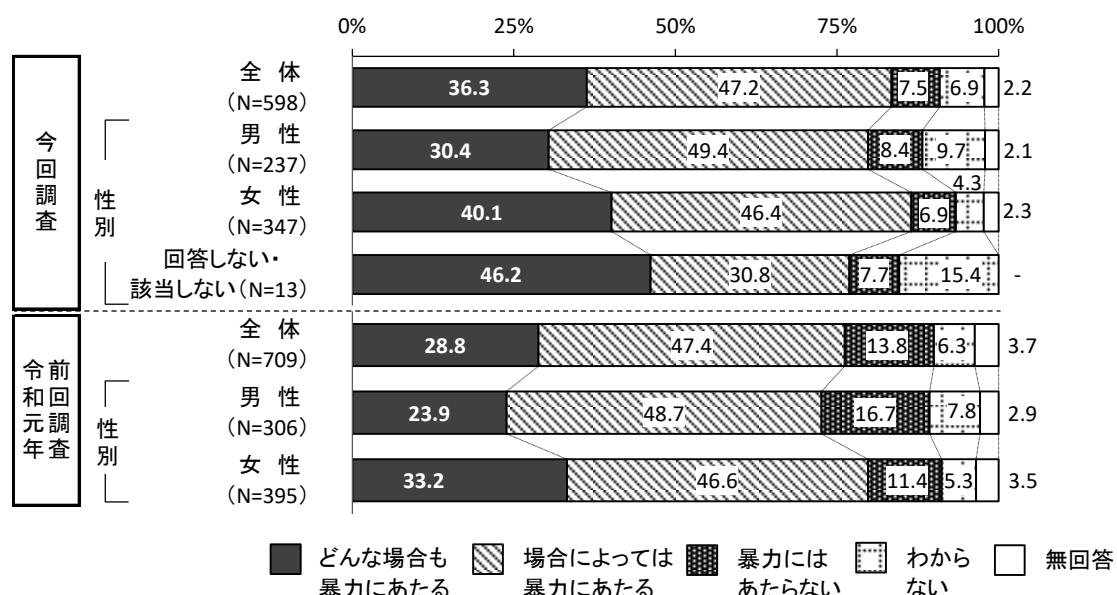
		標本数	暴どんになあ場合たるも	るは場暴力によあつたて	ら暴力にはあつた	わからな	無回答	(%)
全 体		598 100.0	285 47.7	270 45.2	21 3.5	10 1.7	12 2.0	
年齢別	男性:18~20歳代	14	28.6	57.1	14.3	-	-	
	男性:30歳代	20	30.0	65.0	5.0	-	-	
	男性:40歳代	33	30.3	57.6	3.0	6.1	3.0	
	男性:50歳代	36	50.0	47.2	2.8	-	-	
	男性:60歳代	63	47.6	46.0	4.8	-	1.6	
	男性:70歳代以上	68	32.4	54.4	5.9	2.9	4.4	
	女性:18~20歳代	31	35.5	51.6	3.2	3.2	6.5	
	女性:30歳代	36	47.2	47.2	2.8	2.8	-	
	女性:40歳代	61	60.7	32.8	6.6	-	-	
	女性:50歳代	61	54.1	44.3	-	-	1.6	
	女性:60歳代	82	57.3	40.2	-	2.4	-	
	女性:70歳代以上	76	51.3	36.8	3.9	2.6	5.3	
回答しない・該当しない		13	69.2	30.8	-	-	-	
無回答		4	50.0	50.0	-	-	-	

## (工) 何を言っても無視する

「何を言っても無視する」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性が40.1%で男性(30.4%)を9.7ポイント上回っているが、「場合によっては暴力にあたる」の割合は男女とも4割台で同程度となっている。

前回調査と比べると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が6.5~6.9ポイント増えている。

図表7-8 何を言っても無視する [全体、性別] (前回調査比較)



## II 調査結果

年齢別にみると、男女とも年齢が低い層と70歳代以上で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が低く、「場合によっては暴力にあたる」の割合の方が高くなっている。

図表7-9 何を言っても無視する [全体、年齢別]

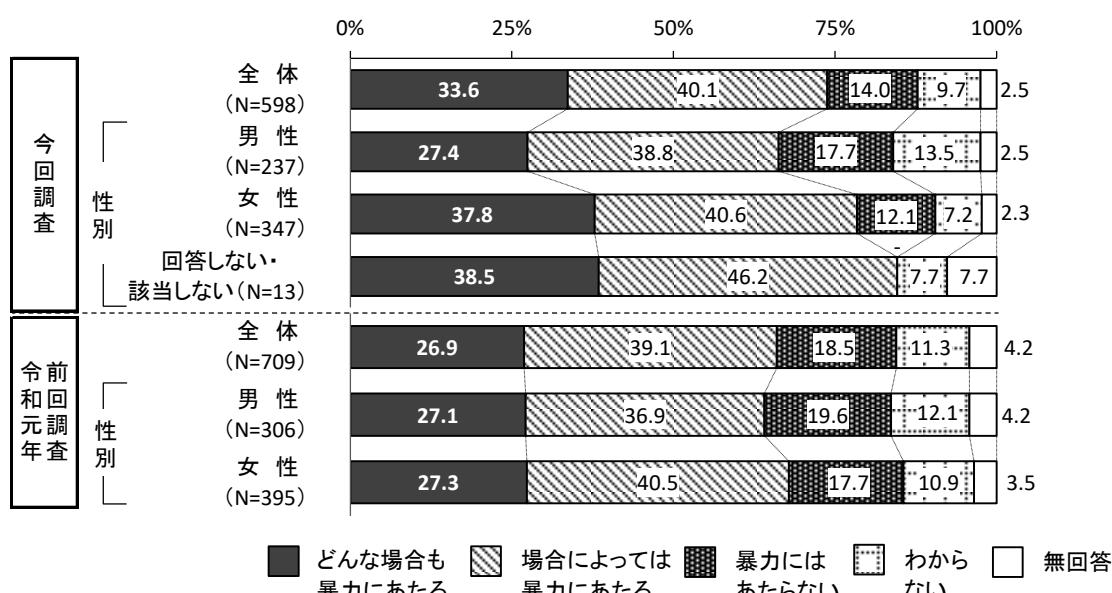
		標本数	暴ど 力にな る場合 にあ たるも る	るは場 合によ りあつ たて	ら暴 力に はあ た	わ か ら な い	無 回 答	(%)
	全 体	598 100.0	217 36.3	282 47.2	45 7.5	41 6.9	13 2.2	
年 齢 別	男性:18~20歳代	14	—	57.1	28.6	14.3	—	
	男性:30歳代	20	30.0	45.0	10.0	15.0	—	
	男性:40歳代	33	30.3	48.5	6.1	12.1	3.0	
	男性:50歳代	36	38.9	50.0	5.6	5.6	—	
	男性:60歳代	63	42.9	46.0	6.3	3.2	1.6	
	男性:70歳代以上	68	19.1	52.9	8.8	14.7	4.4	
	女性:18~20歳代	31	22.6	51.6	12.9	3.2	9.7	
	女性:30歳代	36	30.6	61.1	5.6	2.8	—	
	女性:40歳代	61	41.0	52.5	6.6	—	—	
	女性:50歳代	61	50.8	41.0	3.3	3.3	1.6	
	女性:60歳代	82	42.7	41.5	8.5	7.3	—	
	女性:70歳代以上	76	39.5	42.1	6.6	6.6	5.3	
回答しない・該当しない		13	46.2	30.8	7.7	15.4	—	
無回答		4	50.0	25.0	—	25.0	—	

### (才) 携帯電話のメールや着信をチェックする

「携帯電話のメールや着信をチェックする」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性が37.8%で男性(27.4%)を10.4ポイント上回っているが、「場合によっては暴力にあたる」の割合は男女とも約4割と同程度となっている。また、男女とも「暴力にあたらない」が1割台となっている。

前回調査と比べると、女性で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が10.5ポイント増えている。

図表7-10 携帯電話のメールや着信をチェックする [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男女とも 18~20 歳代で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が特に低く、「場合によっては暴力にあたる」は4割台、「暴力にはあたらない」は男性で 50.0%、女性でも 25.8% と高い。また男性の 40 歳代でも「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 18.2% と低くなっている。

図表 7-11 携帯電話のメールや着信をチェックする [全体、年齢別]

		標本数	暴力にな あ場合 るも	るは場 暴力 によ あつ たて	ら暴 力に はあ た	わ か ら な い	無 回 答	(%)
全 体		598 100.0	201 33.6	240 40.1	84 14.0	58 9.7	15 2.5	
年 齢 別	男性:18~20歳代	14	-	42.9	50.0	7.1	-	
	男性:30歳代	20	30.0	50.0	15.0	5.0	-	
	男性:40歳代	33	18.2	42.4	18.2	18.2	3.0	
	男性:50歳代	36	38.9	33.3	16.7	11.1	-	
	男性:60歳代	63	33.3	39.7	15.9	9.5	1.6	
	男性:70歳代以上	68	25.0	35.3	14.7	19.1	5.9	
	女性:18~20歳代	31	16.1	45.2	25.8	6.5	6.5	
	女性:30歳代	36	30.6	50.0	11.1	8.3	-	
	女性:40歳代	61	32.8	39.3	21.3	6.6	-	
	女性:50歳代	61	44.3	42.6	8.2	3.3	1.6	
	女性:60歳代	82	51.2	26.8	12.2	9.8	-	
	女性:70歳代以上	76	34.2	48.7	2.6	7.9	6.6	
	回答しない・該当しない	13	38.5	46.2	-	7.7	7.7	
	無回答	4	25.0	50.0	-	25.0	-	

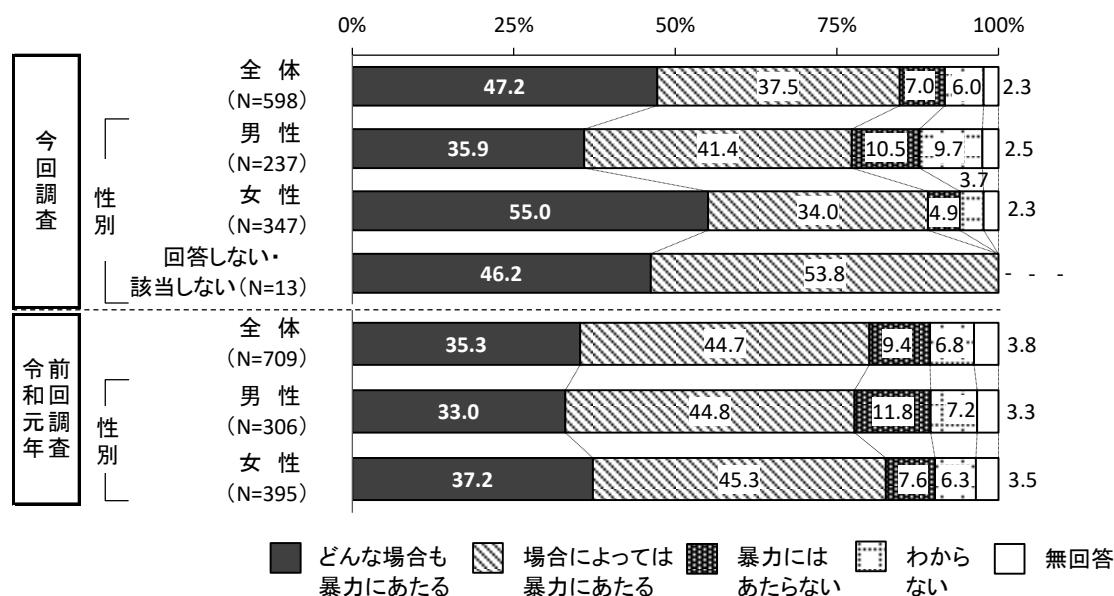
## II 調査結果

### (力) 外出を制限する

「外出を制限する」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性が 55.0%で男性 (35.9%) を 19.1 ポイント上回り、男性は「場合によっては暴力にあたる」が 41.4%で女性 (34.0%) を 7.4 ポイント上回っている。また、男性の「暴力にあたらない」が 10.5%となっている。

前回調査と比べると、女性で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 17.8 ポイント増えている。

図表 7-12 外出を制限する [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男性の 40 歳代と 70 歳代以上で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 2 割台半ばと低く、「暴力にはあたらない」は男女の 18~20 歳代で約 2 割と高い。

図表 7-13 外出を制限する [全体、年齢別]

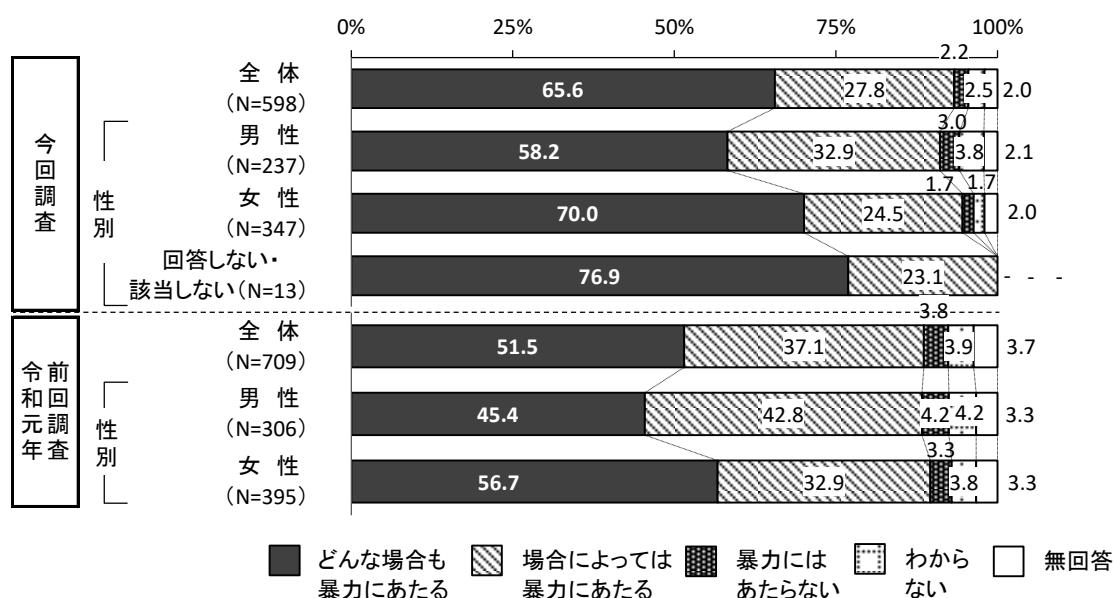
		標本数	暴力にあたるも	るは暴力によつたて	ら暴力にはあた	わからぬ	無回答	(%)
全 体		598 100.0	282 47.2	224 37.5	42 7.0	36 6.0	14 2.3	
年齢別	男性:18~20歳代	14	35.7	28.6	21.4	14.3	-	
	男性:30歳代	20	50.0	35.0	15.0	-	-	
	男性:40歳代	33	27.3	48.5	9.1	12.1	3.0	
	男性:50歳代	36	47.2	30.6	11.1	8.3	2.8	
	男性:60歳代	63	41.3	46.0	6.3	4.8	1.6	
	男性:70歳代以上	68	25.0	45.6	11.8	13.2	4.4	
	女性:18~20歳代	31	38.7	29.0	19.4	6.5	6.5	
	女性:30歳代	36	63.9	30.6	2.8	2.8	-	
	女性:40歳代	61	59.0	37.7	3.3	-	-	
	女性:50歳代	61	67.2	24.6	3.3	3.3	1.6	
	女性:60歳代	82	58.5	30.5	4.9	4.9	1.2	
	女性:70歳代以上	76	40.8	46.1	2.6	5.3	5.3	
回答しない・該当しない		13	46.2	53.8	-	-	-	
無回答		4	25.0	25.0	-	50.0	-	

## (キ) 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする

「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性が 70.0% で男性 (58.2%) を 11.8 ポイント上回り、男性は「場合によっては暴力にあたる」が 32.9% で女性 (24.5%) を 8.4 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 12.8~13.3 ポイント増えている。

図表 7-14 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男性の 70 歳代以上と女性の 18~20 歳代で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 4 割台半ばから 5 割台半ばと低くなっている。

図表 7-15 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする [全体、年齢別] (%)

年齢別	標本数	暴力にならなかった場合	暴力によつた場合	暴力にはあたった	わからぬ	無回答
全 体	598 100.0	392 65.6	166 27.8	13 2.2	15 2.5	12 2.0
年齢別	男性:18~20歳代	14	64.3	28.6	7.1	-
	男性:30歳代	20	60.0	30.0	10.0	-
	男性:40歳代	33	60.6	21.2	3.0	12.1
	男性:50歳代	36	63.9	33.3	2.8	-
	男性:60歳代	63	66.7	28.6	-	3.2
	男性:70歳代以上	68	45.6	45.6	1.5	2.9
	女性:18~20歳代	31	54.8	32.3	6.5	-
	女性:30歳代	36	77.8	19.4	2.8	-
	女性:40歳代	61	72.1	24.6	3.3	-
	女性:50歳代	61	73.8	23.0	-	1.6
	女性:60歳代	82	72.0	24.4	-	3.7
	女性:70歳代以上	76	65.8	25.0	1.3	2.6
	回答しない・該当しない	13	76.9	23.1	-	-
	無回答	4	50.0	-	25.0	25.0

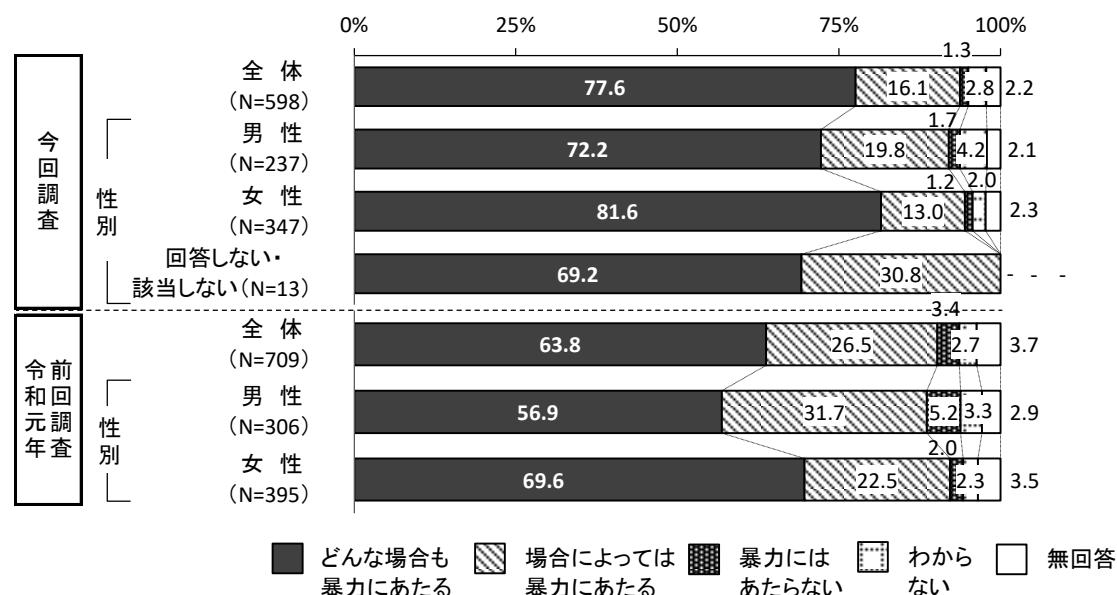
## II 調査結果

### (ク) 「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く

「「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性が 81.6% で男性 (72.2%) を 9.4 ポイント上回り、男性は「場合によっては暴力にあたる」が 19.8% で女性 (13.0%) を 6.8 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 12~15.3 ポイント増えている。

図表 7-16 「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男性の 40 歳代と 50 歳代、70 歳代以上、女性の 18~20 歳代で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 6 割台で低くなっている。

図表 7-17 「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く [全体、年齢別]

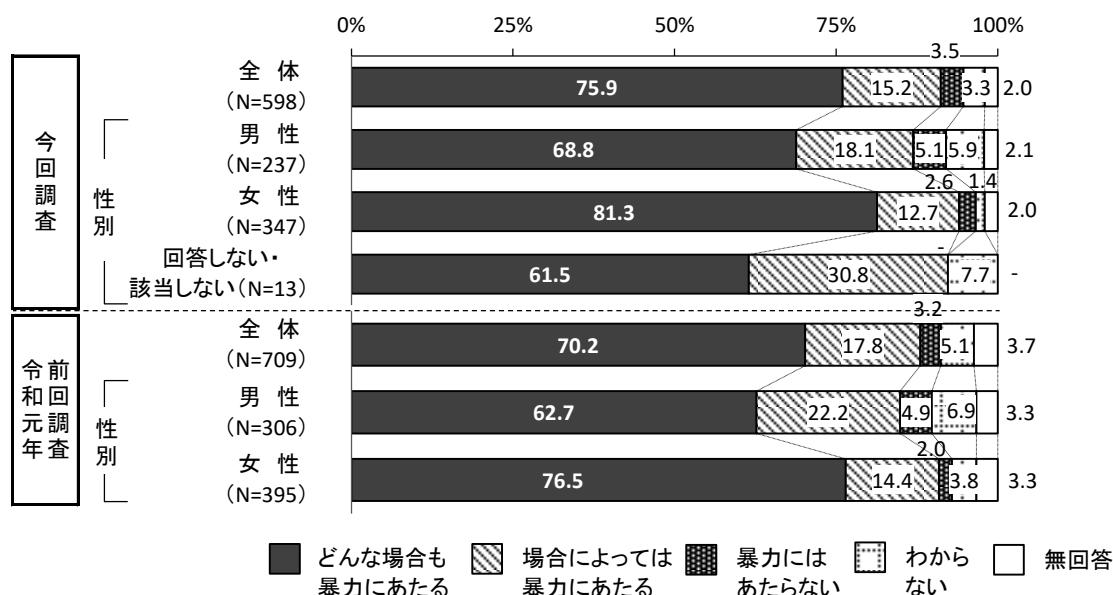
年齢別	標本数	(%)					
		暴力になつた場合もある	るは場暴力によつたて	ら暴力にはあた	わからぬ	無回答	
全 体	598 100.0	464 77.6	96 16.1	8 1.3	17 2.8	13 2.2	
男性:18~20歳代	14	78.6	14.3	7.1	-	-	
男性:30歳代	20	80.0	20.0	-	-	-	
男性:40歳代	33	69.7	15.2	6.1	6.1	3.0	
男性:50歳代	36	66.7	30.6	-	2.8	-	
男性:60歳代	63	77.8	15.9	1.6	3.2	1.6	
男性:70歳代以上	68	67.6	22.1	-	5.9	4.4	
女性:18~20歳代	31	61.3	25.8	-	3.2	9.7	
女性:30歳代	36	86.1	11.1	2.8	-	-	
女性:40歳代	61	88.5	9.8	1.6	-	-	
女性:50歳代	61	90.2	8.2	-	-	1.6	
女性:60歳代	82	82.9	12.2	-	4.9	-	
女性:70歳代以上	76	73.7	15.8	2.6	2.6	5.3	
回答しない・該当しない	13	69.2	30.8	-	-	-	
無回答	4	75.0	-	-	25.0	-	

## (ヶ) 生活費を渡さない

「生活費を渡さない」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性が 81.3%で男性 (68.8%) を 12.5 ポイント上回り、男性は「場合によっては暴力にあたる」が 18.1%で女性 (12.7%) を 5.4 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 4.8~6.1 ポイント増えている。

図表 7-18 生活費を渡さない [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男女の 18~20 歳代で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 5 割台で低くなっている。また、男性の 30 歳代では「暴力にあたらない」が 15.0% と他の年齢に比べて高くなっている。

図表 7-19 生活費を渡さない [全体、年齢別]

		標本数	暴力になつた場合も	るは場暴力によつたて	ら暴力にはあた	わからぬ	無回答	(%)
全 体		598 100.0	454 75.9	91 15.2	21 3.5	20 3.3	12 2.0	
年齢別	男性:18~20歳代	14	50.0	42.9	7.1	—	—	
	男性:30歳代	20	60.0	25.0	15.0	—	—	
	男性:40歳代	33	63.6	18.2	3.0	12.1	3.0	
	男性:50歳代	36	69.4	19.4	5.6	5.6	—	
	男性:60歳代	63	79.4	9.5	6.3	3.2	1.6	
	男性:70歳代以上	68	67.6	19.1	—	8.8	4.4	
	女性:18~20歳代	31	54.8	25.8	9.7	3.2	6.5	
	女性:30歳代	36	83.3	13.9	2.8	—	—	
	女性:40歳代	61	85.2	13.1	1.6	—	—	
	女性:50歳代	61	93.4	4.9	—	—	1.6	
	女性:60歳代	82	85.4	9.8	2.4	2.4	—	
	女性:70歳代以上	76	73.7	15.8	2.6	2.6	5.3	
回答しない・該当しない		13	61.5	30.8	—	7.7	—	
無回答		4	75.0	—	25.0	—	—	

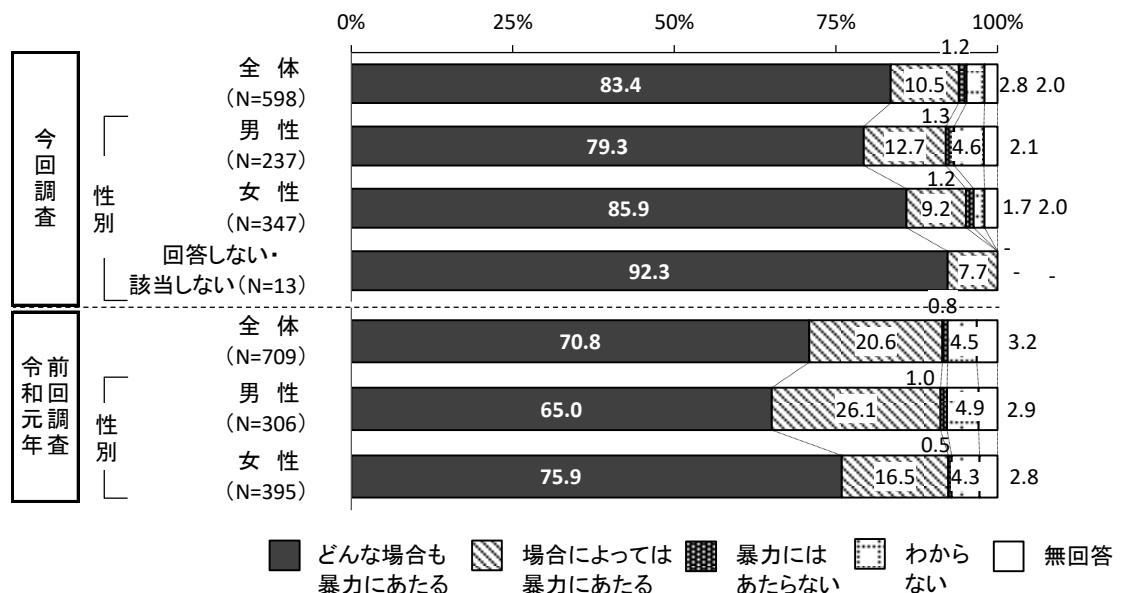
## II 調査結果

### (コ) 嫌がっているのに性行為を強要する

「嫌がっているのに性行為を強要する」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性が 85.9% で男性 (79.3%) を 6.6 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 10~14.3 ポイント増えている。

図表 7-20 嫌がっているのに性行為を強要する [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男性の 40 歳代で「どんな場合でも暴力にあたる」が 69.7% と最も低くなっている。また、男女の 18~20 歳代と 70 歳代以上、男性の 50 歳代でも 7 割台とやや低い。

図表 7-21 嫌がっているのに性行為を強要する [全体、年齢別]

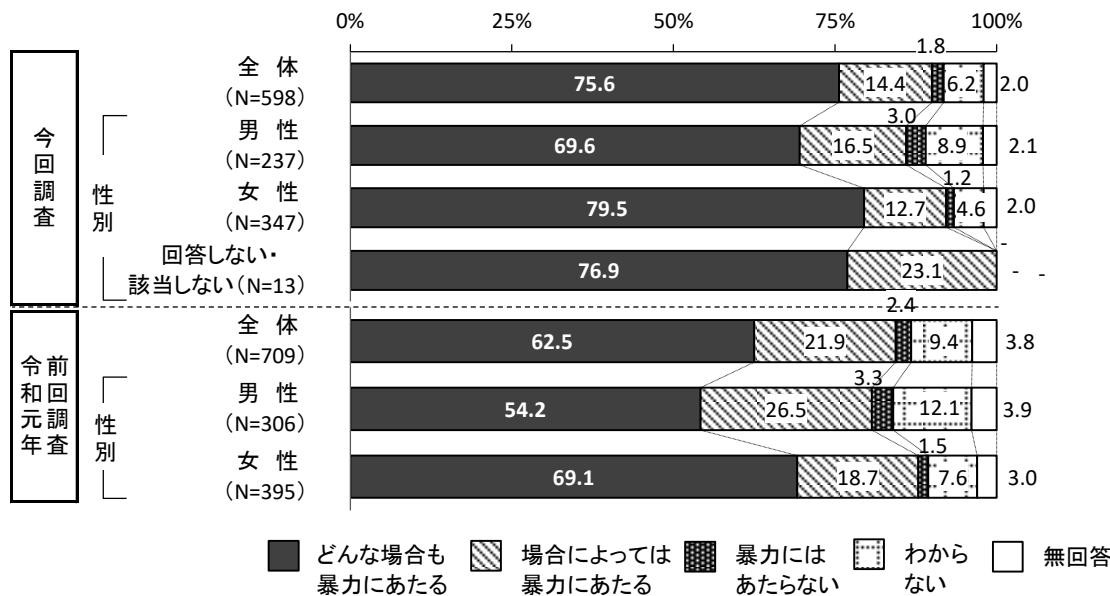
	標本数	暴力にならない場合もある	るは場合暴力によつた	ら暴力にはあた	わからな	無回答	(%)
全 体	598 100.0	499 83.4	63 10.5	7 1.2	17 2.8	12 2.0	
年齢別	男性:18~20歳代	14	78.6	14.3	7.1	-	-
	男性:30歳代	20	85.0	15.0	-	-	-
	男性:40歳代	33	69.7	18.2	-	9.1	3.0
	男性:50歳代	36	77.8	11.1	2.8	8.3	-
	男性:60歳代	63	85.7	9.5	1.6	1.6	1.6
	男性:70歳代以上	68	77.9	11.8	-	5.9	4.4
	女性:18~20歳代	31	77.4	9.7	3.2	3.2	6.5
	女性:30歳代	36	100.0	-	-	-	-
	女性:40歳代	61	88.5	9.8	1.6	-	-
	女性:50歳代	61	91.8	4.9	-	1.6	1.6
	女性:60歳代	82	87.8	8.5	1.2	2.4	-
	女性:70歳代以上	76	73.7	17.1	1.3	2.6	5.3
回答しない・該当しない		13	92.3	7.7	-	-	-
無回答		4	75.0	25.0	-	-	-

## (サ) 避妊に協力しない

「避妊に協力しない」の「どんな場合も暴力にあたる」の割合は女性が 79.5%で男性 (69.6%) を 9.9 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が 10.4~15.4 ポイント増えている。

図表 7-22 避妊に協力しない [全体、性別] (前回調査比較)



年齢別にみると、男女の 70 歳代と、男性の 40 歳代と 50 歳代で「どんな場合でも暴力にあたる」が 6 割台と低くなっている。また、男女の 18~20 歳代でも 7 割台とやや低い。「暴力にあたらない」は男性の 18~20 歳代、30 歳代で 1 割台と他の年齢に比べて高くなっている。

図表 7-23 避妊に協力しない [全体、年齢別]

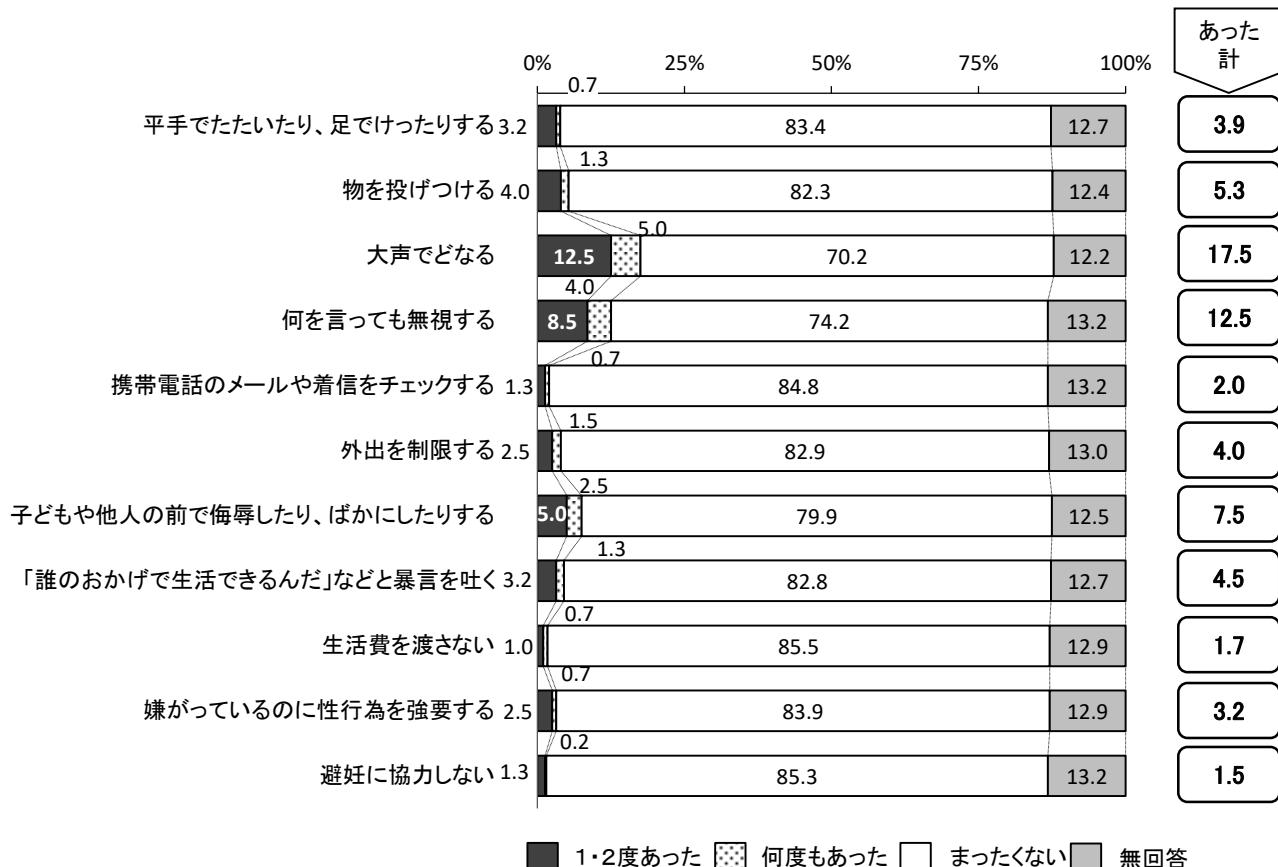
		標本数	暴ど 力ん にな あ場 た合 るも	るは場 暴合 力に によ あつ たて	ら暴 力に はあ た	わ か ら な い	無 回 答	(%)
全 体		598 100.0	452 75.6	86 14.4	11 1.8	37 6.2	12 2.0	
年 齢 別	男性:18~20歳代	14	71.4	14.3	14.3	-	-	
	男性:30歳代	20	85.0	-	10.0	5.0	-	
	男性:40歳代	33	63.6	18.2	-	15.2	3.0	
	男性:50歳代	36	63.9	22.2	5.6	8.3	-	
	男性:60歳代	63	79.4	14.3	1.6	3.2	1.6	
	男性:70歳代以上	68	61.8	20.6	-	13.2	4.4	
	女性:18~20歳代	31	77.4	9.7	-	6.5	6.5	
	女性:30歳代	36	91.7	5.6	-	2.8	-	
	女性:40歳代	61	80.3	18.0	1.6	-	-	
	女性:50歳代	61	86.9	9.8	-	1.6	1.6	
	女性:60歳代	82	80.5	8.5	1.2	9.8	-	
	女性:70歳代以上	76	67.1	19.7	2.6	5.3	5.3	
回答しない・該当しない		13	76.9	23.1	-	-	-	
無回答		4	75.0	-	-	25.0	-	

## II 調査結果

### (2) DVの経験

問25 この3年間のうちに、あなたは配偶者・パートナー、恋人から次のようなことをされたことがありますか。項目ごとに、あてはまるものを選んでください。  
((ア)～(サ)のそれぞれに○は1つ)

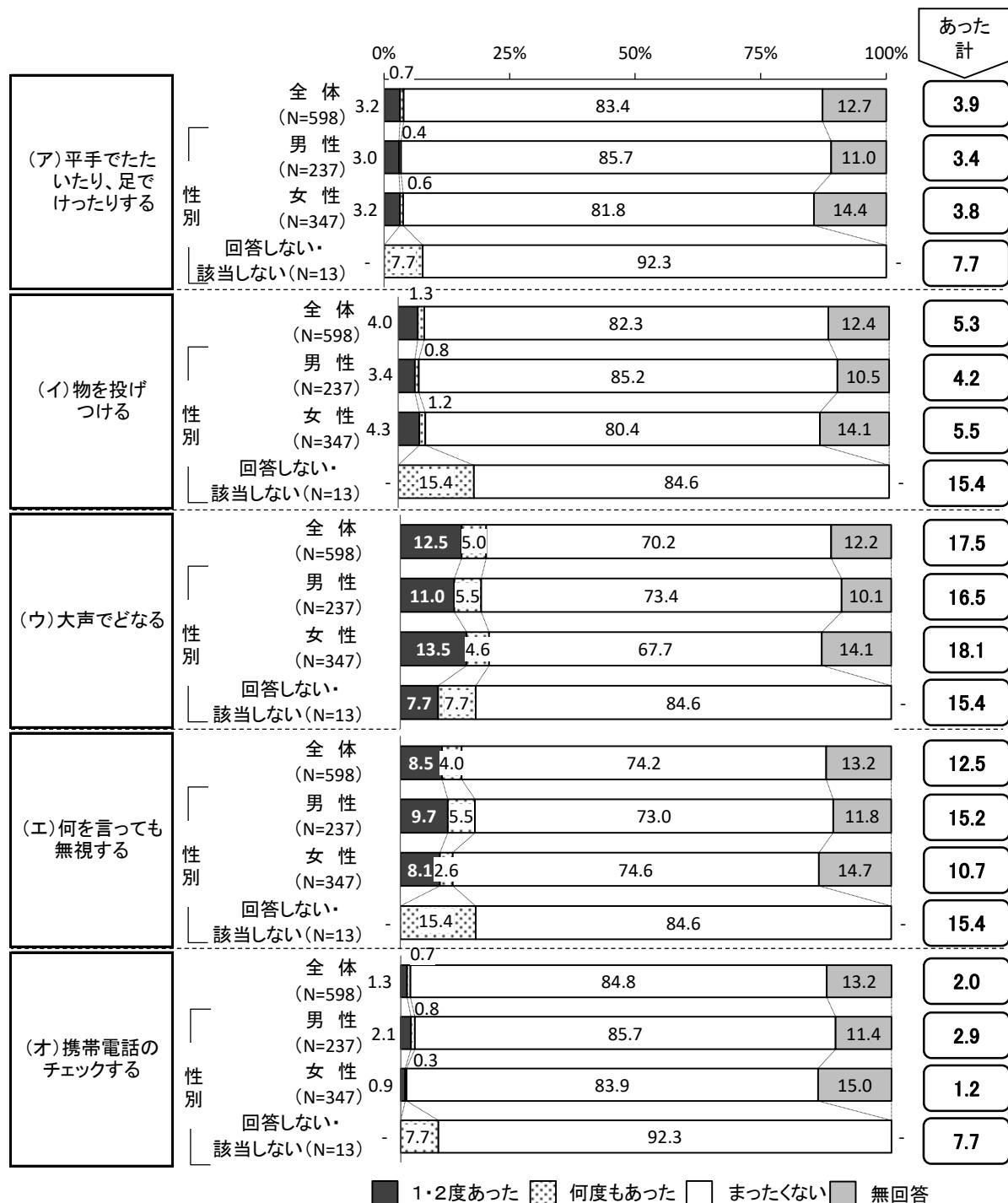
図表7-24 DVの経験 [全体]



この3年間の配偶者・パートナー、恋人からのDVの経験について、「1、2度あつた」「何度もあつた」をあわせた『あつた』の割合が高いのは、「大声でどなる」(17.5%)、「何を言っても無視する」(12.5%)、「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」(7.5%)などの精神的暴力、「物を投げつける」(5.3%)の身体的暴力となっている。暴力であるとの認知が低かった精神的暴力の経験が多くなっている。

性別にみると、「平手でたたいたり、足でけったりする」「物を投げつける」の身体的暴力は女性の経験が男性よりも多い。精神的暴力のうち「大声でどなる」は女性の経験が多く、その他の精神的暴力は男性の経験が多い。経済的暴力や性的暴力の経験は女性の方が多い。

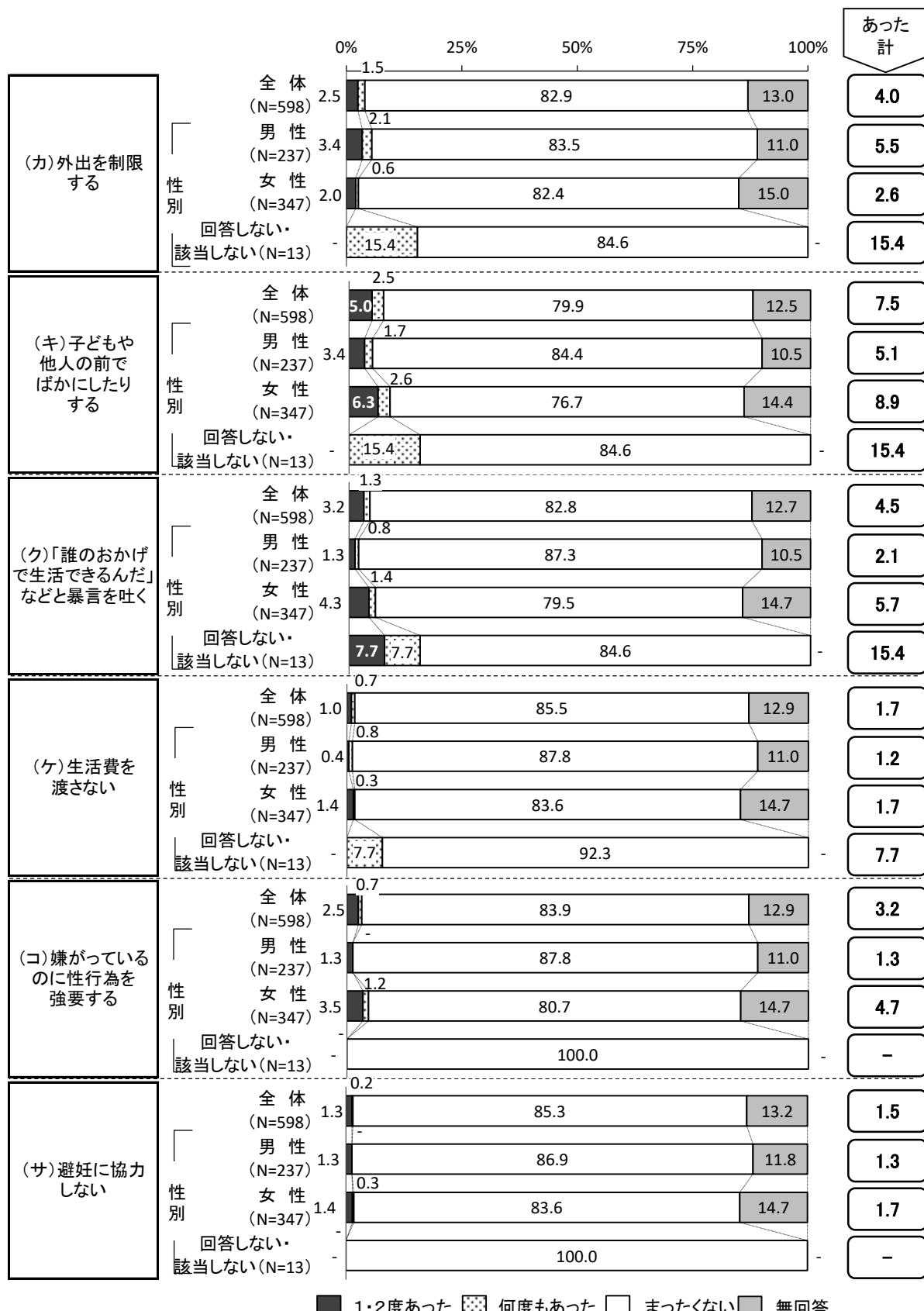
図表7-25(1) DVの経験 [全体、性別]



■ 1・2度あつた □ 何度もあつた □ まったくない □ 無回答

## II 調査結果

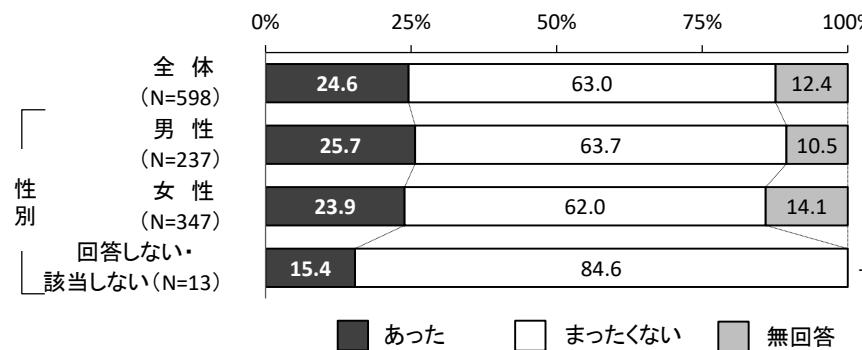
図表 7-25 (2) DVの経験 [全体、性別]



■ 1・2度あった □ 何度もあった □ まったくない □ 無回答

それぞれの暴力に一つでも「1・2度あった」「何度もあった」と回答した人は 24.6%で、男性が 25.7%、女性が 23.9%と同程度となっている。

図表 7-26 DVの経験（まとめ）[全体、性別]



年齢別にみると、男女とも年齢の高い層で「あった」の割合が高い傾向がみられ、特に男性の50歳代は36.1%と最も高くなっている。

配偶状況別にみると、男性は配偶者・パートナーがいる人と配偶者・パートナーと離死別した人で「ある」が約3割、女性は配偶者・パートナーがいる人で32.1%と未婚者よりも高くなっている。

図表 7-27 DVの経験（まとめ）[全体、年齢別、配偶状況別]

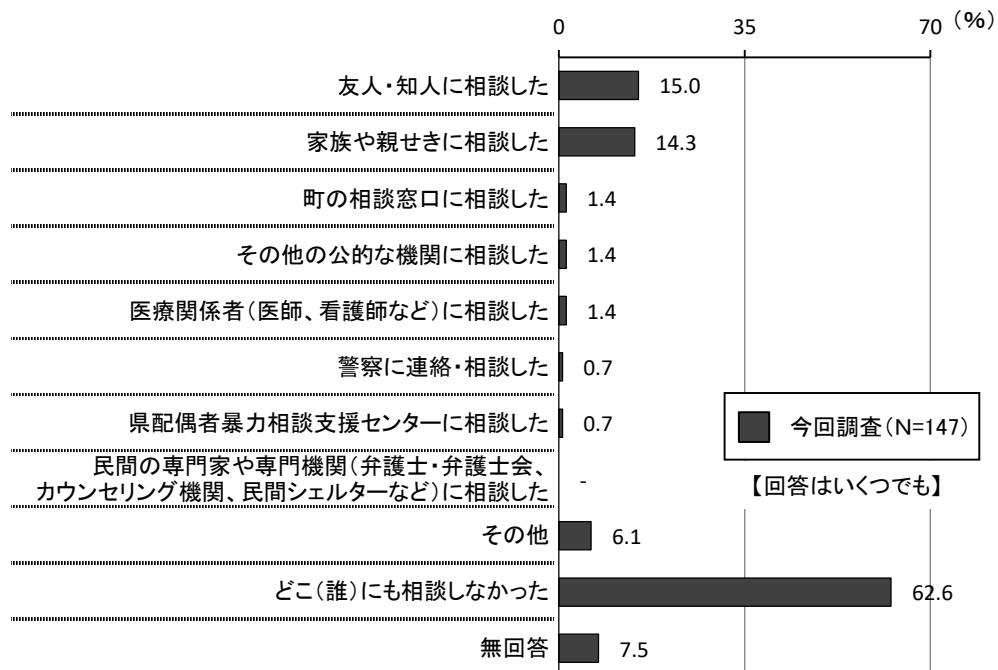
		標 本 数	あ つ た	な ま い つ た く	無 回 答 (%)
全 体		598	147	377	74
		100.0	24.6	63.0	12.4
年 齢 別	男性:18~20歳代	14	14.3	85.7	-
	男性:30歳代	20	20.0	75.0	5.0
	男性:40歳代	33	21.2	66.7	12.1
	男性:50歳代	36	36.1	50.0	13.9
	男性:60歳代	63	25.4	63.5	11.1
	男性:70歳代以上	68	26.5	61.8	11.8
	女性:18~20歳代	31	9.7	64.5	25.8
	女性:30歳代	36	13.9	77.8	8.3
	女性:40歳代	61	26.2	70.5	3.3
	女性:50歳代	61	27.9	59.0	13.1
	女性:60歳代	82	24.4	63.4	12.2
	女性:70歳代以上	76	28.9	47.4	23.7
	回答しない・該当しない	13	15.4	84.6	-
配偶状況別	無回答	4	50.0	50.0	-
	男性:配偶者、パートナーがいる	168	29.8	67.3	3.0
	男性:配偶者・パートナーと離死別した	16	31.3	37.5	31.3
	男性:未婚	52	11.5	61.5	26.9
	女性:配偶者、パートナーがいる	224	32.1	66.5	1.3
	女性:配偶者・パートナーと離死別した	60	11.7	46.7	41.7
	女性:未婚	63	6.3	60.3	33.3
回答しない・該当しない		13	15.4	84.6	-
無回答		2	50.0	-	50.0

## II 調査結果

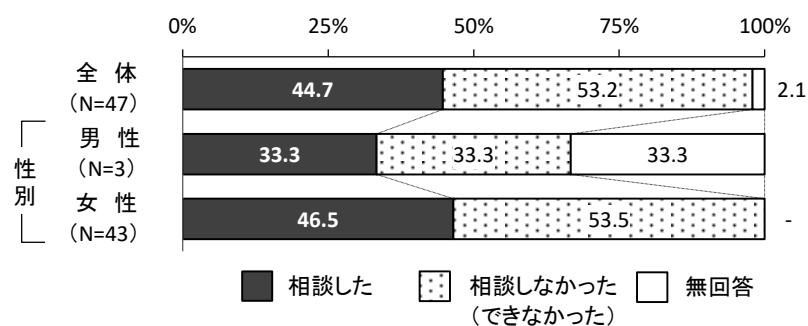
### (3) DVを受けたことについての相談の有無

問25-1【問25で(ア)から(サ)のうち、1つでも「1・2度あった」、「何度もあった」と答えた方】あなたが受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表7-28 DVを受けたことについての相談の有無【全体】



図表7-29 DVを受けたことについての相談の有無【全体、性別】(前回調査)



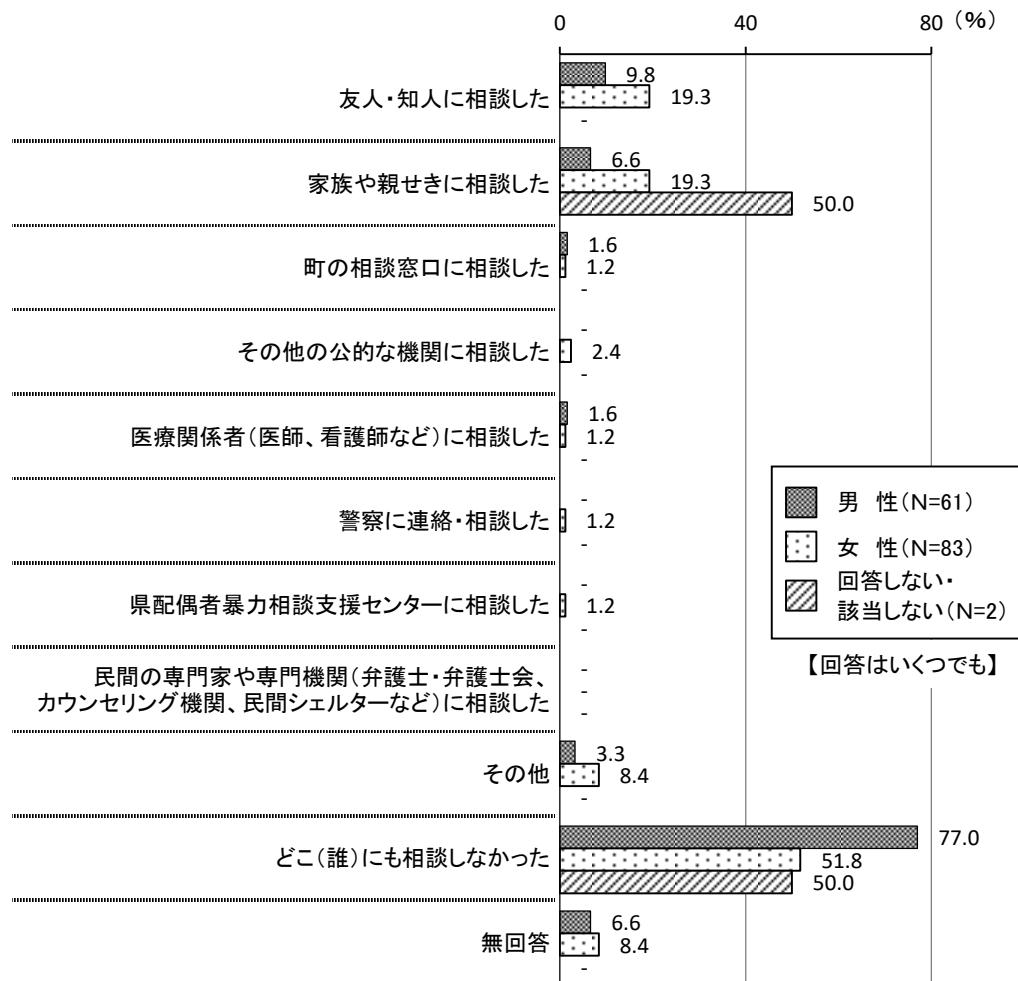
暴力に一つでも「1・2度あった」「何度もあった」と回答した人に、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかどうかたずねたところ、62.6%の人が「どこ(誰)にも相談しなかった」と回答している。

前回調査と質問の形式が違うが、「相談しなかった(できなかった)」は53.2%で、今回調査の方が9.4ポイント高くなっている。

相談先としては、「友人・知人に相談した」(15.0%)、「家族や親戚に相談した」(14.3%)が約1割台半ばで多い。「町の相談窓口に相談した」「その他の公的な機関に相談した」「医療関係者(医師、看護師など)に相談した」(同率1.4%)などはわずかである。

性別にみると、女性は「友人・知人に相談した」「家族や親戚に相談した」が同率の 19.3%で最も多く、男性を 9.5~12.7 ポイント上回っている。また、女性では公的な機関や警察への相談もみられる。「どこ（誰）にも相談しなかった」は男性が 77.0%と女性（51.8%）を 25.2 ポイント上回っている。

図表 7-30 DV を受けたことについての相談の有無 [性別]



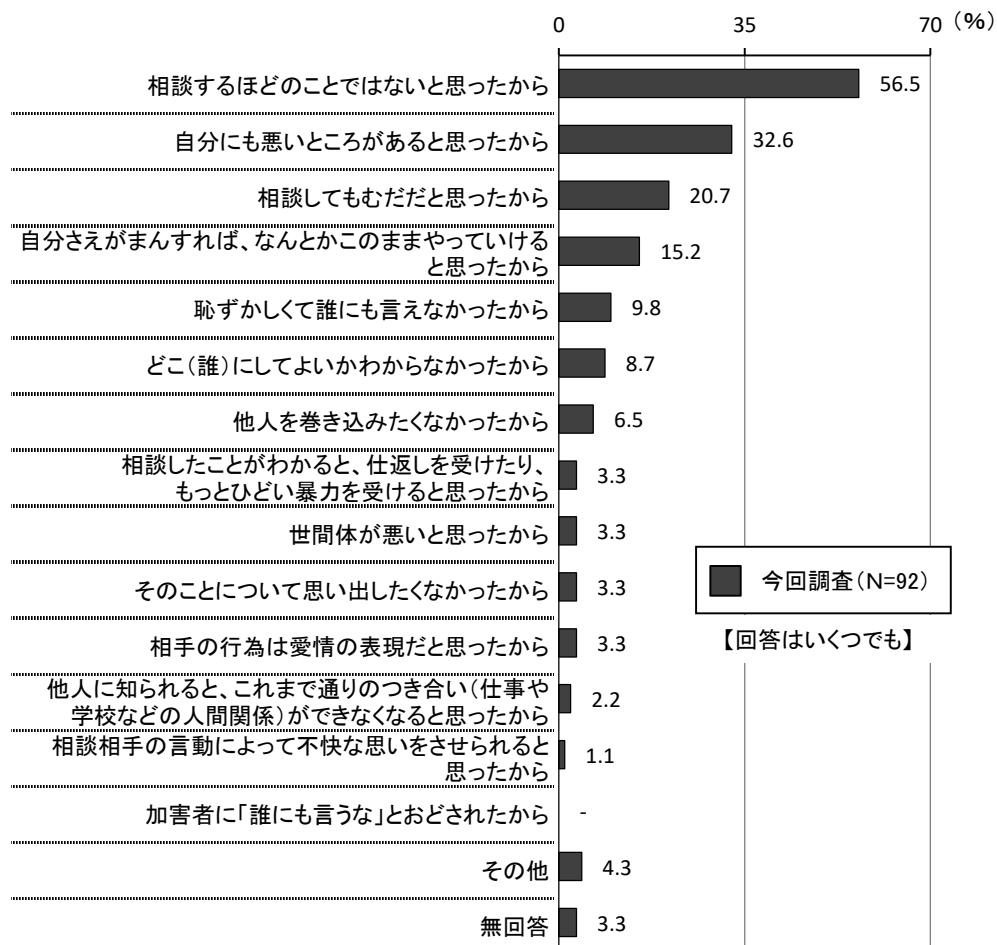
## II 調査結果

### (4) 相談しなかった理由

問25-2【問25-1で「10. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方】

どこ（誰）にも相談しなかったのは、どのような理由からですか。（○はいくつでも）

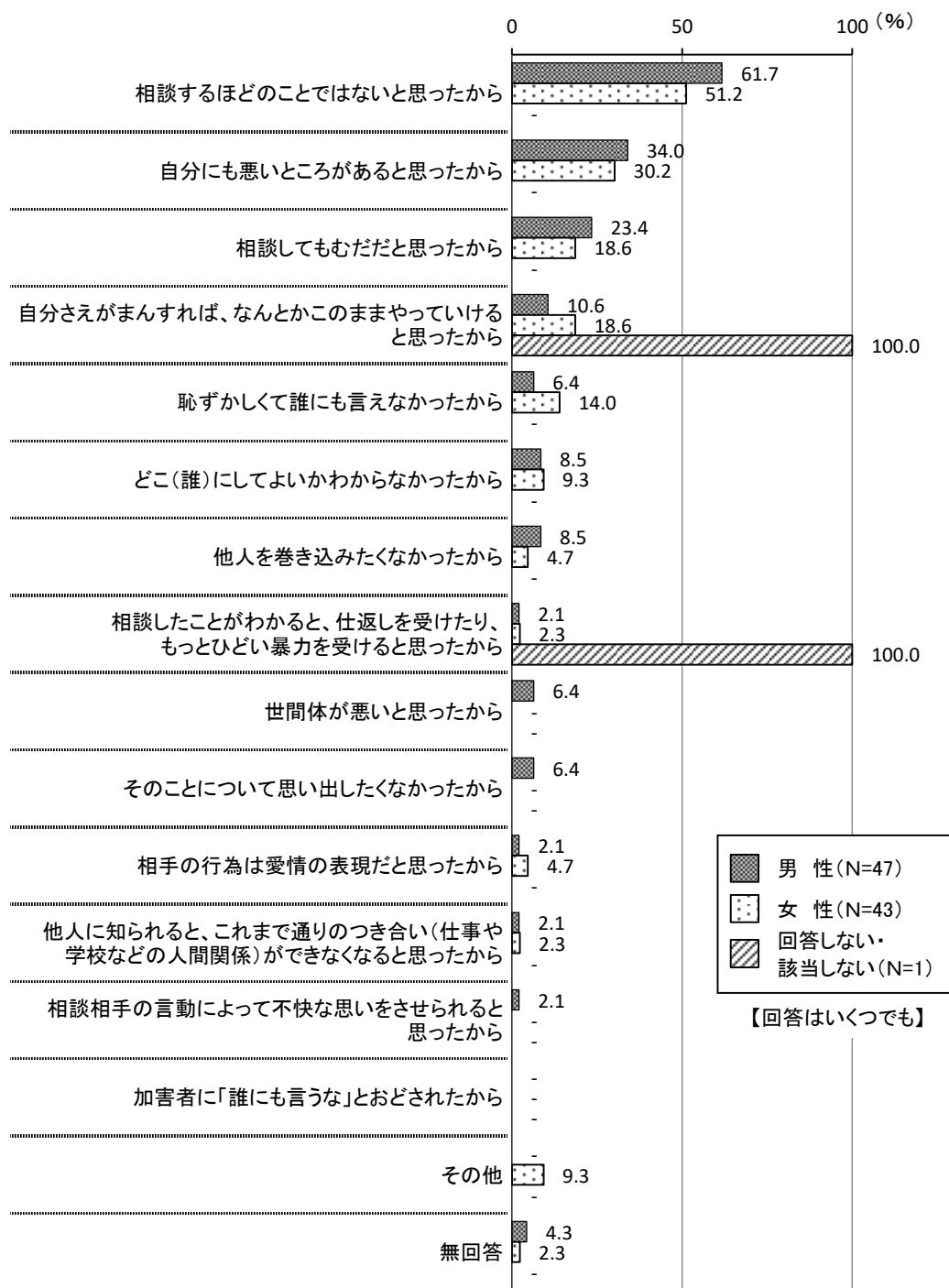
図表7-31 相談しなかった理由【全体】



「どこ（誰）にも相談しなかった」理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が56.5%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(32.6%)、「相談してもむだだと思ったから」(20.7%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(15.2%)などとなっている。

性別にみると、「相談するほどのことではないと思ったから」（男性 61.7%、女性 51.2%）や「自分にも悪いところがあると思ったから」（同 34.0%、30.2%）、「相談してもむだだと思ったから」（同 23.4%、18.6%）などは男性の方がやや割合が 3.8～10.5 ポイント高い。また「他人を巻き込みたくなかった」や「世間体が悪いと思ったから」「そのことについて思い出したくなかったから」なども男性の割合が高い。「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（同 10.6%、18.6%）、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（同 6.4%、14.0%）などは女性の方が 7.6～8 ポイント高くなっている。

図表 7-32 相談しなかった理由【性別】



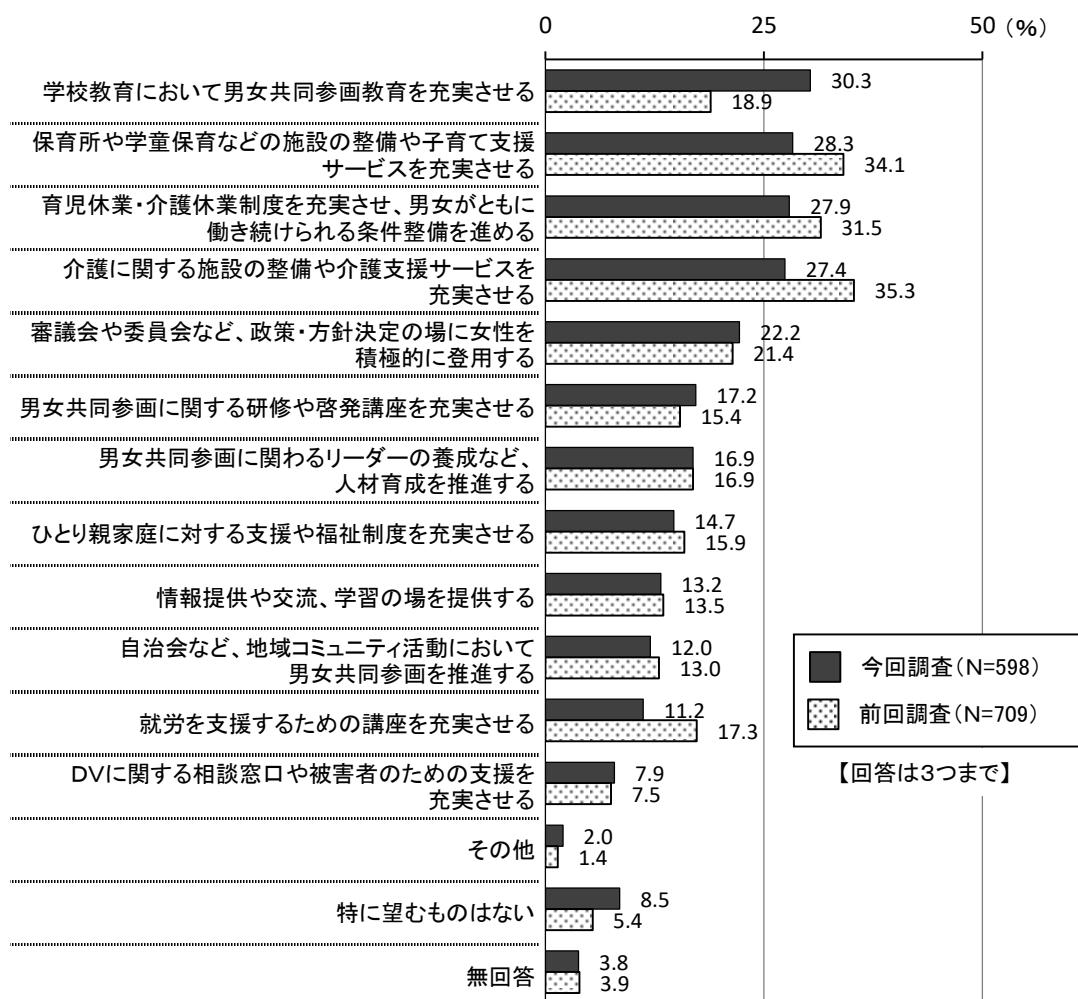
## II 調査結果

### 8. 男女共同参画社会について

#### (1) 施策の要望

問 26 男女共同参画社会を実現するために、遠賀町に対してどのような施策を望みますか。(○は3つまで)

図表8－1 施策の要望 [全体] (前回調査比較)

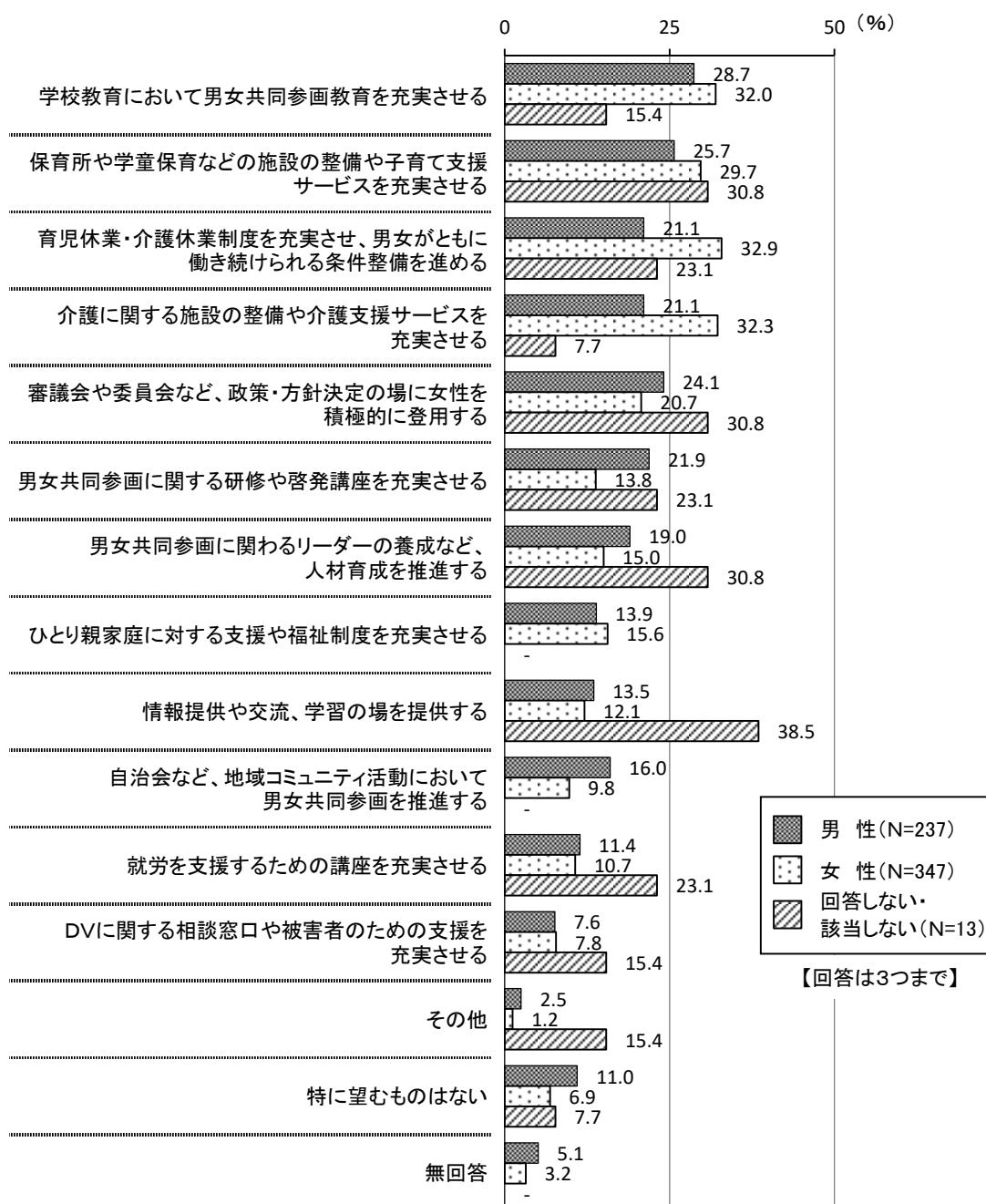


男女共同参画社会を実現するために、行政に望む施策は「学校教育において男女共同参画教育を充実させる」(30.3%)、「保育所や学童保育などの施設の整備や子育て支援サービスを充実させる」(28.3%)、「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進める」(27.9%)、「介護に関する施設の整備や介護支援サービスを充実させる」(27.4%)などが約3割で上位にあげられている。

前回調査と比べると、「学校教育において男女共同参画教育を充実させる」は前回調査では18.9%で第5位にあげられていたが、今回調査では11.4ポイント増加し、第1位の要望となっている。

性別にみると、上位4位にあげられている施策は、女性の方が男性よりも割合が高く、特に「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進める」(男性21.1%、女性32.9%)や「介護に関する施設の整備や介護支援サービスを充実させる」(同21.1%、32.3%)は約11ポイント男性よりも割合が高くなっている。男性は「男女共同参画に関する研修や啓発講座を充実させる」(同21.9%、13.8%)、「自治会など、地域コミュニティ活動において男女共同参画を推進する」(同16.0%、9.8%)、「男女共同参画に関わるリーダーの養成など、人材育成を推進する」(同19.0%、15.0%)、「審議会や委員会など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」(同24.1%、20.7%)などの要望が女性よりも3.4~8.1ポイント高い。

図表8-2 施策の要望 [性別]



## II 調査結果

年齢別にみると、「学校教育において男女共同参画教育を充実させる」は女性の18~20歳代で45.2%と最も高い。「保育所や学童保育などの施設の整備や子育て支援サービスを充実させる」は女性の30歳代で47.2%、男性の18~20歳代で42.9%、また「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進める」も女性の30歳代で47.2%と高い。「介護に関する施設の整備や介護支援サービスを充実させる」は女性の70歳代以上で43.4%、40歳代でも39.3%と高くなっている。

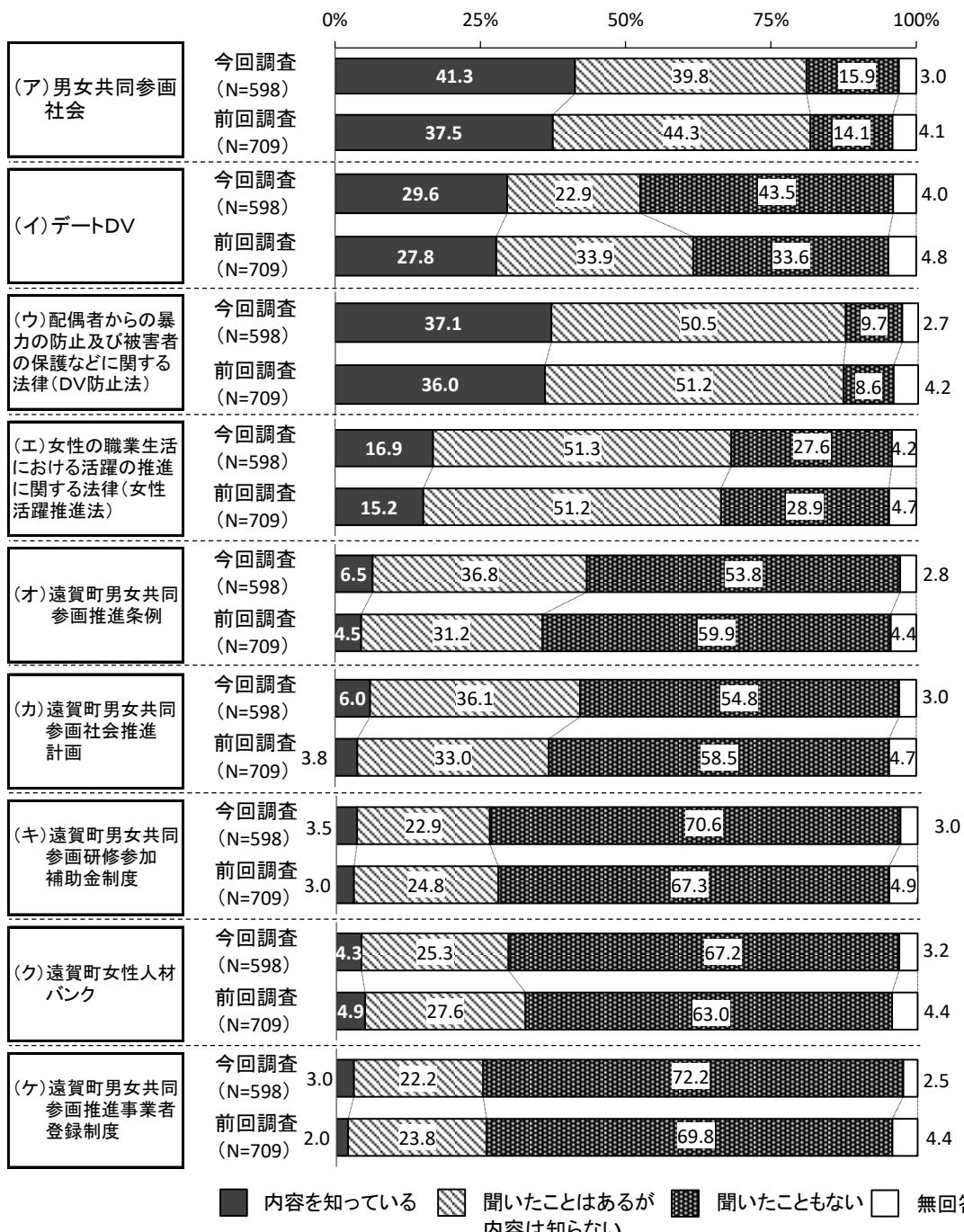
図表8-3 施策の要望 [全体、年齢別]

		標本数	男女共同参画に関する研修や啓発講座	就労を支援するための講座を充実させ	審議会や委員会などを積極的に登用する方針決定	情報提供や交流、学習の場を提供する	男女共同参画成に推進するリーダーの養成	学校教育において男女共同参画教育を充実させる	保育所や支援サービスを充実させる施設の整備や介護支援	介護に関する施設の整備や介護支援	ひとり親家庭に対する支援や福祉制度	を充実させる施設の整備や介護支援	育児休業・介護休業制度を充実させる相談窓口や被害者のため	DVに関する相談窓口や被害者のため	自治会など、同地コミニティ活動に	その他	特に望むものはない	無回答
			(%)															
		598	103	67	133	79	101	181	169	164	88	167	47	72	12	51	23	
		100.0	17.2	11.2	22.2	13.2	16.9	30.3	28.3	27.4	14.7	27.9	7.9	12.0	2.0	8.5	3.8	
年齢別	男性:18~20歳代	14	21.4	7.1	14.3	21.4	14.3	28.6	42.9	-	21.4	14.3	14.3	-	-	28.6	-	
	男性:30歳代	20	20.0	20.0	15.0	20.0	10.0	15.0	25.0	10.0	25.0	35.0	20.0	-	5.0	10.0	-	
	男性:40歳代	33	18.2	12.1	9.1	30.3	9.1	36.4	39.4	21.2	9.1	9.1	9.1	12.1	6.1	9.1	6.1	
	男性:50歳代	36	5.6	11.1	27.8	13.9	8.3	27.8	22.2	22.2	16.7	25.0	5.6	11.1	-	13.9	11.1	
	男性:60歳代	63	27.0	12.7	30.2	7.9	23.8	25.4	30.2	27.0	9.5	20.6	6.3	22.2	3.2	9.5	6.3	
	男性:70歳代以上	68	26.5	8.8	27.9	7.4	29.4	33.8	14.7	22.1	13.2	23.5	4.4	20.6	1.5	8.8	2.9	
	女性:18~20歳代	31	6.5	6.5	6.5	12.9	-	45.2	19.4	9.7	22.6	35.5	12.9	-	-	22.6	6.5	
	女性:30歳代	36	8.3	8.3	16.7	13.9	16.7	27.8	47.2	19.4	19.4	47.2	8.3	11.1	-	2.8	-	
	女性:40歳代	61	8.2	19.7	21.3	14.8	8.2	31.1	39.3	39.3	18.0	29.5	4.9	6.6	3.3	6.6	-	
	女性:50歳代	61	19.7	6.6	23.0	8.2	21.3	31.1	21.3	32.8	8.2	29.5	11.5	6.6	1.6	9.8	6.6	
	女性:60歳代	82	14.6	7.3	28.0	11.0	23.2	34.1	32.9	30.5	14.6	35.4	9.8	9.8	-	4.9	1.2	
	女性:70歳代以上	76	18.4	13.2	18.4	13.2	11.8	27.6	21.1	43.4	15.8	27.6	2.6	18.4	1.3	2.6	5.3	
		回答しない・該当しない	13	23.1	23.1	30.8	38.5	30.8	15.4	30.8	7.7	-	23.1	15.4	-	15.4	7.7	-
		無回答	4	50.0	-	25.0	-	-	25.0	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	

## (2) 男女共同参画に関する言葉・施策の認知

問27 次の言葉や施策について、どの程度知っていますか。項目ごとに、あてはまるものを選んでください。((ア)～(ケ)のそれぞれに○は1つ)

図表8-4 男女共同参画に関する言葉・施策の認知 [全体] (前回調査比較)



男女共同参画に関する言葉や法令、遠賀町の施策の認知について、「内容を知っている」の割合が高いのは、「男女共同参画社会」で41.3%と最も高く、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護などに関する法律(DV防止法)」(37.1%)、「デートDV」(29.6%)、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」(16.9%)となっている。

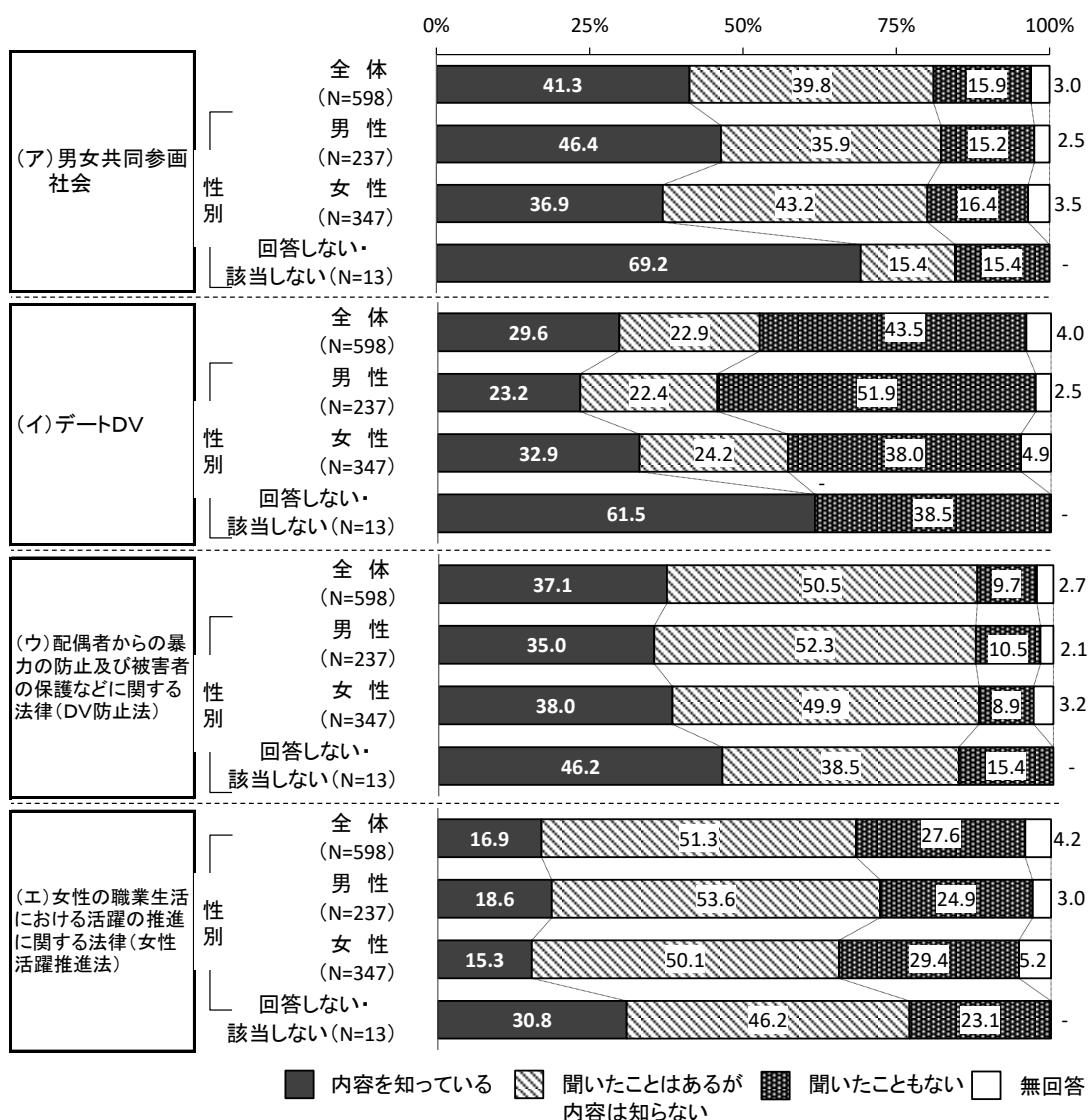
## II 調査結果

遠賀町の条例や、計画、施策については「内容を知っている」の割合は1割に満たず、「聞いたこともない」が5割を超えるなど認知度は低い。

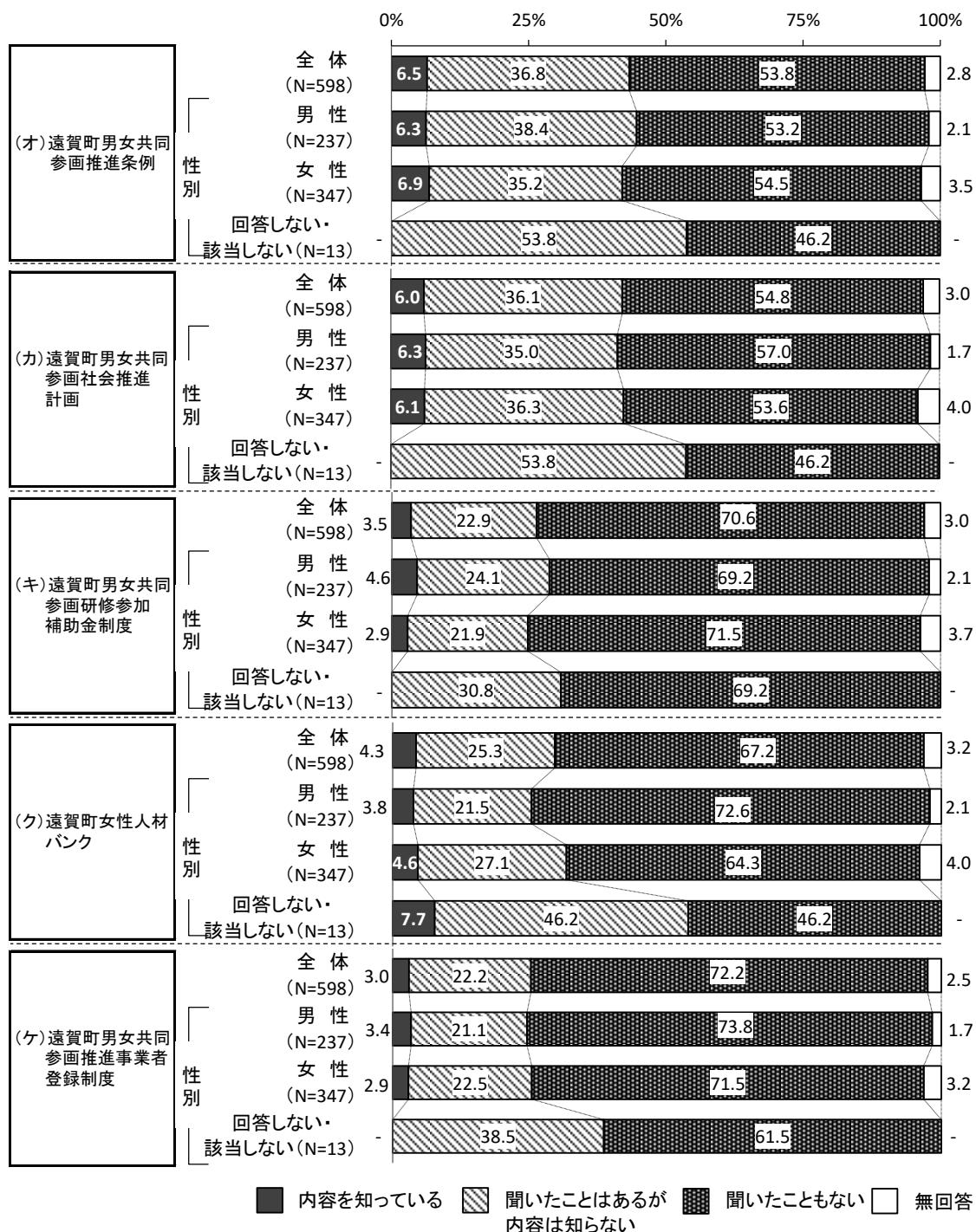
前回調査と比べると、いずれにおいても「内容を知っている」割合はやや増えているか、同程度の割合となっているが、「デートDV」は「聞いたこともない」が9.9ポイント増えている。「遠賀町男女共同参画推進条例」と「遠賀町男女共同参画社会推進計画」の「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」をあわせた認知がともに4割を超えて、前回調査よりも5.3～7.6ポイント増えている。

性別にみると、男性は「男女共同参画社会」や「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」の「内容を知っている」が女性よりも高く、女性は「デートDV」や「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護などに関する法律（DV防止法）」の認知が男性よりも高くなっている。遠賀町の条例や、計画、施策についての「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」をあわせた認知をみると、「遠賀町女性人材バンク」は女性の割合が男性よりも6.4ポイント高く、その他については同程度となっている。

図表8-5(1) 男女共同参画に関する言葉・施策の認知 [全体、性別]



図表 8-5 (2) 男女共同参画に関する言葉・施策の認知 [全体、性別]



## II 調査結果

### 9. 男女共同参画に関する意見（自由記述）

性別	年齢	男女共同参画に関する意見
男性	30歳代	慣習などにより女子が参加しにくい面もあるとは思うが、女性であるから登用する等起用の理由に性を重視することは、個人の軽視であり、性差別的であると思われる。もっと実力を重視する社会であれば、性は目安にしかならないと思う。
男性	30歳代	遠賀町の公民館で男性と女性がペアを組んで話し合ったり、お互いに弱さを補い合ったりとメリットがあればいいと思う。男性と女性が協力し合うことで、遠賀町のためにもなる。あと、子どものたちとの交流や話す場を作ることで何かが変わると思う。
男性	30歳代	男女の身体的特性による得意、不得手が必ずあり、決して差別ではなく、能力の区別として受け入れてお互いを思いやる地域、まちづくりが必要であると思う。もっとみんなにPRをしてほしい。素敵なまち、遠賀町になってほしい。
男性	40歳代	男女で分けずに、能力による選別が必要だと思う。適材適所。
男性	40歳代	男女共同参画は税金の無駄遣いである。現状の法律では対して効果が見込めないため、この方針には強く反対する。
男性	40歳代	遠賀町は郡内で男女共同参画の取り組みが遅く、また町民に対する金銭的支援が少なく、他の町の良さしか伝わらない。
男性	50歳代	男女ともに安心して社会生活を送れる町にしていかなければならない。一人ひとり自覚することが大事だと思った。
男性	50歳代	男性、女性に関係なく、ヒト重視で物事を決めるべきである。ただし、推し進めていく初期の段階では、女性の比率が低い場合は強制的に高める必要があり、その場合は数値目標を定めて対応する。以上は男女共同参画社会についての意見である。
男性	60歳代	まずは役場の職委員採用から改めではどうでしょうか。こんなアンケートは無意味では。アンケート結果の開示はあるでしょうか。本当に男女共同参画を考えていますか。
男性	60歳代	女性が外に出られるように、地域、社会での仕組みを制度化することが必要となる。
男性	70歳代以上	保守的考え方がある70歳以上の老人が、多くの場で役職者となっている場合がみられる。（政治の世界、会社など）老人の知恵もまんざら捨てたものではないが、年寄りの理念が男女に対する向き合い方に足を引っ張る原因となっている。やはり政治や社会、教育の場などでは老人を排除し、若い人に優先した制度を作るべきだ。

## 9. 男女共同参画についてに関する意見（自由記述）

男性	70歳代以上	早めの教育、子どものころから教育が必要だと思う。しみついた習慣はなかなか変わらないと思う。特に我々年寄りには今更という考えがある。
女性	20歳代	子どもがいるが、毎日の送り迎えや発熱などの体調不良時はほぼ100%母親の対応である。私は時短勤務で仕事のスキルアップがなかなかできない。夫（男性）が育児に対するかかわりが社会全体としてもっと理解が深まってほしいと思う。ただ、男と女は脳の作りが違うので、現実は難しいだろうと思っている。
女性	20歳代	夫とうまくいっている方だと思うが、妊娠、出産においては我慢するのは女性の方で不平等だと思う（相手にも伝えたいが）。夫はこちらに伺をたてるだけで、飲みに行けるが、相手が子どもを見てくれているということには思い至らない。
女性	30歳代	町の条例は施策についてまったく知らなかつたので、もう少し広報活動をしてほしい。一体どれくらいの人が知っているのだろうか。難しい言葉をなるべく使わず、誰にでもわかりやすい様なパンフレットを作成するなど、読んでみようかなと思えるような物を作成してほしい。
女性	30歳代	仕事と家庭の両立。聞こえはいいが、結局家庭を犠牲にして仕事をしている人が多いのではないかと感じる。女性が働く割合が増えたことで、学校や地区の役員をする人も減り、どんどん行事もなくなっている。子どものそだつていく社会はこれでいいのだろうか。そんなに働くことが大事であろうか。楽しいことはどんどん無くし、勉強をしろ、黙って掃除をしろ、黙食しろ、子育て環境がひどすぎると感じる。小学校はつまらなすぎる。
女性	30歳代	共働き夫婦が多くなっているが、まだ家事や育児は女性の方が負担が大きいと思う。男性ももっと家事育児をするべきだと思うが、女性に比べて育休や時短勤務などの制度があつても利用しにくい（言い出せない雰囲気がある）ので、社会全体で男性の働き方を変えていく必要がある。また、遠賀町では他自治体に比べ共働き夫婦への支援が少なく、このままでは共働きはできないのではと感じている。子どもの預け先を増やしたり（保育園の拡充や新設、認定こども園の新設など）、ファミリーサポートを作つて子どもの送迎などの支援が受けられるようにするなど、早急な改善を求めます。

## II 調査結果

女性	40歳代	町の男女共同参画について何をしているのか全く知らないので、もっとわかりやすく情報発信してほしい。コンビニに成人誌を置かないようにしてほしい。夫婦別姓について理解をすすめてほしい。子育てをしていて、小学生の子どもが「お母さんは家事をしなければならないから大変」という意識をもつてしまっていることに気づいた。うちは夫の仕事の帰りが遅いので、家事の割合は妻の方が多い。子どもや自分たちにあっても見過ごしてしまう当たり前のこと、当たり前でないということを学校などで教えてほしい。例えば平等な家事分担、これは差別に当たる等問題意識を持てるようにしてほしい。
女性	40歳代	多くの職場で上司や事務部長、社長が女性差別を行っており、間違っていることをしているという自覚が全くないことが多い。若い人たちは学校などできちんと教育を受けていて、男女平等は浸透していると感じるが、社会において、上司や高齢者（特に男性）は男女平等について、学ぶ機会が少なく、古い考えのままの人が多い。会社の立場の高い人にしっかり教育をすることが大事だと思う。
女性	40歳代	男女関係なく、それぞれの適正に合わせて、ライフスタイルを選択できたらと思う。今は選択の余地がなく、収入や制度の関係上、早期の職場復帰や育休を取らなければいけない環境なので。
女性	50歳代	若い人は男女共同参画は当たり前の時代になっているが、50代以上の特に男性は女性蔑視の傾向が強く、女性の口出しことを嫌がる人が多い。教育の影響は多大だと思うので、若い方々にはそのような考え方にならないように教育を続け、高齢者へは女性蔑視しないような教育、啓発が必要だと感じる。
女性	50歳代	アファーマティブアクションはしなくともいいと思う。問21についてやる気と能力がある人がなるべきだし、それが男性だろうが女性だろうがどちらでもいい。
女性	50歳代	現在、行政や役場の役職の方は男性が多く、普通でも話しくい雰囲気があると思うが、難しい内容や大掛かりな話になると、難しい顔をして「予算が」と言われる。正直でわかりやすい答えをされているのだろうが、誰でもが発言できる議論できる環境を作ってほしい。
女性	50歳代	人は多面体であると思う。その人の立場になってみないとわからないと思うので。

## 9. 男女共同参画について関する意見（自由記述）

女性	50歳代	男女共同参画はトップ及びトップ層が正しい認識を持たないといつまでたっても進まない。国がまさにその例である。頭の古い人の意識を帰るのは至難のわざなので、条例などの強制力をもって推進していくのが良いと思う。介護の類は全く男女半々となるようにしなければ、密室の不信感もなくなり、全体が良い方向になるのではないでしょか。
女性	50歳代	町で、お父さんと子どものクッキング教室が開かれていた。このような企画はとてもいいと思う。「男だから」「女だから」という考えではなく、一人ひとりが家庭の一員である、町の一員であり、社会の一員である。このような考えをもって役割を担う生活をしていければと思う。
女性	60歳代	遠賀町で条例、施策があるとは知りませんでした。ホームページで調べて、わからないことは聞きたいと思った。
女性	60歳代	これまで自分が置かれた環境の中で努力して場所を作っていく生き方を貫いてきたように思う。それで「男女平等」などということを考えずに生きてきた。時代は変わり、家庭生活も「男女平等」がみられる中、共働きも多くなり、これまでの母親がおもにしてきた子育ての部分をサポートしてくれる制度や施設を充実させてほしいと思う。
女性	60歳代	テレビで「クオーター制」の話題が取り上げられていた。すぐに移行することは難しいことであるが、議会や町政に女性の意見できる機会が増えることを望んでいる。
女性	60歳代	男性の意識改革の制度を作ること。
女性	60歳代	遠賀町の男女共同参画についての施策は全然知らなかった。
女性	70歳代以上	1つの問題に対し、男女で参画することで見方、考え方の幅が広がり、対策がより良い方向に進むのではないかと思う。男性、女性、それぞれ向き不向きがあり、それによって対処の仕方も選べるのではないか。
女性	70歳代以上	十数年前になるが、知人のヨーロッパ人が「アフターファイブは妻との大事な時間だ」と言った。その時代ではそんなことは日本ではありえないと思ったが、今は少し変わってきたような気もする。男女ともに仕事もプライベートも充実していると思えるようにするには、家庭内の諸作業も共に出来たらと良いと思う。妻も当たり前に働けば、夫もギリギリした働き方をしなくてもゆとりをもって生きられるのではないかと思う。
女性	70歳代以上	男女共同参画は馴染みの言葉であるが、内容は全く知らない。

## II 調査結果

女性	70歳代以上	知らないことが多くあったが、今まで人に助けられて仕事に、家庭に頑張ってこられたと感謝している。若い人はいろいろな法律に守られて幸せだろうか。
女性	70歳代以上	子育てをしながら女性が働きやすい社会にしてほしい。
回答しない・該当しない	60歳代	町議などで女性を増やすべきである。女性が参加したいと思う様なまちづくりを願う。ジェンダー問題を重視されているのであれば、なおさらである。まだまだ男性中心の社会が日本にはびこっている。その例が国会であろう、悲しくなる。
女性	40歳代	男女平等といっても、男女の役割、身体の違いもある。適材適所にはまればそれでいいと思う。沖ノ島の女人禁制反対などのようなことが絶対ないようにしてほしい。これは差別でも人権問題でもない。
女性	60歳代	ひとり一人が意識することが大切だと思う。
回答しない・該当しない	30歳代	マイノリティの優遇や逆差別等、息苦しく感じる世の中になっていると思う。
男性	40歳代	職場の同僚の女性（50代から60代）は見かけで判断し、人によって接する態度が違う。自分は弱そうにみられ、欠勤はなく、言われたことはしているが、人をばかにしていつも罵声をあげる。自分たちの失敗は笑ってごまかす。生活のため働くを得ない。
男性	50歳代	大声で叫んだり、録音や音声の声を使ったり、使われたりするから町長の名前が男性か女性かわからなかつた。
男性	50歳代	遠賀町自体が何ごとに対しても相談しやすい環境であるのかを調査、把握することが重要であると思う。この調査を行うことで遠賀町はどうしたいのか。
男性	60歳代	自分のことは自分で解決すべき。
男性	60歳代	質問が多すぎる。
男性	60歳代	保育を充実させるためには、保育士の確保が第一であるが、今の給与体制では資格を持っていても生活できない。保育士の給与を倍増すれば、自然と保育士も増え、保育も充実するのではないか。
男性	70歳代以上	掃除と草刈だけの公民館活動であった。町で日帰りバスツアー等計画をしてみたらどうだろうか。70歳以上の人には喜ぶと思う。出来ることからしましょう。
男性	70歳代以上	アンケートが難しかった。80歳になって人権や男女共同参画などには関心がない。
女性	20歳代	入国して5か月なので、わからないことが多くある。
女性	30歳代	困っている人が気軽に匿名で相談できる窓口があつたらいいと思う。

9. 男女共同参画について関する意見（自由記述）

女性	60歳代	目に見える施策を実施してほしい。
女性	70歳代以上	毎日バイクがアパートの前で大きな音をたてている。バイクの音は同じで、いつも同じころなので同じ人物と分かっている。警察に何度か行ったが、見回りしますといっているが、本当に見回ってくれているのか。
女性	70歳代以上	世の中、なんでもホームページですか。私も含めてある程度の高齢者はHPは見ることはできません。
女性	70歳代以上	人権に関するわけではないが、物価が上がり生活しづらくなっている。町の給付基金を希望したい。芦屋町、岡垣町のコロナの時は遠賀町より多額に及んでいる。物価上昇の折、低所得者は苦しんでいます。検討してくだされば。
男性	40歳代	高齢者が多いのはわかるが、若者への支援、子育て支援にもっと力を入れてほしい。
回答しない・該当しない	30歳代	遠賀町役場にて、ヘルプマークを着用した人が来場されていたが、誰一人表に出て対応をせず、ただ見ているだけであった。変わらないと思う。また、役場内の業者からのお土産をもらっており、どうかと思う。断るそぶりもなく受け取っていた。

### III 調査結果からみえてくる現状と課題

遠賀町では、平成 24 年に町の将来構想にとって男女共同参画が不可欠であるとの認識の下、「遠賀町男女共同参画推進条例」を制定し、男女共同参画社会実現に向けた取り組みを進めてきた。令和 2 年 3 月には「第 3 次遠賀町男女共同参画社会推進計画」を策定し、全局的に施策を推進している。「第 3 次遠賀町男女共同参画社会推進計画」は中間年度である令和 6 年度に見直しを行うことが定められており、本調査は、この 5 年間の成果を検証するとともに、今後、計画見直しのための基礎データを得ることを目的として実施したものである。

#### 1. 男女の地位・役割について

男女の地位の平等感を 8 つの分野についてたずねたところ、「学校教育の場」は「平等である」が最も高く、57.7% に上っている。「学校教育の場」以外で比較的「平等である」が高いのは、「地域活動や社会活動の場」「法律や制度上」である。一方、「社会通念、慣習、しきたりなど」「政治の場」「社会全体」は 7 割以上が『男性優遇』と回答しており、不平等感が強い分野となっている。

「職場」「家庭生活」でも 5 割超が『男性優遇』と回答している。

前回調査と比べると、「職場」以外の分野で『男性優遇』の割合がわずかに減少しているものの、全体として不平等感が解消されているとはいがたい。

性別でみると、いずれの分野についても「平等である」は男性より女性で低くなっている。女性の方が不平等感を感じていることがうかがえる。前回調査と比較すると、男女とも平等感が高まっている分野（「学校教育の場」）、男女とも平等感に変化がみられない分野（「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」）、男性で平等感が高まっている分野（「職場」）、女性で平等感が高まっている分野（「地域活動」）など、分野によって認識の変化の度合いにも差がみられる。

さらに、年代別でみると「社会全体」について女性の 40 歳代では 80.3% が『男性優遇』を感じているのに対し、男性の 40 歳代では『男性優遇』は 54.6% と低く、『女性優遇』が 24.2% と相対的に高くなっている。また、「学校教育の場」では、50 歳代前後の女性で『男性優遇』がやや高くなっている。

このような現状に対する認識の差が相互の理解を妨げる可能性があり、施策の推進にあたっても望ましいとはいえない。遠賀町における男女共同参画の現状について、統計資料や意識調査の結果に基づいて現状を町民に分かりやすく説明するとともに、様々な機会を通じて啓発を行うことが必要である。また、不平等感の強い分野や、性別による認識の差が大きい分野について、見直すべき制度や慣習などがないかを精査し、改善を図ることが望まれる。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といういわゆる性別役割分担意識については、この 5 年で男女ともに『反対』が大幅に増加している。その一方で、性別役割分担意識に関する性別での意識差がみられる。また、年代による差も大きく、特に男性では 40 歳代以下と 50 歳代以上で『反対』の割合に大きな差が生じている。女性の労働力率はこの 10 年ほどで大幅に増加しており、社会経済的な状況から考えてもかつての「男は仕事、女は家庭」を維持していくことは現実的ではない。しかし、性別役割分担意識の変化ほどには平等感が変化しておらず、意識の変化に対して家庭や職場での役割分担が変化していないことが推測される。町民一人ひとりが性別で差別されることなく、個性と能力を発揮しながら様々な場面に参画できるよう、男女共同参

画の重要性について町民の理解を深める取り組みを進めるとともに、意識の変化を行動の変化につなげていくことができるよう、町内の地域団体や事業所等の理解を得ながら施策を進めることが重要である。

## 2. 家庭生活について

配偶者・パートナーと同居している人に、家庭内の仕事を誰が担当しているかをたずねた設問では、『夫がしている』は「家計を支える（生活費を稼ぐ）」で 66.1%と高く、『妻がしている』は、「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」で 81.1%、「掃除や洗濯などの家事をする」で 78.1%、「日々の家計を管理する」で 74.8%と非常に高くなっている。また、「育児、子どものしつけをする」(48.3%)、「自治会や P T A などの地域活動に参加する」(46.1%)、「家族（親、祖父母など）の世話や介護をする」(31.3%) なども、『妻がしている』が『夫がしている』に比べて大幅に高い。このうち「家計を支える（生活費を稼ぐ）」「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」「掃除や洗濯などの家事をする」「日々の家計を管理する」「自治会や P T A などの地域活動に参加する」は、前回調査に比べて「夫と妻が同じ程度」が 3～4.6 ポイント増加しているものの、依然として夫が稼ぎ妻は家事・育児という性別役割分担が家庭内で行われている状況がみられる。

一方、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」(51.5%)、「家庭の問題における最終的な決定をする」(48.5%)、「子どもの教育方針や進学目標を決める」(39.8%) といった家庭内での意思決定は、「夫と妻が同程度」が比較的高い。しかし、子どものことは妻、高額商品や家庭の問題の最終的決は夫の割合も高く、家庭内での重要事項の決定は夫が担っている様子もうかがえる。性別でみると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」については性別での差が小さいが、家事や育児、地域活動に関する項目では、「主に妻がしている」が男性より女性で大幅に高い傾向がみられ、男性が思っている以上に女性は自分の方が負担していると感じていることが分かる。年齢別でみると、年齢が下がるほど「夫と妻が同程度」の割合が高くなる傾向がみられ、前回調査と比較しても「夫と妻が同じ程度」が増加した項目が多く、今後も家庭内での分担は徐々に進んでいくものとは思われるが、変化の速度は速いとはいえない。後述するように、女性の働き方については就業継続が望ましいとする考え方方が大きく増加している。就業継続や再就業する女性が増加する一方で家庭内での家事や育児の分担が進まなければ、女性の負担がより大きくなる可能性がある。男性の家事や育児への参画を促進するための啓発を進めるとともに、性別にかかわらず仕事と家庭の両立ができるような支援制度の充実や職場環境の整備に向けた取り組みが重要である。

## 3. 就労・働き方について

女性が職業をもつことについては、「ずっと職業をもっている方がよい」が 54.8%と最も高く、前回調査より 11.4 ポイントと大幅に増加した。一方、前回調査では 37.2%であった「子どもができたら一旦退職し、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という中断・再就業は、前回調査より 10.4 ポイント減少した。

年齢別みると、「ずっと職業をもっている方がよい」は男性の 70 歳以上と女性の 18～20 歳代を除くすべての年代で 5 割台から 6 割台となっており、女性の働き方として就業継続が望ましいとする考えが主流となっているといえる。

## II 調査結果

また、就業継続以外を選択した人にその理由をたずねると、男女とも「仕事と家庭が両立するには現在ある制度だけでは不十分だから」が5割を超えて最も高く、前回調査に比べて16.1ポイント増と大幅に高くなっている。一方、前回第1位であった「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があつても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」は、男女とも2割台半ばで前回調査に比べて11.9～12.8ポイントと大きく減少し、仕事と家庭の両立についての職場の雰囲気が大きく変化していることが感じられる。一方で、女性の40歳代以下では「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が3割弱と比較的高くなっている、出産や育児を経験する年代の女性が働きづらさを感じていることもうかがえる。

現在職業をもっている人に勤めている職場は女性にとって働きやすいかどうかたずねたところ、『働きやすい』は78.3%で『働きにくい』の17.0%を大きく上回り、また、前回調査から『働きやすい』が男性が22.2ポイント、女性で15.7ポイント増加しており、職場の雰囲気が変化していることがここでもうかがえる結果となっている。

男性の育児休業・介護休業の活用についても、男女とも8割台が『賛成』と回答しており、積極的な『賛成』が前回調査より増加している。しかし、男性の40歳代で『反対』が24.2%、50歳代で「わからない」が19.4%と高くなっている。管理職になる人も増えてくると思われるこの年代の男性において男性の休業・介護休業の活用に消極的な姿勢がみられることは、制度の活用への影響も懸念される。また、男性の育児休業取得率が低い理由について、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が上位となっており、職場の雰囲気や仕事の体制が課題となっていることが分かる。町民や町内事業所への啓発や支援制度についての情報提供などに積極的に取り組むことが必要である。

## 4. 地域活動や社会活動への参加について

自治会長や町の審議会委員などの地域の役職に女性がどの程度つくことが望ましいかをたずねたところ、いずれの役職も「男性と女性が同じくらいの方がよい」が約5割から6割と最も高くなっている、地域の役職に男性と女性が同程度就任することが望ましいと考える人が多数となっている。前回調査に比べて「自治会長」「公民館長」は「男性と女性が同じくらいの方がよい」が約5ポイント増加した一方、「男性よりも女性が少ない方がいい」「現状のままでよい」はいずれの役職についても前回調査より減少している。性別でみると、「男性と女性が同じくらいの方がよい」はすべての役職で男性の方が高く、女性は「わからない」が高くなっている。

自分自身が地域の役職に推薦された場合にどうするかについては、男女とも『断る』が8割前後に上るが、『引き受ける』は男性より女性が4.1ポイント低く、女性の方がより消極的であることがうかがえる。しかし、男性30歳代の3割、女性の30歳代、50歳代の2割超が『引き受ける』と回答しており、全体としては役職への就任に消極的な人が多いなか、引き受けてもよいと考える人も確実にいることが分かる。一方で、断ると回答した理由としては「時間的な余裕がないから」が高いほか、「責任が重いから」「知識や経験の面で不安があるから」という理由も高くなっている。地域の活動に年齢や性別など多様な人材が参画できるよう、仕事の内容や各役職の担当業務を見直したり、活動の日程や参加方法を工夫したりするなど、活動への障壁を低くする取り組みが求められる。

## 5. DVについて

ドメスティック・バイオレンス（DV）にあたる行為について、暴力と思うかどうかをたずねた。「嫌がっているのに性行為を強要する」「平手でたたいたり、足でけったりする」は8割台、「物を投げつける」「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く」「生活費を渡さない」「避妊に協力しない」は7割台が「どんな場合も暴力にあたる」と認識している。一方、「携帯電話のメールや着信をチェックする」「外出を制限する」といった社会的暴力や、「何を言っても無視する」「大声でどなる」といった精神的暴力については「どんな場合も暴力にあたる」が3割台から4割台と低く、暴力であるとの認識が薄いことがうかがえた。また、「平手でたたいたり、足でけったりする」「物を投げつける」という身体的暴力は前回調査でも「どんな場合も暴力にあたる」の割合が高かったが、多くの項目が前回調査より暴力であるとの認識が増加しているなか、前回調査から大きな変化はみられなかった。

また、男性は女性に比べて身体的暴力以外のすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたる」とする割合が低くなっている。DVにあたる行為に対する認識が性別で異なっていることが分かる。年齢別では、男女とも18～20歳代の若い世代で「どんな場合も暴力にあたる」の割合が低い傾向がみられる。全体的にはDVについての認識は高まりつつあるが、性別や年代で差がみられることから、DV・デートDVについて、様々な機会を活用して正しい知識の普及に努めることが必要である。

また、この3年間のうちに配偶者やパートナーからDVを受けた経験については、すべての項目について経験した人がみられ、「大声でどなる」（17.5%）、「何を言っても無視する」（12.5%）は1割を超えており、「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」（7.5%）、「物を投げつける」（5.3%）も5%を超える人が経験している。それぞれの経験率には性別で大きな差がない項目が多いが、「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く」「嫌がっているのに性行為を強要する」は、女性の方が男性より3.4～3.8ポイント高く、女性の経験率が高くなっている。一方、「外出を制限する」「何を言っても無視する」は女性より男性で2.9～4.5ポイント高い。

DVを受けた人のうち、「どこ（誰）にも相談しなかった」が62.6%に上っている。相談した人もほとんどは友人・知人か家族や親戚への相談となっており、公的な機関に相談した人はそれぞれ1%前後にとどまっている。性別でみると女性の51.8%、男性の77.0%が相談をしておらず、相談しなかった理由としては男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が高くなっている。しかし、「自分にも悪いところがあると思ったから」が32.6%、「相談してもむだだと思ったから」が20.7%と、自責感や無力感から相談をしていない人も比較的多くなっており、DVの背景やDVを受けたときに陥りがちな心理状態など、より具体的な情報について周知する必要性が示唆されたといえる。あわせて、DVの相談窓口や支援体制を整備し、町民に周知することも重要である。

## 6. 男女共同参画社会について

男女共同参画社会を実現するために、行政に望む施策としては「学校教育において男女共同参画教育を充実させる」（30.3%）、「保育所や学童保育などの施設の整備や子育て支援サービスを充実させる」（28.3%）、「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整

## II 調査結果

備を進める」(27.9%)、「介護に関する施設の整備や介護支援サービスを充実させる」(27.4%)など上位となっており、学校での男女共同参画教育や子育てや介護への支援や制度の充実が求められている。特に、「学校教育において男女共同参画教育を充実させる」は前回調査より数値、順位ともに上昇しており、教育現場での取り組みが重要視されている。また、「保育所や学童保育などの施設の整備や子育て支援サービスを充実させる」、「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進める」、「介護に関する施設の整備や介護支援サービス充実させる」は、前回調査より数値としては低下したものの、前回同様上位にあがっている。これらの項目は特に女性で高くなっている、女性の労働力率が高まるなか、子育てや介護と仕事等の活動を両立できるような環境づくりが引き続き求められているといえる。

男女共同参画に関する言葉や法令、遠賀町の施策の認知については、「男女共同参画社会」「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護などに関する法律(DV防止法)」は8割を超える人が認知しており、「内容を知っている」人も4割前後に上る。「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」の認知率は68.2%に上るが、内容まで知っている人は16.9%と低い。「デートDV」も5割強が認知しているものの、前回調査と比べて認知率が低下している。また、女性に比べて男性の認知率が低く、男性への啓発が求められる。遠賀町の取り組みについては、「遠賀町男女共同参画推進条例」「遠賀町男女共同参画社会推進計画」は4割超が認知しており、前回調査より数値が上昇している。ただ、それ以外の取り組みは認知率が2割台半ばから3割程度で、前回調査から認知率が向上しておらず、町の取り組みについて町民への周知を図り、男女共同参画への関心を喚起することが重要である。

# じんけんおよ だんじょきょうどうさんかく かん ちようみんいしきちようさ 人権及び男女共同参画に関する町民意識調査

## きょうりょく ねが ご協力のお願い

じんけん だんじょきょうどうさんかく かん き  
人権と男女共同参画についてあなたの考え方をお聞かせください。

ちようみん みな ひ ちようせい りかい きょうりょく たまわ まこと  
町民の皆さんには、目ごろから町政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

ほんちょう おんがちようじんけんきょういく けいはつきほんけいかく およ だい じおんがちようだんじょきょうどうさんかく  
本町では、「遠賀町人権教育・啓発基本計画」及び「第3次遠賀町男女共同参画  
しゃかいすいしんけいかく もととりくみすす  
社会推進計画」に基づき、さまざまな取組を進めてきました。

ちようき けいかく みなお たいせつ ちようさ  
この調査は、これらの計画の見直しのための大切な調査です。  
ほんちょう す さいいじょう だんじょ かた むさくい ちゅうしゅつ  
そのため、本町にお住まいの18歳以上の男女1,500人の方を無作為に抽出し、こ  
ちようさ じっし みなさま かいとう むきめい とうけいてき しょり  
の調査を実施いたします。皆様のご回答は、すべて無記名で統計的に処理しますので、  
こじん とくてい  
個人が特定されることはありません。

ちようさ しゅし りかい きょうりょく ねが  
この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。  
げんざい けいかく らん かた おんがちよう らん  
現在の計画をご覧になりたい方は遠賀町ホームページをご覧ください。

おんがちようじんけんきょういく けいはつきほんけいかく  
遠賀町人権教育・啓発基本計画



だい じおんがちようだんじょきょうどうさんかくしゃかいすいしんけいかく  
第3次遠賀町男女共同参画社会推進計画



れいわ ねん がつ  
令和6年6月

おんがちようちょう ふる の おさむ  
遠賀町長 古野 修

## 《 調査票ご記入のお願い 》

- この調査は、封筒の宛名の方に意見をお伺いするものです。必ず宛名の方が、始めるから終りまでご回答ください。宛名の方が記入することが難しい場合は、代筆されてもかまいません。
- 黒のボールペンまたは濃い鉛筆でご記入ください。
- ご回答は、あてはまる番号を選んで○をつけてください。
- 各設問で「その他」を選択したときは、その内容を（ ）内に具体的にご記入ください。
- 記入後は、同封の返信用封筒に入れて 6月24日(月)までに、ご返送ください。  
(切手は不要です)
- この調査についてご不明な点がありましたら下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

おんがちようやくば じゅうみんく きょうどうじんけんがかり  
遠賀町役場 住民課 協働人権係

〒811-4392 遠賀町大字今古賀 513 番地

電話：093-293-1242 FAX：093-293-0806

#### IV 使用した調査票

じしん  
あなたご自身のことについておたずねします。(令和6年5月31日現在)

##### F 1. 性別 (○は1つ)

1. 男性

2. 女性

3. 回答しない・該当しない

##### F 2. 年齢 (○は1つ)

1. 18、19歳

2. 20歳代

3. 30歳代

4. 40歳代

5. 50歳代

6. 60歳代

7. 70歳代以上

##### F 3. 職業・職種 ※現在、仕事を休んでいる場合はその仕事 (○は1つ)

1. 正社員、正規雇用

2. 契約社員、派遣社員

3. パート、アルバイト (内職など)

4. 自営業 (農林水産業)

5. 自営業 (商工サービス業)

6. 自由業 (弁護士、開業医など)

7. 専業主婦・主夫

8. 学生

9. 無職

10. その他 ( )

##### F 4. 配偶状況 (○は1つ)

1. 結婚している (配偶者がいる)

2. 結婚していないが、同居しているパートナーがいる

3. 配偶者やパートナーと離別した

4. 配偶者やパートナーと死別した

5. 未婚である

##### F 4-1 【F 4で「1. 結婚している」「2. 同居しているパートナーがいる」と答えた方】 共働きの状況 (○は1つ)

1. 共働きである

2. 夫 (男性パートナー) のみ働いている

3. 妻 (女性パートナー) のみ働いている

4. ふたりとも働いていない

5. その他 ( )

##### F 5. 家族構成 (○は1つ)

1. 単身 (ひとり暮らし)

2. 夫婦のみ

3. 2世代家族 (親と子)

4. 3世代家族 (親と子と孫)

5. その他 ( )

じんけんもんだい じんけんしんがい  
**人権問題や人権侵害についておたずねします。**

問1 現在の日本社会にはさまざまな人権問題がありますが、あなたはどのような人権問題に関心がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 部落差別問題(同和問題)
2. 女性の人権
3. 子どもの人権
4. 高齢者の人権
5. 障がいのある人の人権
6. 日本に住んでいる外国人や外国にルーツのある人に関する人権
7. 感染症に関する偏見や差別の問題
8. ハンセン病患者・元患者やその家族の人権
9. インターネットによる人権侵害

※1性的マイノリティ：性的指向や性自認などに関してのありようが性的多数派とは異なるとされる人々の総称。

※2人身取引(トラフィッキング)：臓器提供のために子どもを拉致したり、強制労働や性的搾取のために暴力や脅迫などの手段を用いて人を移送すること。

10. 犯罪被害者やその家族の人権
11. 地震など災害に起因する偏見や差別問題
12. アイヌの人々の人権
13. 刑を終えて出所した人やその家族の人権
14. 北朝鮮当局に拉致された被害者などの問題
15. ホームレスの人権
16. 性的マイノリティ(※1)の人権
17. 人身取引(※2)の問題
18. その他( )

問2 あなたは、この5年間のうちに人権侵害を受けたことがありますか。あったとしたらそれはどんなものですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 学校でのいじめ・嫌がらせ・体罰
2. 職場などの不当待遇や上司の言動による嫌がらせ(ハラスメントなど)
3. 親・家族からの虐待(ネグレクト含む)
4. 思想・信条による差別
5. 学歴・財産・年齢などによる差別
6. 性別による差別

7. 社会的身分や出身地区による差別
8. 障がいがあることによる差別
9. 国籍・人種・民族による差別
10. 病気・病歴による差別
11. 性的マイノリティであることによる差別
12. その他( )
13. 人権侵害を受けたと感じたことはない

問2-1 【問2で人権侵害を受けたことがあると回答した方】  
 その時は、どのように対応しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 相手に直接抗議した
2. 家族または友人・知人に相談した
3. 自治会役員や民生委員に相談した
4. NPOなどの民間団体に相談した
5. 人権擁護委員や法務局に相談した
6. 県や市町村などの行政相談窓口に相談した
7. 警察に相談した
8. 弁護士に相談した

9. 職場や学校の窓口に相談した
10. 今後に影響すると思い、がまんした
11. 何をしてもむだだと思い、がまんした
12. どこに相談したらいいかわからず、がまんした
13. 大したことではないと思い、何もしなかった
14. その他( )

#### IV 使用した調査票

問3 部落差別問題（同和問題）についてはじめて知ったのはいつ頃ですか。（○は1つ）

1. 知らない →問4へ
2. 幼児期
3. 小学生の時
4. 中学生の時
5. 中学卒業してから 20歳になるまでの間（20歳未満）
6. 20歳以降
7. 覚えていない

問3-1 【問3で「2.」～「6.」と答えた方】

部落差別問題（同和問題）について初めて知ったきっかけは何ですか。（○は1つ）

1. 家族（祖父母、父母、兄弟など）や親戚から聞いた
2. 近所の人から聞いた
3. 学校の友人や先輩から聞いた
4. 職場の人から聞いた
5. 学校の授業で習った
6. 人権問題の集会や研修会で知った
7. 県や市町村の広報紙や冊子などで知った
8. テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った
9. インターネットで知った
10. その他（ ）
11. 同和問題は知っているが、きっかけは覚えていない

問4 部落差別問題（同和問題）に関して現在どのような人権上の問題があると思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 結婚を周りから反対されること
2. 就職や職場で不利な扱いをされること
3. 付き合いをさけるなど日常の交際の中で差別があること
4. 家や土地を買ったり、マンションやアパートなどを借りたりする際に同和地区かどうかを調べられること
5. 身元調査をされること
6. インターネットを利用して差別的な情報書き込まれること
7. 差別的な貼り紙や落書きをされること
8. その他（ ）
9. わからない

## 問5 部落差別問題（同和問題）の解決を図るために必要なことは何だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 国や地方自治体（県・町）が同和問題の解決に向けた施策に積極的に取り組むこと
- 小・中学校などの人権教育で、同和問題に関する正しい知識を教えること
- 同和地区にかたまって住まないで、地区から出て分散して住むこと
- 同和地区出身者自身が差別されないようにすること
- えせ同和行為（同和問題を利用して何らかの利益を得ること）を排除すること
- 同和問題にふれずにそっとしておくこと
- インターネット上などの偏見や差別的な書き込みを、そのまま受け入れないようにする
- その他（ ）
- わからない

## 問6 子ども（18歳未満）に関して現在どのような人権上の問題があると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 保護者、親族などによる虐待や育児放棄
- いじめ
- 子どもの進路などを保護者が子どもの意見を無視して勝手に決めること
- 子どもにとって有害な暴力的表現や性的情報が多いこと
- 児童ポルノや児童買春などの犯罪行為
- 教師による体罰
- 不審者による子どもへの危害
- 家庭の経済状況による「子どもの貧困」
- 家事や介護を担い、生活や進学就職などに支障があること（ヤングケアラー）
- その他（ ）
- わからない

## 問7 高齢者に関して現在どのような人権上の問題があると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 老いでいることで差別的な言動を受けること
- 就職が難しいことや、賃金などの労働条件で不利に扱われること
- 経済的な社会保障が十分でないこと
- 介護者から肉体的・精神的な虐待を受けること
- 養護者、家族から財産を勝手に処分されるなどの経済的虐待を受けること
- 道路の段差の解消やエレベーターの未設置などバリアフリー対策が十分でないこと
- インターネットやスマートフォンなどがうまく使えないため必要な情報が届きにくいこと
- アパートなどの住居への入居が難しいこと
- 高齢者を狙った悪徳商法や振り込め詐欺
- 介護体制・介護環境が十分でないこと
- 高齢化による体や認知機能の変化に対する人々の理解が十分でないこと
- 買い物弱者・孤立者・独居者への支援が十分でないこと
- その他（ ）
- わからない

#### IV 使用した調査票

##### 問8 障がいのある人に関する現在どのような人権上の問題があると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 障がいがあることで差別的な言動を受けること
2. 就職が難しいことや、賃金などの労働条件で不利に扱われること
3. 結婚を周りから反対されること
4. 普段接する人から肉体的・精神的な虐待を受けること
5. 道路の段差の解消やエレベーターの未設置などバリアフリー対策が十分でないこと
6. アパートなどの住居への入居が難しいこと
7. スポーツや文化活動・地域活動に気軽に参加できること
8. 障がいのある人に対する理解が十分でないこと
9. 保健、医療、福祉のサービスや利用施設が充実していないこと
10. その他 ( )
11. わからない

##### 問9 外国人や外国にルーツのある人に関する現在どのような人権上の問題があると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 外国人であることで差別的な言動を受けること(ヘイトスピーチなど)
2. 就職が難しいことや、賃金などの労働条件で不利に扱われること
3. 結婚を周りから反対されること
4. 病院や施設に十分な外国語表記がなかつたり、通訳が不十分だつたりするため、サービスが受けにくいくこと
5. 参政権や行政への参画が促進されていないこと
6. 習慣などが異なるため地域社会での受入が十分でないこと
7. アパートなどの住居への入居が難しいこと
8. その他 ( )
9. わからない

##### 問10 あなたは性的マイノリティに関する現在どのような人権上の問題があると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 職場や学校で嫌がらせをされること
2. 性的マイノリティであることで差別的言動を受けること
3. 就職や職場で不利な扱いを受けること
4. アパートなどの住居への入居が難しいこと
5. 店舗などの入店や施設利用を拒否されること
6. じろじろ見られたり、避けられたりすること
7. 性的マイノリティに対する理解が足りないこと
8. 同性パートナーが病院などで家族として認められない場合があること
9. 性的多数派と同様の法的平等性がないこと
10. その他 ( )
11. わからない

問 11 次にあげる(ア)～(ク)の項目について、人権侵害にあたると思いますか。項目ごとにあなたの考えに最も近いものを選んでください。((ア)～(ク)のそれぞれ○は1つ)

（項目ごとに横に見てお答えください）	人権侵害にあたる	いえない	一概には	いちがい	人権侵害にあたらない	わからぬ
(ア) インターネットの匿名性を利用して、普段は言えない他人への悪口を言われてしまうこと	1	2	3	4		
(イ) 過去に罪を犯して刑を終えて出所した人が、それを理由に就職を断られること	1	2	3	4		
(ウ) 犯罪の被害者やその家族が誹謗中傷を受けて、平穏な生活が送れないこと	1	2	3	4		
(エ) ホームレスの人たちが蔑視されたり、嫌がらせを受けたりすること	1	2	3	4		
(オ) 女性や子どもをはじめとした弱い立場にある人が暴力や脅迫、誘拐、詐欺などによって売春や性的なサービス、労働など強要されてしまうこと	1	2	3	4		
(カ) 北朝鮮当局による拉致をはじめとする問題	1	2	3	4		
(キ) 感染症やハンセン病の患者・元患者やその家族または医療関係者が差別的な対応をされること	1	2	3	4		
(ク) 震災に起因して偏見や差別を助長するような情報の発信や、不確かな情報で不当に扱われたりすること	1	2	3	4		

遠賀町の人権に関する取組についておたずねします。

問 12 人権問題についての理解を深めるにあたって、どのような方法が有効だと思いますか。

(○は2つまで)

- 町主催の講演会、出前講座の開催
- 啓発映画、ビデオの上映
- ポスター、立て看板、けんすい幕などの掲示
- 広報誌、パンフレット、冊子の作成や配布
- 町のホームページ、SNSで、人権啓発に関する情報などを紹介・掲載
- 人権問題についての資料・図書を充実
- 学校での人権教育の実施
- その他（ ）
- わからない

#### IV 使用した調査票

### だんじょ ちい やくわり 男女の地位・役割についておたずねします。

問 13 つぎ かくぶんや だんじょ ちい びょうどう おも こうもく かんが  
次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。項目ごとにあなたの考え方  
に最も近いものを選んでください。((ア)~(ク)のそれぞれに○は1つ)

こうもく よこ み こた (項目ごとに横に見てお答えください)	だんせい 男性の方が優遇されている	ゆうぐう どちらかといえば男性の方が	びょうどう 平等である	ゆうぐう どちらかといえば女性の方が	じょせい 女性の方が優遇されている	わからぬ
(ア)家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(イ)職場では	1	2	3	4	5	6
(ウ)学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(エ)政治の場では	1	2	3	4	5	6
(オ)地域活動や社会活動の場では	1	2	3	4	5	6
(カ)法律や制度上では	1	2	3	4	5	6
(キ)社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(ク)社会全体でみると	1	2	3	4	5	6

問 14 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたの考え方最も近いものを選んでください。(○は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

かていせいかつ  
家庭生活についておたずねします。

問 15 【現在、配偶者・パートナーと同居している方におたずねします。】

次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。項目ごとに、最もあてはまるものを選んでください。((ア)～(コ)のそれぞれに○は1つ)

（項目ごとに横に見てお答えください）	主に妻がしている	妻がしている	妻と夫が同じ程度	夫がしている	主に夫がしている	その他家族	該当しない
(ア)家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3	4	5	6	7
(イ)料理や食事の支度、片付けなどの家事をする	1	2	3	4	5	6	7
(ウ)掃除や洗濯などの家事をする	1	2	3	4	5	6	7
(エ)日々の家計を管理する	1	2	3	4	5	6	7
(オ)育児、子どものしつけをする	1	2	3	4	5	6	7
(カ)家族（親、祖父母など）の世話や介護をする	1	2	3	4	5	6	7
(キ)自治会やPTA活動などの地域活動に参加する	1	2	3	4	5	6	7
(ク)子どもの教育方針や進学目標を決める	1	2	3	4	5	6	7
(ケ)高額の商品や土地・家屋の購入を決める	1	2	3	4	5	6	7
(コ)家庭の問題における最終的な決定をする	1	2	3	4	5	6	7

しゅうろう はたら かた  
就労・働き方についておたずねします。

問 16 一般的に女性が職業をもつことについて、どう思いますか。（○は1つ）

- ずっと職業をもっている方がよい
- 結婚するまで職業をもち、あとはもたない方がよい
- 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
- 子どもができたら一旦退職し、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 女性は職業をもたない方がよい
- その他（ ）
- わからない

問 16-1 へ

#### IV 使用した調査票

##### 問16-1【問16で「2.」～「5.」のいずれかに答えた方】

そう思うのはどのような理由からですか。(○は2つまで)

1. 女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
2. 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
3. 女性の能力は正当に評価されないから
4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
6. 仕事と家庭を両立するには現在の制度だけでは不十分だから
7. 保育や介護などの施設が整ってないから
8. その他 ( )

##### 問17【現在職業をもっている方におたずねします。】

あなたが現在勤めている職場は、女性にとって働きやすい職場だと思いますか。(○は1つ)

1. 働きやすい
2. どちらかといえば働きやすい
3. どちらかといえば働きにくい
4. 働きにくい

##### 問17-1【問17で「3.」または「4.」と答えた方】

女性にとって働きにくいのはどういう点だと思いますか。(○は3つまで)

1. 募集・採用の機会が少ない
2. 仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない
3. 補助的な業務や雑用が多い
4. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
5. 女性が働くことについて、上司や同僚の認識が低い
6. 能力を正当に評価されない
7. 昇進・昇格に男女格差がある
8. 女性に対する教育訓練機会が少ないため、能力の向上を図りにくい
9. 賃金に男女格差がある
10. 管理職に登用されない
11. 結婚や出産時に退職するなどの慣行がある
12. 中高年女性に退職を促すような圧力がかかる
13. 定年の年齢が男性より低い
14. その他 ( )

問18 育児や介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業を取得できる制度があります。男性がこの制度を活用することについてどう思いますか。（○は1つ）

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

問19 女性の育児休業取得率は80.2%であるのに対し、男性は17.1%（厚生労働省：令和4年度雇用均等基本調査（全国））となっています。男性の8割以上が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思いますか。（○は2つまで）

1. 周囲に取得した男性がいないから
2. 職場に取得しやすい雰囲気がないから
3. 仕事が忙しいから
4. 取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから
5. 取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから
6. 経済的に困るから
7. 育児・介護は女性の方が担うものなので男性が取得する必要はないから
8. その他（ ）
9. わからない

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておたずねします。

問20 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度についておたずねします。

あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。（（ア）、（イ）のそれぞれに○は1つ）

「 <u>仕事</u> 」 を優先	「 <u>家庭生活</u> 」 を優先	「 <u>個人の生活</u> 」 を優先	「 <u>仕事</u> 」と 「 <u>家庭生活</u> 」 を優先	「 <u>仕事</u> 」と 「 <u>個人の生活</u> 」 を優先	「 <u>家庭生活</u> 」と 「 <u>個人の生活</u> 」 を優先	「 <u>個人の生活</u> 」と 「 <u>家庭生活</u> 」 のいずれも優先	わからない	
（項目ごとに横に見てお答えください）								
（ア）実際の生活	1	2	3	4	5	6	7	8
（イ）理想の生活	1	2	3	4	5	6	7	8

※ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）：仕事と、仕事以外の家庭生活（家事・子育て・介護など）、地域活動、個人の趣味や学習などを自らが希望するバランスで生活できること。

#### IV 使用した調査票

### ちいきかつどう しゃかいかつどう さんか 地域活動や社会活動への参加についておたずねします。

問 21 現在、遠賀町の女性役員の割合は下記のとおりとなっています。次のような役職に、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。

((ア)～(オ)のそれぞれに○は1つ)

(項目ごとに横に見てお答えください)	おんがちょう げんじょう※ 遠賀町の現状※		多い方がよい	男性と女性が同じ	男性的よりも女性がよい	少ない方がよい	男性よりも女性がよい	少ない方がよい	現状のままでよい	わからない
	女性数／全人數	全体に占める比率								
(ア)自治会長	2/23	8.7%	1	2	3	4	5			
(イ)公民館長	2/25	8.0%	1	2	3	4	5			
(ウ)子ども育成会長	14/19	73.7%	1	2	3	4	5			
(エ)小・中学校PTA会長	0/5	0.0%	1	2	3	4	5			
(オ)遠賀町の各種審議会などの委員	106/279	38.0%	1	2	3	4	5			

※(ア)～(オ)の現状値は令和5年度実績

問 22 自治会長や公民館長、PTA会長など地域の役職に就くことについておたずねします。

(1) あなたが推薦されたらどうしますか。(○は1つ)

1. 積極的に引き受ける
2. なるべく引き受ける

3. なるべく断る
4. 絶対に断る

→ (2)に答えて  
問 22-1へ

(2) 配偶者・パートナーなどが推薦されたらどうしますか。(○は1つ)

1. 引き受けることをすすめる
2. 断ることをすすめる → 問 22-1へ
3. まかせる

問 22-1 【問 22 の (1) で「3.」または「4.」、あるいは (2) で「2.」と答えた方】

地域の役職や公職を断る(断ることを進める)のは、どのような理由からですか。

(○は2つまで)

1. 責任が重いから
2. 知識や経験の面で不安があるから
3. 時間的な余裕がないから
4. 経済的な余裕がないから
5. 家族の同意が得られないから

6. 人間関係がわづらわしいから
7. 性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
8. こうした役職に興味がないから
9. その他( )

ぼうさいたいさく  
防災対策についておたずねします。

問 23 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思うことは何ですか。

(○は3つまで)

1. 避難所の設備 (男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場など)
2. 避難所運営責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対策に男女両方の視点が入ること
3. 女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
4. 災害時の救急医療体制 (妊産婦へのサポート体制など)
5. 被災者に対する相談体制
6. 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること
7. 防災会議などに男女がともに参画し、地域防災計画に男女両方の視点が入ること
8. その他 ( )
9. 特に必要とは思わない

DVについておたずねします。

問 24 次のようなことが配偶者・パートナーや恋人との間で行われた場合、それは暴力だと思いま  
すか。項目ごとに、あてはまるものを選んでください。((ア)～(サ)のそれぞれに○は1つ)

(項目ごとに横に見てお答えください)	暴力にあたる	どんな場合も	暴力によつては	あたらない	わからない
(ア) 平手でたたいたり、足でけったりする	1	2	3	4	
(イ) 物を投げつける	1	2	3	4	
(ウ) 大声でどなる	1	2	3	4	
(エ) 何を言っても無視する	1	2	3	4	
(オ) 携帯電話のメールや着信をチェックする	1	2	3	4	
(カ) 外出を制限する	1	2	3	4	
(キ) 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする	1	2	3	4	
(ク) 「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く	1	2	3	4	
(ケ) 生活費を渡さない	1	2	3	4	
(コ) 嫌がっているのに性行為を強要する	1	2	3	4	
(サ) 避妊に協力しない	1	2	3	4	

#### IV 使用した調査票

問 25 この3年間のうちに、あなたは配偶者・パートナー、恋人から次のようなことをされたことがありますか。項目ごとに、あてはまるものを選んでください。((ア)～(サ)のそれぞれに○は1つ)

（項目ごとに横に見てお答えください）	1・2度あった	何度もあった	まったくない
(ア) 平手でたたいたり、足でけったりする	1	2	3
(イ) 物を投げつける	1	2	3
(ウ) 大声でどなる	1	2	3
(エ) 何を言っても無視する	1	2	3
(オ) 携帯電話のメールや着信をチェックする	1	2	3
(カ) 外出を制限する	1	2	3
(キ) 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする	1	2	3
(ク) 「誰のおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く	1	2	3
(ケ) 生活費を渡さない	1	2	3
(コ) 嫌がっているのに性行為を強要する	1	2	3
(サ) 避妊に協力しない	1	2	3



問 25-1 【問 25 で(ア)から(サ)のうち、1つでも「1・2度あった」、「何度もあった」と答えた方】  
あなたが受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 町の相談窓口に相談した
2. 警察に連絡・相談した
3. 県配偶者暴力相談支援センターに相談した
4. その他の公的な機関に相談した
5. 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
6. 医療関係者（医師、看護師など）に相談した
7. 家族や親せきに相談した
8. 友人・知人に相談した
9. その他（ ）
10. どこ（誰）にも相談しなかった → 問 25-2 へ

## 問25-2【問25-1で「10. どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方】

どこ（誰）にも相談しなかったのは、どのような理由からですか。（○はいくつでも）

1. どこ（誰）にしてよいかわからなかつたから
2. 耻ずかしくて誰にも言えなかつたから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやつていけると思ったから
8. 世間体が悪いと思ったから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができないと思ったから
11. そのことについて思い出したくなかったから
12. 自分にも悪いところがあると思ったから
13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14. 相談するほどのことではないと思ったから
15. その他（ ）

だんじょきょうどうさんかくしゃかい  
男女共同参画社会についておたずねします。

## 問26 男女共同参画社会を実現するために、遠賀町に対してどのような施策を望みますか。

（○は3つまで）

1. 男女共同参画に関する研修や啓発講座を充実させる
2. 就労を支援するための講座を充実させる
3. 審議会や委員会など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する
4. 情報提供や交流、学習の場を提供する
5. 男女共同参画に関わるリーダーの養成など、人材育成を推進する
6. 学校教育において男女共同参画教育を充実させる
7. 保育所や学童保育などの施設の整備や子育て支援サービスを充実させる
8. 介護に関する施設の整備や介護支援サービスを充実させる
9. ひとり親家庭に対する支援や福祉制度を充実させる
10. 育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進める
11. DVに関する相談窓口や被害者のための支援を充実させる
12. 自治会など、地域コミュニティ活動において男女共同参画を推進する
13. その他（ ）
14. 特に望むものはない

#### IV 使用した調査票

問 27 次の言葉や施策について、どの程度知っていますか。項目ごとに、あてはまるものを選んでください。((ア)～(ケ)のそれぞれに○は1つ)

こうもくよこみこた (項目ごとに横に見てお答えください)		ないよう 内容を知って いる	き 聞いたことは あるが内容は し知らない	き 聞いたことも ない
言葉 ことば	(ア)男女共同参画社会	1	2	3
	(イ)デートDV	1	2	3
法律 ほうりつ	(ウ)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護 などに関する法律(DV防止法)	1	2	3
	(エ)女性の職業生活における活躍の推進に 関する法律(女性活躍推進法)	1	2	3
条例 じょうれい ・町の まち 施策 しきさく	(オ)遠賀町男女共同参画推進条例	1	2	3
	(カ)遠賀町男女共同参画社会推進計画	1	2	3
	(キ)遠賀町男女共同参画推進研修参加補助金 制度(※1)	1	2	3
	(ク)遠賀町女性人材バンク(※2)	1	2	3
	(ケ)遠賀町男女共同参画推進事業者登録制度 (※3)	1	2	3

※1 県内で開催される男女共同参画に関する研修に参加する人へ交通費を補助する制度

※2 女性を積極的・計画的に審議会等の委員に登用するための人材バンク

※3 男女が働きやすい職場環境の整備を積極的に推進している町内の事業者を登録し紹介する制度

◎人権や男女共同参画に関することで何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

しつもん いじょう きょうりょく  
質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

きにゅう いちど かくにん どうふう へんしんようふうとう い ふう  
記入もれがないか、もう一度ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れ、封をして、  
きつて は がつ にち げつ とうかん  
切手を貼らずに6月24日(月)までにポストにご投函ください。

# 遠賀町男女共同参画に関する町民意識調査報告書

令和6年10月

---

発 行 福岡県遠賀町  
企画・編集 住民課**協働人権係**

〒811-4392  
福岡県遠賀郡遠賀町大字今古賀 513 番地  
TEL 093 (293) 1242  
FAX 093 (293) 0806

---